

みのかも文化の森
年報

Vol.25
2024年度

みのかも文化の森 年報

Vol.25

2024 年度

「地域に向き合うということ」

2022 年 4 月に博物館法が改正され、2023 年度から施行されました。博物館に求められる役割が近年多様化・高度化していることが背景となり、法律の目的や博物館の事業、登録の要件などが大幅に見直されました。

改正に関連して、文化審議会の中に初めて「博物館部会」ができ、これからの時代にふさわしい博物館の在り方が 3 年間にわたり議論されました。美濃加茂市民ミュージアムの設置者である美濃加茂市長も全国の「地域博物館」を代表する立場で、委員の一人として参加しました。その部会をとおり「守り、受け継ぐ」「わかち合う」「育む」「つなぐ、向き合う」「営む」という 5 つの視点が提示されました。この方向性は、まさにみのかも文化の森・美濃加茂市民ミュージアムにもあてはまることです。また、今回の法改正で初めて「地域」という文言が条文にはいりました。

今回の法改正を機に、地域文化の蓄積と継承を大事にすること、地域的課題に向き合うことなど「社会的役割」を意識し、時代に応じた新たな観点を取り入れて次に進んでいきたいと考えます。

目次

□はじめに	
□ミュージアム カレンダー	1
□理念と基本方針	2
□展示事業	
・常設展示室の方向性と考え方	6
・企画展	
新収蔵記念「本陣の品々」	7
市制施行 70 周年記念 みのかもで収蔵している資料たち 展	15
美濃加茂市制 70 周年記念展 未来に繋ぐみのかもの 70 年 展	24
芸術と自然	
美濃加茂市民ミュージアムの現代美術レジデンスプログラムを振り返る	40
・収蔵品展とそのほか	
民具展示館・生活体験館	
蚕とまゆ展	47
ていねいな暮らしと道具展 言い伝えのお話と道具	47
美術工芸展示室	
特集展示 美濃加茂の美術指導者たち	47
・その他の展示活動	
みのかも annual2024 ーでもそこに自分はいるー	48
広報みのかも連載コラム紹介展「みのかもの山、望む山」	48
特別展「濃尾震災を考える日」	48
第 69 回美濃加茂市美術展	48
□各種講座・ミュージアムイベント	
・年中行事	49
・各種講座	49
・森の朗読会	53
・博学連携フォーラム	53
□学校活用	
・みのかも文化の森 学校活用の考え方と目指すこと	54
・学校活用	55
・全学習内容	56
□収集・保存・整理・調査・その他	
・資料収集	60
・資料燻蒸	64
・整理調査及び研究	65
・外部でおこなった発表・報告など	66
・ミュージアムレファレンスの結果	67
・博物館実習	68
・刊行物等	69
・収蔵資料の公開と活用	69
・連携	69
・報道関係に掲載・紹介された状況	70
・ミュージアムニュースによる情報提供	70
□施設の利用状況	71
□組織・構成・その他	72
□森のアンケート 集計	74
□施設概要・利用案内	76
□みのかも文化の森のこれまで	78

土日祝 ☐ 休館日
 ▲四季を食べる講座 ▲アートな1日講座 ▲ていねいな暮らし講座 ▲まゆの家年中行事
 ▲自然観察会 ▲朗読 ▲夏休み子ども講座 ▲ふらっとみゆーじあむ ▲その他

— 1 —

理念と基本方針【みのかも文化の森ビジョン策定】

□ビジョン策定の趣旨

みのかも文化の森・市民ミュージアムは開館してから20年が経ち、これを機に今までの取り組みを振り返るとともに、「この博物館がこのまちにあってよかった」、「ちょっと誇りに感じる」と思ってもらえるような地域博物館になるにはどうしたらよいか、市民の皆さんと「協働」していかに活動をしていくか、森や施設を活用した事業をどのように展開していくかなど、博物館運営をしていく上での方向性をここで示す必要があると考えました。博物館としての機能や役割を整理し、理念や方針に基づいた今後のあり方や将来像を明らかにし、現代的課題もみすえたこれからの取り組みなどを提示して、新たなビジョンとします。

□理念

「さまざまな地域資源が活かされ、ここで自由で深まりのある文化活動と多様な交流が行われるよう願っています。人々の「くらしの一部」として利用され続けるとともに、まちや社会にとって必要とされる場になることをめざします。」が、みのかも文化の森の理念・使命（ミッション）です。

□活動の方針

理念に基づき、次の4つを基本的な方針として活動を展開しています。

①自然との共存

豊かな里山や森のたたずまいをたっぷり「体感」できる場でありたいと思います。身近な自然や生態系から学ぶことの大切さを知り、くらしの豊かさを考える場とします。

②学校教育との連携

ミュージアムの様々なモノやコトをいかした、感動と深まりのある学びができる場とします。さらに子どもが将来にわたり幅広く知的好奇心を持ち続けられるよう支援します。

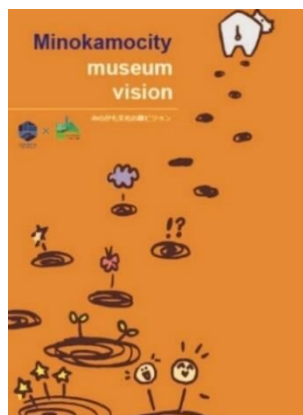
③市民のちから

市民の自由な発想と自発的な動きを活かした取り組みや企画は、新しい力や可能性となって次へつながっていきます。協働する市民の力を大切にします。

④地域の交流拠点

「博物館」や「教育・文化」という枠にとらわれることなく、地域の資源を活かした人々の交流がさかんになり、地域のハブやよりどころとして必要とされる場としての活動を進めます。

策定したビジョンは、次のような小冊子としてまとめました。



目次	・ビジョン策定の趣旨
	・文化の森の使命・将来像
	・文化の森設立当時の思い・願い
	・これまでの取り組み
	・枠にとらわれない取り組み
	・文化の森の機能と役割
	・これからの視点
	・課題をみすえた取り組み
	・機能と役割に関する検証とふりかえり

主な内容について次のように紹介します。

○ビジョンの位置づけ

このビジョンは、第6次総合計画に沿った内容であり、本市の博物館運営を推進していくためのものと位置づけ、本市のまちづくりの基本理念である「みのかも市民憲章」を尊重するものとします。

また、ビジョンに掲げた使命・将来像の実現に向け、長寿命化計画に基づき施設の計画的な更新も行っていきます。

○ビジョン期間

文化の振興は、その成果が現れるまでに比較的長い期間を要し中長期的視点に立って取り組みを進めることが重要になります。

ビジョンの期間は、令和3年度を初年度とし、令和12年度までの10年間とします。

なお、社会情勢の変化によって適時修正等を行うとともに、毎年、各種施策等の進捗状況を把握し、ビジョンの評価・検証作業を行います。

○文化の森が目指す将来像

ひとにとって「心のよりどころ」

一つ目は、ひとにとって「心のよりどころ」となる森です。

- 暮らしに刺激や潤い、「心の健康」をもたらす学びの場
- 日常生活にゆったりと溶け込み、次への行動のきっかけとなっていく場
- 地域の良さを知り愛着（シビックプライド）をさらに高めていく場

まちにとって「地域のよりどころ」

二つ目は、まちにとって「地域のよりどころ」となる森です。

- 地域資源を調べ、整える場
- 地域の課題を共有し、さらに良くするために考える場
- 人と地域社会をつなぐ、「ハブ」としての場

○課題をみすえた取り組み

皆さんの「くらしの一部」として利用され続けるとともに、まちや社会にとって必要とされる場として、今後、留意して取り組むべきことは次のとおりです。

短期的取り組み—

- 収集調査など基盤的活動及び地域資源データベースの充実
- 「気づき」と「築き」が起きる常設展示室の充実
- まちの特性や「いいところ」を共有し、深めていくさまざまなプログラムの充実
- 乳幼児や中高生、在住外国人など関わりが少ない年代層への取り組み
- 回想法などを用いた高齢者の元気につながるプログラムの展開
- ボランティアを中心とした市民団体との協働プログラムの充実と組織の強化
- 学校活用における子どもたちの心の変容につながるプログラムの改良

- ホームページや SNS を通した広報活動の積極的な展開、地域のよさを知り実際に現地へ行ってもらうためのスタートの場としての展開
- 防災教育としての場の展開

中長期的取り組みー

- 知的な心地よさを感じられるための施設整備
- 地域課題解決に向けた地域との連携・協働
- 地域の情報を集約し発信するための施設整備
- エコミュージアム（市全体が博物館）の概念に基づいた事業展開
- 立地の良さを活かした博物館の有効活用
- 「NEW NORMAL 新たな日常」の中での博物館の在り方
- 社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）にもとづいた事業展開

※社会的包摂…「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念

- SDGs の実現に向けた博物館の取り組みの推進
- 第6次総合計画及び「健康プラス（＋）ライン」に基づく事業展開
- 持続的な博物館運営を支える財政基盤の確立や人材の確保
- 公共施設等総合管理計画及び長寿命化計画に基づく施設整備

○指標

毎年度、理念と方針をベースにした役割と取り組みについて検証するとともに、中項目、具体的評価指標を設け、ふりかえりを行うこととします。

【大項目】

- 資料・作品の収集・保存、活用
- 資料・作品の整理調査研究
- 展示活動
- 学習機会の提供、団体の支援
- 市民参画
- 学校との連携
- 人物を活かした活動
- 情報の公開と発信
- 利用しやすく魅力ある施設
- 課題をみずえた取り組み

※中項目・具体的評価指標等については省略します。

□美濃加茂市という「まち」の今後に関する役割

合併後、美濃加茂市は70年が経過し、より成熟したまちになっていくには、まち特有のオリジナルなものをどれだけ活用し、アイデンティティとして表現できるのか、そして一つ一つのことがらをどれだけ深まりをもったものにするのかが問われています。文化の森は、「より深まりのあるまち」になるための重要な役割があると考えます。そのために、将来を見据えてたえず検証を重ねながら地道に活動をすすめていきます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○目指す森のイメージ

ビジョンの策定と同時に、みのかも文化の森の「森」により親しんでいただけるよう、そのイメージを言葉にしました。

森の中の散策路「逍遙こみち」はこの考え方をもとに令和３年度以降から整えていきます。

「想いをめぐらし、はじまる森」

文化の森は、この地を作り上げている自然、歴史や文化、そしてアートなどいろいろなものを提供しています。しかし、何も一つの答えを用意しているわけではありません。五感を駆使して好奇心をふくらませ、気分を楽にして自由に思いを描ける場です。「博物館」といった枠にとらわれず、日々の暮らしに潤いをもたらし、地域のよさを発見する、ひろがりや繋がりやの出発点として、人々に身近な森であり続けることを目指します。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「森と ともに ゆるやかに」

時間がせわしくなく過ぎるこの時代に
さわやかな森の空気を感じながら
学ぶこと 遊ぶこと 何かを表現すること。
日常にちょっぴりの豊かさをえられる場所。
みのかも文化の森は そんな場所として
ゆるやかにあり続けたいと願っています。

【文化の森正面玄関にある看板から】



▲文化の森ビジョン小冊子裏表紙

【２０２０年度策定】

展示事業 常設展示室の方向性と考え方

みのかも文化の森・市民ミュージアムは、開館 20 年目を迎えて、館としての今後の方針を踏まえ、常設展示室をより存在感のあるものにするために、展示の改善を行いました。全面的に展示品を入れ替えたり、大型のジオラマを変えたりするなど、いわゆる「リニューアル」という形ではありません。

ここで改めて原点に立ち返り、展示されているリアルな資料・標本・記録に来場者がじっくり向き合い、それらが語ることを感じたり考えたりする場にしたいと考えます。多面的な観点を提示しながら来場者にとっての、新たな「気づき」と「築き」が起きる展示室を目指します。

美濃加茂市内には歴史や文化を物語る数多くの文化財や地域資源が残されています。そして市民ミュージアムには、様々な分野の膨大な資料が収蔵されています。展示・紹介される資料は、そのほんの一部ですが、より身近なこととして伝わるよう工夫し、来場者がこの地のよさや奥深さを考え、まちの再認識や誇りにつながっていく展示室を目指します。

留意点は次の 3 点です。

①モノから、さらなる好奇心へ繋げる

展示資料は様々な情報を持っています。それらを知識として「教える」のではなく、その人なりに感じたり、気づいたりしてもらえよう自由な学びの場となるよう工夫をします。「きっかけ」と「ふかまり」そして「ゆらぎ」の空間です。

②モノから、人の思いへ繋げる

展示資料には、必ず人が何らかの形で関わっています。資料から、それを見つけ出した人、作った人、使っていたひと、考え関わった人などを感じさせる、その状況に思いを馳せるような展示を考えます。

③モノから、現地やフィールドに繋げる

展示資料は、最初から展示室にあったわけではありません。もともとは、ある場所にあったものやその場所で起きたことを、ここに移動し展示しているに過ぎないのです。実際に森の中や現地を訪れ、その空間とともに事柄を感じてもらえる、いざないの場となるよう試みます。

< 展示室入口に来館者に向けて作成したパネル (2020 年 10 月 1 日作成) >

ようこそ「常設展示室」へ

「常設展示室」って、なんか難しそうな名前ですが、ここはこの地域の良さや奥深さをみなさんと共有する場です。気持ちを楽にして室内を自由に巡ってください。

ならべてあるもののほとんどが本物・実物です。存在感のあるリアルな展示品から「何か」をそれぞれで感じていただきたいと思います。バーチャルなものからは得られない世界をお楽しみください。

展示品のそばには関連する説明文などが添えてありますが、それらは何かを覚えてもらうために置いてあるわけではありません。みなさんの興味関心を深めてもらうためのちょっとしたお手伝いにしか過ぎません。まずは、展示をじっくりと見ていただき、何か一つでも「なぜかな」「この次の展開は？」とか「これを作った人はどんな人だろう」などと、好奇心をふくらませ、展示品の「向こうの世界」に思いを巡らせてもらえたらうれしく思います。さらに、展示を閲覧になったあとに「今度こうしてみよう」「現地を訪れてみたい」などと、みなさんの日々の暮らしの発想やこの地に住む楽しさに繋げていただければ最高です。次へのスタートの展示室です。

展示室はコミュニケーションの場でもあります。つぶやいてください。大声でなければ、会話をしてもらっても構いません。また、お聞きになりたいことがあれば、総合案内をとおして遠慮なく学芸員に声をかけてください。

また、「常設」といっても、展示品などの内容は機会のあるごとに変化、充実させていく予定です。

この展示室が、みなさんの心に響き、記憶に残る場となることを心から願っています。

常設展示室 20 年目の「模様替え」にあたり

2020 年 10 月 美濃加茂市民ミュージアム

新収蔵記念 「本陣の品々」

会 期：2024 年 7 月 13 日（土）～8 月 25 日（日） 〈38 日間〉

会 場：企画展示室

観 覧 料：無料

展示点数：71 件 75 点

入場者数：1,878 人



【内容】

江戸時代に日本橋から京都までをつないだ中山道。中山道には草津・大津を含めて 69 の宿駅があり、現在の美濃加茂市太田本町には 51 番目の宿である太田宿がありました。宿場は街道の要所要所に設けられ、休憩・宿泊のための施設や、荷物や手紙の運送に関わる施設がおかれていました。宿場に置かれた宿泊施設のなかでも、諸大名や公家、幕府の役人といった身分の高い人々が宿泊するための施設は本陣や脇本陣と呼ばれ、宿場の中でも最も重要な施設とみなされます。18 世紀後半、太田宿の本陣は宿の中心である中町という地区におかれ、福田次郎右衛門という人物が務めていました。福田家は代々太田宿の本陣を世襲した家柄で、庄屋も兼ねるなど太田村の村政に深く関わっていました。

当館では、2022 年度に太田宿本陣の資料が収蔵品に加われました。今回の展覧会は、新収蔵記念としてその資料のうち主なものを選びすぐってご紹介するものです。太田宿本陣の資料を通して福田家と尾張藩の関係や福田家がこの地域で果たした役割を考えます。

また、この展覧会は美濃加茂市と文化交流協定を結んでいる早稲田大学との共催展として開催します。早稲田大学本庄キャンパスのある埼玉県本庄市にはかつて本庄宿がありました。本庄宿は中山道の 10 番目の宿場であり、太田宿と同じく山間部と平野部が行き来する立地にありました。展覧会では、本庄宿の資料から当時の宿場の様相を知り、太田宿の資料と合わせて本陣の姿に迫ります。

【関連事業】

□講演会「太田宿本陣の古文書を読みとく」

太田宿本陣の古文書を読みとくしながら太田宿本陣福田家の活動についてお話しいただきました。

7 月 21 日（日）14:00～15:30 参加者：45 人

講 師：神谷智氏（愛知大学文学部教授）

参加料：無料

会 場：みのかも文化の森 研修室、企画展示室

□ミュージアムトーク① 本庄宿を中心に

本庄市の秋山寛行学芸員をお招きし、本庄宿に関する資料を中心に展示室をご案内しました。

8 月 1 日（木） ①11:30～12:30 参加者：21 人 ②14:00～15:00 参加者：20 人

講 師：秋山寛行氏（本庄市学芸員）

参加料：無料

会 場：みのかも文化の森 企画展示室

□ミュージアムトーク② 太田宿本陣資料を中心に

担当学芸員が展示室をご案内しました。

8月10日（土） ①10：00～11：00 参加者：10人 ②13：30～14：30 参加者：20人

参加料：無料

会 場：みのかも文化の森 企画展示室

【刊行物・ミュージアムグッズ】

展示図録 A4判 8ページ 販売価格 200円

【展示品】

No	資料名	年代	サイズ(cm)	所蔵
1 中山道と宿場				
1	大日本道中細見絵図(部分)〔写真〕	天保14(1843)年	－	早稲田大学図書館蔵
2	古今東京名所 日本橋大名の行烈〔写真〕	明治17(1884)年	－	早稲田大学図書館蔵
3	『岐蘇名所図会 初篇』(部分)〔写真〕	嘉永期	－	早稲田大学図書館蔵
4	武家諸法度(部分)〔写真〕	天和3(1683)年7月25日	－	早稲田大学図書館蔵
5	北条氏伝馬手形〔写真〕	天正11(1583)年7月28日	－	早稲田大学図書館蔵
6	中山道記録(部分)〔写真〕	文久3(1863)年9月	－	早稲田大学図書館蔵
7	『中山道分間延絵図 第四巻』	昭和53(1978)年発行	－	館蔵
8	『中山道分間延絵図 第十六巻』	昭和57(1982)年発行	－	館蔵
2 太田宿の本陣				
9	椀を入れる木箱	江戸時代	47.0×47.0×27.0	館蔵
10	什物簿	明治時代	26.2×18.5	館蔵
11	葡萄文蒔絵椀	江戸時代	高さ：8.0 径：12.0	館蔵
12	朱塗若松・鶴文蒔絵吸物椀	江戸時代	高さ：8.9 径：9.3	館蔵
13	四つ目菱紋五段重箱	明治時代	21.3×22.8×33.0	館蔵
14	丸に違鷹羽紋・丸に井桁紋蒔絵食籠	江戸時代中期	高さ：31.0 直径：36.0	館蔵
15	丸に四つ目菱紋蒔絵陣笠	江戸時代	36.0×38.0×8.0	館蔵
16	「由緒書」	万延元(1860)年9月	24.7×17.0	館蔵
17	尾州札	江戸時代	27.7×6.5×1.0	館蔵
18	福田太郎八肖像画	年代不詳	188.4×47.8	館蔵
19	行灯	江戸時代	高さ：82.2 径：31.8	館蔵
20	三十二間筋兜 伝武田耕雲斎所用	年代不詳	34.0×38.0×17	館蔵
21	三葉葵紋蒔絵硯箱	江戸時代後期	24.6×20.6×4.5	館蔵
22	御深井焼三島写文字入茶碗	年代不詳	高さ：7.5 径：12.0	館蔵
23	松竹梅文蒔絵五段重箱	江戸時代	23.4×24.3×43.8	館蔵
24	宗和膳	江戸時代	32.0×32.0×12.9	館蔵
25	太本字入飯椀	江戸時代	高さ：9.4 径：12.5	館蔵
26	太本字入汁椀	江戸時代	高さ：8.6 径：11.6	館蔵
27	太本字入平椀	江戸時代	高さ：7.3 径：12.1	館蔵
28	坪椀	江戸時代	高さ：8.5 径：9.8	館蔵
29	手塩皿	江戸時代	高さ：2.4 径：10.3	館蔵

30	宗和膳	江戸時代	27.6×27.8×6.2	館蔵
31	松竹梅蒔絵吸物椀	江戸時代後期～明治時代 初期	高さ：5.2 径：9.3	館蔵
32	波に千鳥文沈金手塩皿	江戸時代後期～明治時代 初期	高さ：3.0 径：10.5	館蔵
33	九谷焼竹に人物文皿	江戸時代	高さ：2.5 径：11.4	館蔵
34	色絵獅子文向付	江戸時代後期～明治時代 初期	高さ：6.4 径：8.3	館蔵
35	犬山焼赤絵福寿字入蓋付碗	江戸時代後期～明治時代 初期	高さ：8.3 径：10.5	館蔵
36	染付雲鶴文向付	江戸時代後期～明治時代 初期	高さ：7.1 径：9.8	館蔵
37	九谷焼金襴手花文徳利	江戸時代末期～明治初期	高さ：16.4 径：7.2	館蔵
38	色絵芙蓉手花籠文皿	明治時代	高さ：3.0 径：15.5	館蔵
39	行灯	江戸時代	24.0×24.2×91.6	館蔵
40	燭台	江戸時代	高さ：70.0 径：26.8	館蔵
41	行灯	江戸時代	23.6×23.6×36.8	館蔵
42	銭箱	江戸時代後期～明治時代 初期	38.4×27.4×27.0	館蔵
43	算盤	江戸時代後期～明治時代 初期	13.0×77.6×4.0	館蔵
44	桶	江戸時代後期～明治時代 初期	高さ：21.6 径：20.8	館蔵
45	火鉢	江戸時代後期～明治時代 初期	高さ：21.6 径：29.8	館蔵
46	薬研	江戸時代後期～明治時代 初期	34.2×13.2×13.1	館蔵
47	蘭引	江戸時代後期～明治時代 初期	高さ：30.4 径：13.8	館蔵
48	一斗マス	明治時代	35.4×35.2×24.5	館蔵
49	岡持ち	江戸時代後期～明治時代 初期	29.6×29.6×34.2	館蔵
50	鍋	江戸時代	高さ：15.4 径：38.0	館蔵
51	キリダメ	江戸時代～明治時代初期 ごろか	本体：33.6×27.4× 13.0 蓋：36.4×30.2×3.8	館蔵
3 本庄宿の本陣				
52	本庄宿絵図	文久元(1861)年	27.6×61.0	本庄市蔵
53	中山道絵図本庄宿	文政11(1828)年 (明治27(1894)年写)	40.4×249.0	本庄市蔵
54	松大鷹図	江戸時代中期	184.0×46.2	本庄市蔵
55	休泊控帳 長谷川平蔵通行記事〔複製〕	安永2(1773)年7月10日	15.4×41.6×75.4	個人蔵
56	休泊控帳 加賀前田家記事〔複製〕	天保13(1842)年3月19日	－	個人蔵
57	休泊控帳 尾張徳川家記事〔複製〕	文化12(1815)年5月22日	－	個人蔵
58	関札	(安永7(1860)年)5月11日	85.0×32.0×2.0	本庄市蔵
59	「本庄宿並助郷村々誓詞一件」	天保7(1836)年	17.4×24.4	本庄市蔵
4 太田宿の本陣を訪れた人々				
60	「御本陣 福田次郎右衛門屋敷図」〔複製〕	江戸時代	42.8×30.5	個人蔵
61	「和宮様御参幸御行列諸役お役人付」	文久元(1861)年	35.6×91.0	館蔵

62	休泊控帳(複製) 和宮宿泊記事	文久元年(1861)11月11日	15.4×41.6×75.4	個人蔵
63	撥形枕	江戸時代後期	9.4×19.0×16.0他	館蔵
64	麻葉繫地蝶文柄鏡	江戸時代後期～明治時代 初期	長さ:34.0 径:23.8	館蔵
65	柄鏡	江戸時代後期～明治時代 初期	長さ:33.6 径:24.0	館蔵
66	鏡巢	江戸時代後期～明治時代 初期	長さ:34.2 高さ:4.7 径:30.2	館蔵
67	色絵牡丹文大皿	江戸時代	高さ:5.0 径:38.8	館蔵
5 村々との関わり				
68	「勤功書」	万延元(1860)年9月	24.2×16.7	館蔵
69	太田村・上蜂屋村取替証文絵図	元治元(1864)年	38.0×80.0	館蔵
70	太田村・上蜂屋村取替証文	元治元(1864)年	32.0×373.0	館蔵
71	提灯箱	江戸時代	13.0×30.8×31.5	館蔵

【参考】

本展覧会は2022年度に太田宿本陣関連資料270件余が新たに収蔵品に加わったことを記念して開催されたものである。展示した本陣資料は50件であったが、本陣への拝領品、休泊者を迎えるための調度品、本陣家の活動を記録した古文書類、本陣家にまつわる資料など、太田宿本陣関連資料を網羅的に展示できたと思われる。

展示にあたり、美濃加茂市民ミュージアム所蔵の文書の翻刻等については、神谷智氏（愛知大学教授）に、什物類などの太田宿本陣資料の解説については、原史彦氏（名古屋城調査研究センター）にご指導、ご協力を賜った。

また、本展は早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業の一環として、早稲田大学および、同大学の本庄キャンパスがある埼玉県本庄市との共催展として開催された。資料調査や打ち合わせを関係者で複数回にわたって行い、資料について理解を深め、担当者同士で展示内容のすり合わせを行った。本庄宿には文字で記録された資料が多く残されている一方、太田宿には調度品などの実物資料が多く残されているという特徴があったため、両宿場の本陣を比較するのではなく、それぞれの資料を紹介することで本陣という施設をイメージしやすくなるよう展示資料を選定した。展覧会の解説文は、中山道全般について紹介した第一章を児玉憲治氏（早稲田大学非常勤講師）に、第三章を中心に本庄宿に関する部分を秋山寛行氏（本庄早稲田の杜ミュージアム学芸員）に、そのほか太田宿に関する部分を当ミュージアム学芸員が執筆した。分担して執筆したことで、それぞれの資料についてより詳しく紹介することができたと思われる。

本展覧会の後、2024年10月12日から2025年1月13日にかけて早稲田大学本庄キャンパス内にある本庄早稲田の杜ミュージアムでは、企画展「中山道と本陣ー本庄宿と太田宿ー」が開催され、「本陣の品々」でも展示した資料の一部が展示された。そのほか、2024年12月9日から20日にかけて、早稲田大学内のワセダギャラリーにてパネル展「中山道と本陣」が行われ、当ミュージアムで開催した「本陣の品々」および本庄早稲田の杜ミュージアムで開催した「中山道と本陣ー本庄宿と太田宿ー」の内容をパネルで紹介した。太田宿本陣資料や江戸時代の宿場を支えた本陣という施設に関して、多くの方に知っていただくきっかけになったのではないかと考えられる。



〔企画展示室入口〕



〔企画展示室①〕



〔企画展示室ウォールケース〕



〔企画展示室②〕



〔講演会「太田宿本陣の古文書を読みとく」〕



〔ミュージアムトーク① 本庄宿を中心に〕

【アンケート結果】(全 173 枚)

選択設問から

① 展示の資料・作品の見やすさ（配置、明るさ、空間など）にご満足頂けましたか？

・満足	73
・ほぼ満足	81
・ふつう	17
・やや不満	1
・不満	0
計	172

② 展示の資料・作品の分かりやすさ（解説、説明、パネルなど）にご満足頂けましたか？

・満足	73
・ほぼ満足	81
・ふつう	17
・やや不満	1
・不満	0
計	172

③ 展示の資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られましたか？

・満足	73
・ほぼ満足	74
・ふつう	25
・やや不満	1
・不満	0
計	173

④ この展示を他の人に伝え、来館を勧めたいと思いますか？

・大いに	90
・少し	62
・どちらともいえない	18
・あまりすすめたくない	0
・すすめたくない	0
計	170

自由記述から

・中山道太田宿会館を訪れた時、丁度市民ミュージアムで「本陣の品々」展の初日でした。本庄市に友人がいるので興味がありました。

・本庄の学芸員さんのせつめいがよかった。

・学芸員の方の分かりやすい説明を受け、とてもわかり、楽しく見学ができました。

・展示会等もっと皆さん分かりやすく訴えていただきたいです。

・渡し船の運行が休止される「川留」により人々の交流があつたり、何かが生まれていたことが災い転じて…み

たいで面白いなあと思いました。現代でも何か「川留」はないかな。可児市出身の母が、土田から渡し船に乗って太田に買物に来ていたと言っていました。あんどん、素敵です。欲しいなあ。今日は1/3 位しっかり見ました。また来ます。

・私は昔のものが好きなのでよかったです。

・広報で知りましたが、もう少し他の所でもポスターなどはって知らせていただけると良いと思います。

・太田宿について初めて知りました。

・毛筆が読めないもので、よく分かりませんでした。録音テープ方式があればよく分かったと思います。

・展示品に説明を記載したパネルが添えてあり、理解の助けとなった。展示品がガラスケースの中に収納されきれいに保管されており、必要な処置とは思いますが、一方、パネルもガラスケースの中に併せて設置されていたため、読み難いと感じました。パネルの設置はガラスケースの外であっても良かったのではと思います。丁寧な説明があり、江戸時代の雰囲気に触れることが出来ました。感謝いたします。

・部分的に細かすぎて見にくい所あり。

・太田宿、本陣の役割やその当時を展示してある品々から、思いを馳せることが出来、とてもよかったです。また友人を誘ってきたいと思いました。

・太田宿本陣の品物の美しさと保存状態の良さに驚きました。本庄の資料も大変興味深く、「長谷川平蔵」の名を発見して改めて実在の人物なんだと思いました。

・すばらしかったです。天狗党のカブトは、初めて生で見ました。

・自分自身勉強不足で…。感動はしました。

・岐阜県にある中山道宿の歴史的な意義が分かりました。ずっと今後にも伝え、また新しい発見がある事を願っています。江戸時代は平和で人々の生活も発達した時代だったのですね。太田にも力のある福田家のような庄屋があり文化が進んでいたことがわかりました。

・ふる里の太田を離れて 40 年くらいになりますが、改めて中山道・本陣の歴史を学ぶことが出来、たいへん有意義でした。太田町中町出身です。

・できれば随時学芸員（でなくても良いが）の口頭での解説があるととても良い。黙ってパネルを読むだけでは難しすぎる。

・ふらっと立ち寄っただけでしたがとても興味のわく展示品があり大まんぞくでした！

・どうしてもっと来館されないか。こんな大切な物、もっと皆が知る必要がある。

・脇本陣の展示もあつたらと思った。

・本陣の役割の再確認。

・太田宿のあたりを歩いたことがあり、思いだせておもしろかった。

・今まで地元で長いこと、住んでいて初めて知ったことが多い。もう少したくさんの人が、おとずれて知ってもらうと良い。

・すばらしい。

・文字数が多い・字が小さい資料多し。中山道の存在意味を知れた。徳川はすごいこと考えた。時代が変わったというけど昨日の次は今日だった。

・よく収集されました。貴重な資料ありがとうございます。

・和宮や前田家が中山道を通った記録が興味深い。

・太田宿が重要な場所であったことを改めて知りました。歴史が大好きなのでこの地域の歴史情報をどんどん発信してください（特に古代）。

・地元でも美濃路、本陣、脇本陣の資料があるので、その関連でいろいろ復習できました。

・貴重な資料が見れるよい機会でした。大人でも知識がないと理解が難しいところがあるので、デザイン、文字の大きさ、平易な文章といった視覚的に分かりやすい展示だとなお良いと思いました。どなたでも故郷を理解しやすい展示を望みます。

・昔の江戸時代のことがしれて良かったです。

・太田宿の西福寺で少し仕事で携わることがあり、山門が本陣の門と知りおどろきました。

・歴史の大切さを学ぶことが出来今後の生活に生かしたい。

・満足。

・いろいろなものを見ることができて良かった。古く良いものが残っていてすばらしい。

・展示が見やすくゆっくり見られました。美術館の様に、座れる場所があると想像を時代にめぐらせたりすることができる。関連書籍が参考のために置いてあっても良いかもしれない。

・古い道具類が大切に美しく保管されていて、その時代ならではの使い勝手が良い様にまるでカラクリのような道具を楽しく見せていただきました。話を聞いたり見た後で本陣のある道の見方が変わります。

・ミュージアムトークとても楽しかったです。よく調べられていて説明をきくことで深い理解につながりました。うるしぬりが美しい。水泥がしっかり見定められなくて折角の珍しい「塗り」なのでよくわかるようにもう一工夫欲しかったです。本陣という文化の奥深さに触れられて地域にこんな素晴らしいものが眠っていたことにおどろきです。展示がなければ知ることもなかったでしょう。コラボのあんみつを食して又シールをもらえちゃいました。

・学芸員に説明していただいてよく分かりました。パネルの大きさが適切で良いと思います。文字数もちょうど良いと思います。

・興味ある品々でした。

・ミュージアムトークがききやすくわかりやすくおもしろかったです。また次回もたのしみにしています。コラボの和菓子がとてもおいしかったです！チラシが目を引くデザインで良かったです。

・自分だけで観覧しているだけでは、絶対に気づけないポイントの説明がとても面白かったです。今回はコラボの和菓子屋メニューがありさらに楽しさ倍増でした。

・私は神保先生の教え子です（昭和30年生まれ）昭和38年ごろ2年生でした。同級生に伝えたいと思います。

・中山道についての知識が増え、とても良かったと思います。

・戦国武将についてなどもっと子細に説明があると楽しいと思う。

・貴重な物を見ることができました。ありがとうございます。

・太田本陣がよくわかってたのしかった。

・目が悪く文面判読約半分。中山道を踏破しているので

・チラシや、パネルのデザインに程よく遊びの要素が入っていて、みていて楽しかったです。シシの器がかわいかった。

・本物が展示してあってみていて楽しかった。

・本陣で当時使用していた物品が多く展示されていてより興味を持つ事が出来ました。説明のパネルも分かり易くて良かったと思います。

・太田宿福田家のお宝の品々良かったです。

・江戸時代に日本橋から京都までをつないだ中山道。太田宿は51番目の宿で身分の高い大名や公家、幕府の役人が宿泊され、本陣や脇本陣と呼ばれていたことを知って、この時代にとっても興味あり展示会を楽しみにしていました。太田本陣の資料のすばらしさに感動～！！展示がとてもきれいで魅了されました。

・若い世代に、先人の歴史を伝えていくことは、大事だと思います。定期的に、例えば1回/年とか、展示会を開くことを希望します。

・美しく展示されていて、また保存状態も良く、とても良かったです。説明文も端的でわかりやすく、見やすいと思いました。

・何故本庄宿との比較を行ったのか目的がよくわからなかった。中山道の宿場であるという共通点だけ？太田宿と本陣周辺に絞って近隣の姿をもう少し掘り下げてみてほしかった。

・この展示会を勧めたいが最終日に来たので勧めれず残念。

・本企画展は4回目。

・これだけの品を管理されて大変だったと思います。これから保管するのに大変さがわかります。こんなにきれいに保管されて素晴らしいと思います。

・美濃加茂市民ミュージアムの企画はおもしろい！！

・これだけのものを管理されているが大変なことと思います。

・美濃加茂の歴史を知られてうれしい。よかったです。

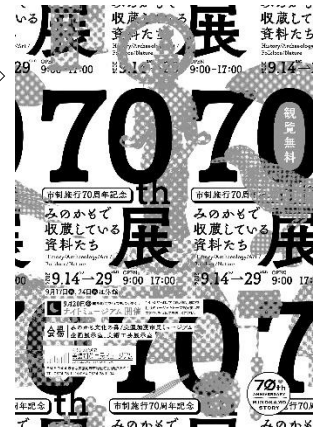
・文化の森こそが「宿」なのではと思いました。人々が行かい、言葉も交わすことのできる、そして何かが生まれる処。いつもありがとうございます。あんまりしっかり見てないかもですが、ありがとうございました。楽しかったです。

・貴重な調度品を今まで保管されているのが素晴らしく、そちらをこのような形で見学させて頂けることがありがたいです。

・7/21 ミュージアムトークに参加し、興味が深まり、展示を見ることが出来ました。常設の太郎洞池物語も、18代太郎八の功績として改めて見ました。（企画展での太郎洞池の約定証文の続きが見られてうれしかったです。）18代太郎八に興味をもち、四つのため池のこと、太田新田開発史など読んだり、現在の4つの池をグーグルマップで見たり、楽しかったです。由緒書に関連してたまたま名古屋城を訪れたので、尾張徳川家のことも勉強できました。いろいろ学べ、今年の私の”夏休み研究”になりました。

みのかもで収蔵している資料たち 展

会 期：2024 年 9 月 14 日（土）～9 月 29 日（日）〈14 日間〉
会期延長後：2024 年 10 月 5 日（土）～10 月 31 日（木）〈23 日間〉
会 場：企画展示室
会期延長後：美術工芸展示室
観 覧 料：無料
展示点数：186 点
会期延長後：99 点
入場者数：937 人（2024 年 9 月 14 日～9 月 29 日の 14 日間のカウント）



【内容】

博物館では、これからの未来のために大切にのこしていきたいものを研究・収集・収蔵をしています。収蔵するだけでなく、その資料を多くの方にも見ていただくこと、活用いただくこと、そして資料に関わる人の思いも伝えていくこと、さらには資料がもともとあった場所とのつながりを作っていくことも大切にしていきたい、と考えています。

本展では、これまであまり展覧会などには登場しなかった資料たちを中心に、美濃加茂市の 70 周年のお祝いということで展覧します。

今回だけの「と・く・べ・つ」展、キーワードは 70!!

【関連事業】

□ナイトミュージアム

開館時間を延長して 20 時まで、企画展示室、常設展示室、森のタワーを開放しました。18 時 30 分からは各分野の学芸員によるミュージアムトークを開催しました。

9 月 20 日（金）17:15-20:00 参加者：26 人

参加料：無料

会場：みのかも文化の森 企画展示室

□ハンズオンツアー

普段の展示室では手に取ることができない資料にふれて、手ざわりや重さを体感していただくツアーとして開催しました。この時間だけの特別な資料や材料も使いながらのツアーでした。

① 9 月 22 日（日） 14:00-15:00 参加者 29 人

② 9 月 26 日（木） 14:00-15:00 参加者 9 人

参加料：無料

会場：みのかも文化の森 企画展示室

□ベビーカーツアー

ベビーカーに乗る小さなお子様連れのご家族の方が対象です。学芸員が展覧会を案内しながらのんびり進むツアーです。展示室でゆったりとした時間を過ごしてみませんか。

8月10日（土） 9月26日（木） 10:00-11:00 参加者5組 参加料：無料

会場：みのかも文化の森 企画展示室

□関連企画 自然探検発見わくわく特別講座「アンモナイトの不思議」

「70年」なんてあっという間？地球上で3億年以上（！）も繁栄したアンモナイトの秘密を皆で探りました。

9月22日（日）9:30-12:00 参加者2人

参加料：200円

会場：みのかも文化の森 陶芸室

□カフェツナグ コラボ企画

本展にあわせ、文化の森の中にあるカフェとのコラボレーションメニューを提供いただきました。

デザート1種（70シュー（クリーム））とドリンク2種。

【展示資料】

資料番号	資料名	所蔵
民-1	まゆ （春嶺×鐘月）	館蔵
民-2	まゆ （みの）	館蔵
民-3	まゆ （たから）	館蔵
民-4	まゆ （大如来）	館蔵
民-5	まゆ （大造 （長野））	館蔵
民-6	まゆ （エリ蚕）	館蔵
民-7	まゆ （クスサン）	館蔵
民-8	まゆ （クリキュラ）	館蔵
民-9	蚕の毛羽	館蔵
民-10	まゆ （白繭）	館蔵
民-11	全齢人工飼料蚕繭	館蔵
民-12	まゆ （ひたち・にしき）	館蔵
民-13	まゆ （インド産）	館蔵
民-14	まゆ （中国産）	館蔵
民-15	まゆ （ソ連産）	館蔵
民-16	まゆ （ソビエト産）	館蔵
民-17	まゆ （ギリシャ産）	館蔵
民-18	紬糸	館蔵
民-19	まゆ （綿蚕）	館蔵
民-20	まゆ （小石丸）	館蔵
民-21	まゆ （サク蚕）	館蔵
民-22	まゆ （エリ蚕）	館蔵
民-23	まゆ （トルコ産）	館蔵
民-24	まゆ （インド産）	館蔵

民-25	まゆ （中近東産）	館蔵
民-26	まゆ （バラグアイ産）	館蔵
民-27	まゆ （クリキュ）	館蔵
民-28	生糸 （人工飼料蚕）	館蔵
民-29	全令人工飼料無菌飼育繭	館蔵
民-30	まゆ （日 505 号・日 506 号×中 505 号・中 506 号）	館蔵
民-31	全令人工飼料無菌飼育繭	館蔵
民-32	まゆ （山繭）	館蔵
民-33	まゆ （台湾産）	館蔵
民-34	まゆ （台湾産）	館蔵
民-35	まゆ （韓国産）	館蔵
民-36	まゆ （ブルガリヤ産）	館蔵
民-37	柞蚕糸 （中国産）	館蔵
民-38	岐阜県蚕業試験場要覧	館蔵
民-39	岐阜県蚕業試験場要覧	館蔵
民-40	岐阜県蚕業試験場要覧	館蔵
民-41	「研究の成果と適応 昭和 49 年度」（岐阜県農政部、1974）	館蔵
民-42	「研究と普及 No.21」（岐阜県蚕業試験場 1965.2.15）	館蔵
民-43	「平成元年度 試験研究成果普及カード」（岐阜県農政部、1990.8）	館蔵
民-44	「蚕業試験研究と見学案内」	館蔵
民-45	「海外市場報告」（1964～1965）	館蔵

資料番号	資料名	採集地	採集年/撮影年	状態	館蔵登録番号	点数
自-1	フクロウ	不明	2003 年か	本はく製	AN-119	1
自-2	オオタカ	美濃加茂市内	2003 年か	本はく製	AN-125	1
自-3	フクロウ	不明	2007 年	本はく製	AN-149	1
自-4	甲虫目 昆虫標本①	岐阜県内	2016-2020 年	昆虫標本	AN-1043	1 式
自-5	甲虫目 昆虫標本②	岐阜県内	2016-2020 年	昆虫標本	AN-1044	1 式
自-6	甲虫目 昆虫標本③	岐阜県内	2016-2020 年	昆虫標本	AN-1045	1 式
自-7	甲虫目 昆虫標本④	岐阜県内	2016-2021 年	昆虫標本	AN-1046	1 式
自-8	甲虫目 昆虫標本⑥	岐阜県内	2016-2018 年	昆虫標本	AN-1048	1 式
自-9	甲虫目 昆虫標本⑦	岐阜県内	2016-2018 年	昆虫標本	AN-1049	1 式
自-10	甲虫目 昆虫標本⑧	岐阜県内	2016-2020 年	昆虫標本	AN-1050	1 式
自-11	バッタ目、ゴキブリ目昆虫標本	岐阜県内	2016-2020 年	昆虫標本	AN-1051	1 式
自-12	カメムシ目 昆虫標本①	岐阜県内	2016-2018 年	昆虫標本	AN-1052	1 式
自-13	ハエ目 昆虫標本②	岐阜県内	2016-2020 年	昆虫標本	AN-1056	1 式
自-14	ハチ目 昆虫標本②	岐阜県内	2016-2020 年	昆虫標本	AN-1061	1 式
自-15	鱗翅目 昆虫標本	岐阜県内	2016-2020 年	昆虫標本	登録作業中	1 式
自-16	吉田コレクション 3	日本国内	1979-1997 年	昆虫標本	AN-845	1 式

自-17	吉田コレクション 4	日本国内	1983-1988 年	昆虫標本	AN-846	1 式
自-18	吉田コレクション 5	日本国内	1983-1984 年	昆虫標本	AN-847	1 式
自-19	吉田コレクション 6	日本国内	1976-1987 年	昆虫標本	AN-848	1 式
自-20	9.28 災害をのがれた標本	日本国内	1976 年	昆虫標本	AN-70	1 式
自-21	9.28 災害をのがれた標本	日本国内	1978 年	昆虫標本	AN-71	1 式
自-22	9.28 災害をのがれた標本	日本国内	1976 年	昆虫標本	AN-73	1 式
自-23	9.28 災害をのがれた標本	日本国内	不明	昆虫標本	AN-74	1 式
自-24	9.28 災害をのがれた標本	日本国内	1976 年	昆虫標本	AN-75	1 式
自-25	美濃加茂近辺のチョウ	岐阜県内	1986 年頃	昆虫標本	AN-1074	1 式
自-26	岐阜県内採集のチョウ	岐阜県内	1981 年頃	昆虫標本	AN-1075	1 式
自-27	世界の昆虫切手	不明	不明	昆虫標本	AN-1076	1 式
自-28	ひるがの高原の蝶・蛾	ひるがの高原	1981 年	昆虫標本	AN-1077	1 式
自-29	岐阜県内の採集のチョウ	岐阜県内	1981 年	昆虫標本	AN-1078	1 式
自-30	『守りたい加茂の豊かな自然』	—	2019 年	冊子体		1
自-31	神岡町のチョウ他	岐阜県吉城郡 神岡町	1992 年	昆虫標本	AN-1079	1 式
自-32	昆虫の標本箱 1	不明	不明	昆虫標本	AN-1081	1 式
自-33	昆虫の標本箱 2	岐阜県内	1981 年	昆虫標本	AN-1082	1 式
自-34	昆虫の標本箱 3	岐阜県内	1983 年	昆虫標本	AN-1083	1 式
自-35	昆虫の標本箱 4	岐阜県内	1983 年	昆虫標本	AN-1084	1 式
自-36	昆虫の標本箱 5	岐阜県内	1982 年	昆虫標本	AN-1085	1 式
自-37	昆虫の標本箱 1-5 台帳	—	—	—		5
自-38	文化財害虫標本 1	—	—	昆虫標本	未登録	1 式
自-39	文化財害虫標本 2	—	—	乾燥標本	未登録	1 式
自-40	ニホンジカ	美濃加茂市内	2014 年	骨格標本	AN-849	1
自-41	ムササビ	可児市	2022 年	本はく製	AN-1068	1
自-42	トラグミ	可児市	2023 年	本はく製	AN-1069	1
自-43	キセキレイ	美濃加茂市内	2022 年	本はく製	AN-1070	1
自-44	カブトガニ	不明	不明	はく製	AN-1030	1
自-45	イセエビ	不明	不明	はく製	AN-1034	1
自-46	ハリセンボンの仲間	不明	不明	はく製	AN-1035	1
自-47	ヤマドリ	岐阜県内	1981 年	はく製	AN-973	1
自-48	キジ	美濃加茂市内	2001 年	本はく製	AN-114	1
自-49	ホンダヌキ	不明	不明	本はく製	AN-116	1
自-50	植物資料台帳	—	—	—		54
自-51	植物リスト	—	—	—		1
自-52	植物標本	—	—	さく葉標本		6 式
自-53	ヤマグワ			さく葉標本		2
自-54	レプリカ カタクリ	美濃加茂市内	2020 年	プラスチックネー ション標本	PL-6569	1
自-55	カタクリ標本台帳	—	—	—	PL-6568、6569	2

No.	作家名	作品名	技法	サイズ	エディション	制作年	収蔵経過
美-1	船坂芳助	My Space and My Dimension-469	木版、 シルクスクリーン	67.0×49.4	22/45	1976	船坂芳助氏寄贈
美-2	堀江良一	弧のある風景 98-14	木版	67.7×49.0	3/20	1998	堀江良一氏寄贈
美-3	安藤真司	微かに甘い匂いが漂ってきた	銅版	52.6×67.8	2/35	2012	川本佳子氏寄贈
美-4	浜田知明	いらいら (B)	銅版	35.8×27.5	8/50	1975	大矢正充氏寄贈

No.	作家名	作品名	技法	サイズ	エディション	制作年	収蔵経過
美-5	薮崎芳次郎	開化美人	単色石版	49.4×37.0	不詳	1889	半原版画館寄贈
美-6	有山定次郎	名古屋名城天守台之図	石版筆彩	36.0×47.0	不詳	1891	半原版画館寄贈
美-7	小林清親	隅田川中洲水雷火	木版	23.1×33.4	不詳	1881	半原版画館寄贈
美-8	川瀬巴水	島原九十九島	木版	27.0×38.8	不詳	1922	半原版画館寄贈
美-9	川瀬巴水	長門峡かやヶ淵	木版	27.1×38.5	不詳	1922	半原版画館寄贈
美-10	吉田博	日本アルプス十二題の内 鎗ヶ岳	木版	40.8×27.4	不詳	1926	半原版画館寄贈
美-11	土屋光逸	弁慶橋	木版	39.5×26.7	不詳	1933	半原版画館寄贈
美-12	小泉癸巳男	作品名不詳	木版	26.3×19.5	不詳	1920	半原版画館寄贈
美-13	小泉癸巳男	作品名不詳	木版	39.0×26.0	不詳	不詳	半原版画館寄贈
美-14	織田一磨	隅田公園	木版	26.0×37.0	不詳	不詳	半原版画館寄贈
美-15	織田一磨	築地東劇夜景	木版	26.2×35.8	不詳	不詳	半原版画館寄贈
美-16	織田一磨	浅草の夜	木版	22.6×31.3	不詳	不詳	半原版画館寄贈
美-17	織田一磨	新東京風景六景の内 不忍池	木版	33.6×42.0	不詳	不詳	半原版画館寄贈
美-18	織田一磨	日本橋付近	木版	25.8×36.4	不詳	不詳	半原版画館寄贈
美-19	畦地梅太郎	山のとり	木版	38.0×25.8	45/150	1969	半原版画館寄贈
美-20	五味一幸	半原への道	染版	24.5×31.2	不詳	不詳	半原版画館寄贈
美-21	廣江嘉郎	鯛	木版	52.4×38.1	16/20	2015	半原版画館寄贈
美-22	いわたきよし	はんが —2004 (市街を望む) その2	木版	55.0×39.7	A.P	不詳	半原版画館寄贈

No.	作家名	作品名	技法	サイズ	エディション	制作年	収蔵の経過
美-23	瑛九	「SCALE II」より 65.空	銅版	32.0×23.8	不明	1954	半原版画館寄贈
美-24	瑛九	朝の食卓	リトグラフ	53.5×37.7	不明	1956	半原版画館寄贈
美-25	顰嘔	マグリット	シルクスクリーン	63.8×50.2	48/150	1977	半原版画館寄贈
美-26	オノサト トシノブ	A.S.-4	シルクスクリーン	29.7×29.0	79/88	1981	半原版画館寄贈
美-27	顰嘔	1本のエッチングの線 II	銅版、手彩色	45.7×57.0	70/85	1981	半原版画館寄贈
美-28	木村利三郎	City 310	シルクスクリーン	54.7×37.5	12/50	不詳	半原版画館寄贈
美-29	小田襄	銀世界—夢	メタルリーフ プリント	39.2×33.9	131/200	1974	半原版画館寄贈
美-30	原 健	STROKES81-17	シルクスクリーン	50.0×65.0	34/100	1982	半原版画館寄贈

No.	作家名	作品名	技法	紙サイズ	エディション	制作年	収蔵の経過
美-31	磯辺行久	作品 WORK WHITE	エンボス	37.6×28.0	14/30	1965	半原版画館寄贈
美-32	井田照一	WIND	リトグラフ	43.0×31.1	26/100	1974	半原版画館寄贈
美-33	齋藤寿一	森	銅版	49.8×66.0	E.P.	1959	半原版画館寄贈
美-34	吉原英雄	ガラステーブルの上の花	シルクスクリーン	66.0×59.4	93/150	1982	半原版画館寄贈
美-35	高柳裕	From DIET COOKBOOK	金属凸版	38.3×56.3	A.P.	1973	半原版画館寄贈
美-36	郭仁植	Untitled	銅版	47.7×49.3	A.P.	不詳	半原版画館寄贈
美-37	関根伸夫	後を飛ぶ	シルクスクリーン	56.4×38.2	112/200	1975	半原版画館寄贈
美-38	吉田克朗	Work"87"	銅版	52.4×40.5	5/40	1977	半原版画館寄贈
美-39	小林清子	薄青い距離をつくって	リトグラフ	59.6×45.2	38/70	1974	半原版画館寄贈
美-40	田辺和郎	標的男	シルクスクリーン	54.3×39.4	5/25	1973	半原版画館寄贈
美-41	野田哲也	Diary:June 29th '75(b)	リトグラフ	66.2×50.3	10/100	1975	半原版画館寄贈
美-42	田村文雄	断片的な反応 I	リトグラフ	55.0×69.6	7/30	1973	半原版画館寄贈
美-43	大沢昌助	直線の静物	リトグラフ	50.6×65.8	68/75	不詳	半原版画館寄贈
美-44	堀井英男	二つの間に No.5	銅版	50.2×65.7	10/35	不詳	半原版画館寄贈
美-45	松本旻	竹の皮計画 (P-14)	木版	74.7×61.0	2/30	1989	半原版画館寄贈
美-46	元永定正	みつつのかたち	シルクスクリーン	45.3×58.7	44/170	1979	半原版画館寄贈
美-47	加藤清美	悲しみの島 I	銅版	58.0×50.1	9/30	不詳	半原版画館寄贈
美-48	吉田穂高	私のコレクションより ー 白い家 A.H.	リトグラフ	49.7×65.9	58/100	1980	半原版画館寄贈
美-49	オクヤナオミ	版画集 化石を含む明晰より Homage à Kandinsky	セリグラフ	64.5×48.8	E/A	1983	半原版画館寄贈

No.	作家名	作品名	技法	紙サイズ	エディション	制作年	収蔵の経過
美-50	高島純	Peace land/RED	シルクスクリーン	49.7×64.4	10/12	不詳	購入
美-51	高島純	Monster	シルクスクリーン	64.9×49.3	3/17	不詳	購入
美-52	船坂芳助	44 Modern Japanese Prints Artists より Blue and White Space	木版	30.0×59.7	H.C.	1973	船坂芳助氏 寄贈
美-53	吹田文明	44 Modern Japanese Prints Artists より 太陽と水	木版	30.0×30.0	H.C.	1973	船坂芳助氏 寄贈
美-54	黒崎彰	44 Modern Japanese Prints Artists より an Omen	木版	30.0×30.0	H/C	1973	船坂芳助氏寄贈
美-55	海老原喜之助	うなぎを裂く	リトグラフ	65.4×50.6	E.A.	1957 年頃	半原版画館寄贈
美-56	脇田和	作品名不詳	リトグラフ	39.6×54.4	15/90	不詳	半原版画館寄贈
美-57	猪熊弦一郎	作品名不詳	リトグラフ	46.6×32.0	不詳	1950 年代	半原版画館寄贈
美-58	坂井範一	坂井範一 リトグラフィ集 より 古い物語り	リトグラフ	60.0×44.0	20/100	1983	購入
美-59	安藤真司 他	ATELIER C-126 CALENDAR 2008	銅版	72.0×53.0	240/320	2008	川本佳子氏寄贈

美-60	船坂芳助	THE COLLEGE WOMEN'S ASSOCIATION OF JAPAN ANNUAL PRINT SHOW ポスター	シルクスクリーン 穴	86.5×67.5	不詳	1971	半原版画館寄贈
美-61	安藤真司 他	ATELIER C-126 CALENDAR 2009	銅版	70.4×51.0	190/260	2009	川本佳子氏寄贈
美-62	園山晴巳	版画集 平成富嶽三十六景より 湘南の富士 (茅ヶ崎)	リトグラフ、 アルミ版	30.0×42.0	6/136	1992	大矢正充氏寄贈
美-63	深沢幸雄	版画集 平成富嶽三十六景より 街と富士	銅版	42.0×30.0	6/136	1992	大矢正充氏寄贈
美-64	島州一	版画集 平成富嶽三十六景より TRACE25	シルクスクリーン テトロン 230 メッシュ	41.7×30.0	6/136	1992	大矢正充氏寄贈

No.	作家名	作品名	技法	紙サイズ	エディション	制作年	収蔵の経過
美-65	作家名不詳	作品名不詳	シルクスクリーン	34.5×44.5	1/20	不詳	半原版画館寄贈
美-66	作家名不詳	作品名不詳	リトグラフ	54.1×38.2	不詳	1973	半原版画館寄贈
美-67	作家名不詳	作品名不詳	木版	52.5×46.0	E.A.	不詳	半原版画館寄贈
美-68	作家名不詳	作品名不詳	リトグラフ	45.7×54.7	1/15	1973	半原版画館寄贈
美-69	作家名不詳	作品名不詳	不詳	58.0×45.7	3/30	不詳	半原版画館寄贈
美-70	作家名不詳	PARIS 6	シルクスクリーン	46.0×63.0	36/170	1977	半原版画館寄贈

番号	資料名	時代	所蔵
歴 1 - 1	日光菩薩立像	南北朝～室町時代初期(14 世紀)	館蔵(光徳寺旧蔵)
歴 1 - 2	月光菩薩立像	南北朝～室町時代初期(14 世紀)	館蔵(光徳寺旧蔵)
歴 1 - 3	「破損仏」	年代不明	館蔵(光徳寺旧蔵)
歴 1 - 4	蓮弁	平安時代後期(11 世紀後半～12 世紀)	館蔵(光徳寺旧蔵)
歴 2 - 1	伊深町の旧家にあった襖から見つかった下張り文書		館蔵
歴 2 - 2	館蔵の下張り文書 一括 70 枚		館蔵



[写真1 エントランスから企画展示室]



[写真2 企画展示室]



[写真3 企画展示室]



[写真4 美術工芸展示室]



[写真5 ナイトミュージアム]



[写真6 ハンズオンツアー22日]



[写真7 ハンズオンツアー26日]



[写真8 ベビーカートツアー]

【アンケート結果】(全 32 枚)

選択設問から

① 展示の資料・作品の見やすさ（配置、明るさ、空間など）にご満足頂けましたか？

・満足	19
・ほぼ満足	11
・ふつう	2
・やや不満	0
・不満	0
計	32

② 展示の資料・作品の分かりやすさ（解説、説明、パネルなど）にご満足頂けましたか？

・満足	13
・ほぼ満足	14
・ふつう	2
・やや不満	3
・不満	0
計	32

③ 展示の資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られましたか？

・満足	16
・ほぼ満足	14
・ふつう	2
・やや不満	0
・不満	0
計	32

④ この展示を他の人に伝え、来館を勧めたいと思いますか？

・大いに	24
・少し	3
・どちらともいえない	5
・あまりすすめたくない	0
・すすめたくない	0
計	32

自由記述から

- ・きれー。
- ・いうことがない。たくさんのはっけんありがとう。
- ・どこか直すところもまったくなく、いいところばかりでした。
- ・めずらしいものが数多くありおもしろくて、みのかも市のほこりだと思います。
- ・小さな虫の標本に驚かされました→加茂農林。散歩で見かける虫の正式名が分かりました。涼しい場所でゆっくり見ることができ、また勉強になりました。ありがとう

ございました。

- ・何度も観ているはずでしたが、今日初めてカタクリを見つめました。毎回面白いです。
- ・ふすまの反故紙 70 枚、文化財害虫の展示 他にはないユニークな展示が好きです。また来たくなりました。
- ・膨大な素晴らしい版画コレクションの存在を知らなかった。これだけで大規模な展覧会が開ける。整理がひと段落ついた段階でぜひ企画してほしい。できれば図録（目録資料集）の刊行を。
- ・イセキ？はなぜ地下にあるのですか。当時より地球が大きくなったのですか？
- ・いつも書くことですが、文字が小さすぎて読めません。本当に残念です。いつになったら大きな文字にしていただけののやら？
- ・展示物の説明・照明 明るさに少々不満でした。このような展示企画はどしどしやっていただけたら。
- ・ちょうの標本のところで、ミドリシジミと大きくとりあげられていました。ところが、どれがミドリシジミなのか分からず、すっきりしません。赤とかの矢印でもあればよかったと思いました。よろしくお願いします。
- ・多岐多種にわたるコレクションの数に驚きました。もう少し展示があると良い（もっと寄贈されてほしい）。
- ・普段作品に触れる事はできないので、今回はとても楽しめました。
- ・ハンズオンツアー途中からでしたが、大変興味深くお話をきかせて戴き、みのかもの歴史のことなどよく分かりました。ありがとうございました。直接お話を聞けるのはうれしいです。
- ・文化の森のコンセプトが明確に理解できる展示でした。
- ・蓮弁 分割した状態で観ることははじめてだったので見とれてしまいました。
破損仏や下張り文書 廃棄されてもおかしくないものが残っていることに感動。歴史を物語ってくれるものとして貴重な資料。
- ・子どもがいても話が聞けるのが、すごくありがたかった。子どもを連れて行くと周りに迷惑をかけないかなど考え、ゆっくり見たり聞いたりする場が少ないので、本当にこんな機会を与えてもらいうれしかった。やっぱり一人で見るより、話をきけるのが、すごく分かりやすかったです。美濃加茂市の知らないことを専門の方にくわしく教えてもらえてよく分かった。またこういう機会があれば参加したい。

未来に繋ぐみのかもの 70 年 展

会 期：2024 年 12 月 22 日(日)～2025 年 2 月 9 日(日) 〈38 日間〉

会 場：企画展示室・美術工芸展示室

展示点数：総展示点数 253 件

観 覧 料：無料

入場者数：1,619 人



【内容】

総合文化都市建設へー。

新しい市の誕生にあたり、渡辺栄一新市長は市民の団結をもとにした強力で豊かな市政の実現をこのように高らかに呼びかけました。各所で祝賀行事が行われ、市民はさまざまな思いを分かち合いながら、美濃加茂のこれからについて思いを馳せました。鮮やかな情景が散りばめられた「美濃加茂市の歌」(昭和 38 年制定)の歌詞には、「東海の要」に生きる者としての自負や誇り、そして希望が満ちあふれています。当時、そこはまさに「新しき陽の差すところ」でした。

市制が施行されてから 70 年。社会が急速に拡大と変化を続けるなか、いくつもの困難を乗り越えて、道路や上下水道をはじめとする都市基盤の整備や、教育・文化・福祉の充実などが進められてきました。しかしながら、その経緯についてはこれまで振り返られることも少なく、記録や文書とともに忘れられている事柄も多くみられます。一つひとつの情報はその実、先の時代を生きるための大切な指針であり、市民や行政がそこから学び共有していくことは、次世代のまちづくりの基礎ともなるでしょう。歴史は単に振り返るためにあるものではありません。

この展覧会では、これまでの資料調査をもとに、市の発足から今日に至るまでの美濃加茂市の歩みを資料や写真、年表をもとに振り返り、まちの移り変わりや暮らしの発展をたどります。そして過去について再び思いを巡らせることで、みのかもの今、そしてこれからについて改めて目を向ける場としたいと考えます。未来を開くヒント、そして鍵は歴史のなかにあるのです。

「伝統の文化うけつぎ、めざしゆく明日は輝く」(「美濃加茂市の歌」3 番より)。積み重ねてきた歴史が私たちの心の確かなよりどころとなり、連綿とつづく未来への、少し先の足がかりを照らしていくきっかけとなれば幸いです。

【関連事業】

□ミュージアムトーク

12 月 25 日(水) 13:30～14:30 参加者 2 人 1 月 12 日(日) 13:30～14:30 参加者 12 人

内 容：担当学芸員が展示室を案内した。

会 場：企画展示室・美術工芸展示室

□四季を食べる講座「昭和 29 年頃、こんなの食べとったね…」

1 月 25 日(土) 10:30～13:30 参加者：12 人

内 容：「美濃加茂伝承料理の会」による「四季を食べる講座」の一つとして開催した。市ができた頃、

市民が食べていたものを聞き取りなどをもとに調理しながら、当時の味を再現した。

講 師：美濃加茂伝承料理の会

参加料：500 円

会 場：まゆの家（生活体験館）

□まちの歴史的な建物をたどる（バスツアー）

1 月 26 日（日）13:30～15:30 参加者：13 人

内 容：現在の市役所庁舎ができるまで使用されていた旧太田町役場庁舎や国登録文化財になっている旧伊深村役場、文化会館などの建造物をバスでめぐり、当時のまちの様子をイメージしてもらう機会とした。

講 師：担当学芸員

会 場：美濃加茂市内各所〔旧伊深村役場庁舎、旧西部稚蚕飼育所、美濃加茂市役所、旧太田町役場庁舎（現御代桜醸造）、美濃加茂市文化会館〕

□記念講演「「平成」時代を考える」

2 月 2 日（日）13:30～15:00 参加者：36 人

内 容：名古屋大学名誉教授の羽賀祥二氏を講師に迎え、平成時代の初めの美濃加茂市の様子を全国的な動向も見据えながら考える記念講演を行った。

講 師：名古屋大学名誉教授 羽賀祥二氏

会 場：研修室

□市制 70 周年記念 森のコンサート

2 月 9 日（日）14:00～15:30 参加者：80 人

内 容：美濃加茂市の市制施行 70 周年記念ソング「ミノカモストーリー」を手掛けた市出身のシンガーソングライター田中慈人氏を迎えてコンサートを行った。

出 演：シンガーソングライター 田中慈人氏

会 場：エントランスホール

【展示品】

No.	番号	資料名	発行など	制作年	所蔵
1	1954-1	三和村町村合併促進委員会記録	三和村町村合併促進委員会	昭和 29 年	館蔵
2	1954-2	『市勢要覧-合併記念号』	美濃加茂市	昭和 30 年	館蔵
3	1954-3	「広報美濃加茂市」第 1 号	美濃加茂市	昭和 29 年 8 月 1 日	館蔵
4	1954-4	チラシ「加茂市構想を衝く!!」			館蔵
5	1954-5	「美濃加茂市合併申請書」		昭和 29 年	館蔵
6	1954-6	「山之上弘報」No. 15	山之上支所	昭和 29 年 4 月 10 日発行	館蔵

7	1954-7	合併祝賀行事 武者行列風景		昭和 29 年 5 月 3 日	館蔵
8	1954-8	ビラ「市制施行記念」	毎日新聞社	昭和 29 年 5 月 5 日	館蔵
9	1955-1	「美濃加茂市合併確認書」		昭和 30 年	館蔵
10	1955-2	「盆踊り」 ポスター	『広報美濃加茂市』	昭和 30 年 8 月 20 日号	館蔵
11	1955-3	乳牛共進会 賞状	蜂屋酪農組合	昭和 30 年 12 月 11 日	館蔵
12	1956-1	建設された産業観光会館	『美濃加茂市議会 記念帖』	昭和 31 年	館蔵
13	1956-2	「蜂屋小給食室関係綴」		昭和 31 年	館蔵
14	1956-3	加茂野青年団「文書綴」	加茂野町青年団	昭和 31 年度	館蔵
15	1957-1	「皇太子殿下啓略図」	「アルバム 写真 ライン下り 1～ 6」	昭和 32 年	館蔵
16	1957-2	県家畜センター		昭和 33 年ごろ	館蔵
17	1958-1	「いそしみ」 4, 6, 7 号	美濃加茂市連合婦 人会	昭和 33～37 年	館蔵
18	1958-2	「上廿屋バス乗入修繕個所」	「バス車庫並道路 改修諸費調」	昭和 35 年	館蔵
19	1958-3	「バス開通費取調帳」	三和村廿屋区	昭和 32 年	館蔵
20	1958-4	「廿屋区長引継書」	三和村廿屋区	昭和 32 年 4 月	館蔵
21	1958-5	「盆踊保存会関係書綴」	伊深町盆踊保存会	昭和 33 年以降	館蔵
22	1959-1	「国民健康保険収入日計書 綴」	古井連絡所	昭和 34 年 4 月	館蔵
23	1959-2	「十五号台風被害関係書」	三和連絡所	昭和 34 年 9 月	館蔵
24	1959-3	伊勢湾台風見舞金の配分台帳	美濃加茂市隊	昭和 34 年	美濃加茂 市役所
25	1960-1	「市庁舎建築確認書」	美濃加茂市総務課	昭和 35 年	館蔵
26	1960-2	津田左右吉が授かった名誉市 民の徽章			館蔵
27	1960-3	「庁舎写真帳」		昭和 35, 36 年	館蔵
28	1961-1	「新庁舎各階平面図」	『広報みのかも』	昭和 36 年 5 月 15 日号	館蔵
29	1961-2	市章図案審査会		昭和 36 年	館蔵
30	1961-3	新市庁舎 パンフレット		昭和 36 年	美濃加茂 市役所
31	1961-4	美濃加茂市章に関する綴	美濃加茂市	昭和 36 年	美濃加茂 市役所

32	1961-5	美濃加茂市章 応募はがき		昭和 36 年	美濃加茂市役所
33	1961-6	美濃加茂市庁舎 旧看板	座馬井邨 書	昭和 36 年	館蔵
34	1961-7	鏡（美濃加茂市庁舎新築記念）		昭和 36 年	館蔵
35	1961-8	三校の統合に関する記録	美濃加茂市教育委員会	昭和 32～34 年	館蔵
36	1961-9	プール建設に関する陳情書	古井町プール建設促進委員会	昭和 34 年	館蔵
37	1962-1	顕彰碑の碑文に関する手紙	飯塚友一郎から小栗憲八宛	昭和 33 年 2 月 12 日	館蔵
38	1962-2	「ごみ収集区域日割図」	『広報みのかも』	昭和 33 年 11 月 30 日号	館蔵
39	1963-1	「美濃加茂市の歌」 レコード	日本コロムビア株式会社 製作	昭和 38 年	館蔵
40	1963-2	「好評だった空中防除散布」	『広報みのかも』	昭和 38 年 9 月 5 日号	館蔵
41	1964-1	「飛騨・木曽川国定公園名勝略図」	『みのかも市報』	昭和 39 年 3 月 2 日号	館蔵
42	1964-2	建設中の国鉄ディーゼル基地		昭和 40 年	館蔵
43	1964-3	手紙	渡辺栄一からピーター・ヨーステン宛	昭和 39 年 8 月 4 日	館蔵
44	1965-1	「交通安全都市を宣言」	『みのかも市報』	昭和 40 年 6 月 1 日号	館蔵
45	1965-2	レスリング競技の記録		昭和 40 年	館蔵
46	1965-3	「人道添架要望書」		昭和 40 年	館蔵
47	1965-4	第 20 回 国民体育大会「美濃加茂市準備概要」	市準備委員会	昭和 40 年 5 月	館蔵
48	1965-5	第 20 回国民体育大会パンフレット	美濃加茂市	昭和 40 年	館蔵
49	1966-1	「要覧 岐阜県蚕業試験場」			館蔵
50	1966-2	赤痢予防収支明細帳」	信友自治会	昭和 41 年度	館蔵
51	1966-3	「太田町中央長寿会記録」	太田町中央長寿会	昭和 41 年	館蔵
52	1967-1	『南野遺跡発掘調査報告』		昭和 51 年	館蔵
53	1967-2	中之島教育キャンプ場 案内	「美濃加茂市パンフレットほか」		館蔵
54	1967-3	西部共同稚蚕飼育所 看板			館蔵
55	1968-1	「蜂屋の歴史」（第 1 部～第 3 部）			館蔵

56	1968-2	三和小学校の被害状況	「8.17 集中豪雨に関する綴」	昭和 43 年	館蔵
57	1968-3	住居表示板（田島町 1 丁目 8）			館蔵
58	1968-4	「古井の子」17 号	古井小学校	昭和 43 年 2 月 発行	館蔵
59	1968-5	郵便切手（犬山城付近の景観）		昭和 43 年作成	館蔵
60	1969-1	第 1 回目の読書会風景	『みのかも市報』	昭和 44 年 10 月 1 日号	館蔵
61	1969-2	「日立製作所と調印」	『みのかも市報』	昭和 44 年 2 月 1 日号	館蔵
62	1969-3	「ミサイル落下事件綴」	美濃加茂市	昭和 44 年	美濃加茂 市役所
63	1969-4	「美濃加茂市総合計画 基本計画（案）」	美濃加茂市	昭和 44 年	館蔵
64	1970-1	市政映画「躍進する美濃加茂」	美濃加茂市秘書企画課市政映画部	昭和 45 年	館蔵
65	1970-2	「C58 280」車両銘板（複製）			館蔵
66	1970-3	市政映画製作を報じる新聞記事	岐阜日日新聞	昭和 44 年 10 月 21 日	館蔵
67	1971-1	「暴力追放」の決議	『みのかも市報』	昭和 45 年 8 月 1 日号	館蔵
68	1971-2	「すぐやる係」の仕事風景	『みのかも市報』	昭和 44 年 10 月 1 日号	館蔵
69	1971-3	復興記念碑除幕 関係書類	三和町	昭和 46 年	館蔵
70	1972-1	中濃体育館の竣工	『みのかも市報』	昭和 47 年 6 月 1 日号	館蔵
71	1972-2	古井住宅団地付近の見取り図	『みのかも市報』	昭和 47 年 12 月 1 日号	館蔵
72	1973-1	「木造弥勒仏坐像」	「小栗憲八資料一括」		館蔵
73	1973-2	「老人医療費が無料化」	『みのかも市報』	昭和 48 年 6 月 1 日号	館蔵
74	1973-3	「市の木」等 答申書	市の木等選定委員会	昭和 49 年 9 月 10 日	美濃加茂 市役所
75	1973-4	市制 20 周年記念式典冊子	美濃加茂市	昭和 49 年	館蔵
76	1973-5	汚職事件に関するビラ	公明党美濃加茂支部	昭和 49 年	館蔵
77	1973-6	美濃加茂市統計書	美濃加茂市	昭和 54 年	館蔵

78	1974-1	水不足による給水活動	『みのかも市報』	昭和 55 年 3 月 1 日号	館蔵
79	1974-2	市の木(棕) と市の花 (あじ さい)	『市勢要覧 美濃加 茂』	昭和 55 年	館蔵
80	1975-1	山手小学校体育館の建設風景	「山手小学校創立 30 周年記念資料」	平成 16 年	館蔵
81	1975-2	熱心に議論が交わされた青年 議会	『みのかも市報』	昭和 56 年 12 月 1 日号	館蔵
82	1976-1	木曽川が一望できる市営結婚 式場	『みのかも市報』	昭和 56 年 3 月 1 日号	館蔵
83	1976-2	県営渡船に関する文書	美濃加茂市社会教 育課	昭和 52 年度	館蔵
84	1976-3	感謝状	御嵩人権擁護委員 会長	昭和 57 年 5 月 13 日	館蔵
85	1977-1	『美濃加茂市史』 通史編 あ とがき			館蔵
86	1977-2	『太田新田開拓史』	瀬口秀一・高島博 共著	昭和 52 年 9 月 16 日発行	館蔵
87	1978-1	寄せられた市長へのはがき	『みのかも市報』	昭和 54 年 1 月 1 日号	館蔵
88	1978-2	『美濃加茂市民憲章一心と生 活の道しるべー』			館蔵
89	1978-3	「刊行のごあんない」			館蔵
90	1978-4	市民憲章制定関係の綴	市民憲章制定委員 会	昭和 52 年	美濃加茂 市役所
91	1978-5	「美濃加茂市民憲章」冊子	美濃加茂市	昭和 53 年	館蔵
92	1979-1	文集『あじさい』（創刊 号・第 2 号）			
93	1979-2	「市政見学バスガイドマッ プ」	『みのかも市報』	昭和 54 年 11 月 1 日号	館蔵
94	1979-3	再発行された「慰問文集」	伊深親子文庫	昭和 54 年 8 月 15 日発行	館蔵
95	1980-1	「木曽川右岸用水上流部事 業」	『みのかも市報』	昭和 55 年 5 月 1 日号	館蔵
96	1980-2	「第 62 回 全国高校野球選手 権 甲子園出場記念 甲子園 に燃ゆ」〔切手帳〕	昭和 55 年		館蔵
97	1980-3	高山本線電化促進チラシ	高山本線強化促進 同盟会		美濃加茂 市役所
98	1980-4	スクラップブック	美濃加茂市広報作 係	昭和 55 年 8～9 月	館蔵

99	1980-5	可茂衛生焼却施設 パンフレット		昭和 55 年	館蔵
100	1981-1	第 1 回ミス日本ラインコンテスト		昭和 55 年	館蔵
101	1981-2	建設中のソニー美濃加茂工場	『みのかも市議会だより』 26 号	昭和 55 年	館蔵
102	1981-3	国鉄越美南線存続に関する陳情書	越美南線存続沿線市町村連絡会議	昭和 56 年 11 月	美濃加茂市役所
103	1981-4	越美南線沿線ガイド		昭和 57 年 3 月作成	美濃加茂市役所
104	1982-1	前平公園 パンフレット			館蔵
105	1982-2	緊迫した救命訓練			館蔵
106	1983-1	上水無瀬公共林道開通式の記録		昭和 58 年 5 月 5 日	館蔵
107	1983-2	寄せられた救援物資			館蔵
108	1983-3	可茂聖園 パンフレット		昭和 59 年	館蔵
109	1983-4	水魔!!この爪跡を見よ『9.28 豪雨出水被害記録』	日本自由新聞社	昭和 59 年 1 月 25 日	館蔵
110	1984-1	設立準備委員会	『みのかも広報』	昭和 60 年 7 月 1 日号	館蔵
111	1984-2	駅前広場に埋設されるタイムカプセル	『みのかも広報』	昭和 60 年 12 月 1 日号	館蔵
112	1984-3	美濃加茂市制 30 周年記念タイムカプセル埋設地プレート		昭和 59 年埋設	館蔵
113	1985-1	まつりのにぎわい			館蔵
114	1985-2	「旧太田脇本陣林家住宅」パンフレット			館蔵
115	1985-3	太田宿脇本陣 パンフレット			館蔵
116	1985-4	中山道太田宿旧太田脇本陣改修記念 切手帳	美濃加茂太田本町郵便局	昭和 61 年 10 月 1 日	館蔵
117	1985-5	第 4 回・第 5 回津田左右吉賞作文集	津田左右吉博士顕彰会	昭和 63 年・平成元年	館蔵
118	1985-6	津田左右吉賞 文鎮	津田左右吉博士顕彰会		館蔵
119	1986-1	「市民大学講座のご案内」	『広報みのかも』	昭和 61 年 6 月 15 日号	館蔵
120	1986-2	「長良川鉄道(株) 新営業駅名」	『広報みのかも』	昭和 61 年 9 月 1 日号	館蔵

121	1986-3	「長良川鉄道の経営を助成するために設置する基金の管理等に関する意見書」	岐阜県、関市ほか沿線市町村	昭和 61 年 10 月 2 日発行	美濃加茂市役所
122	1986-4	長良川鉄道「会社の概要」	長良川鉄道株式会社		美濃加茂市役所
123	1986-5	長良川鉄道 普通乗車券		昭和 61 年 7 月 1 日発行	美濃加茂市役所
124	1986-6	「祝 長良川鉄道開業」パンフレット		昭和 61 年 12 月 11 日	美濃加茂市役所
125	1986-7	「祝 開業記念入場券」 (A) (B)		昭和 61 年	美濃加茂市役所
126	1987-1	「知の積層」 除幕式			館蔵
127	1987-2	『忘れ得ぬ 9.28 災害 災害誌』	美濃加茂市	昭和 62 年 9 月 28 日	館蔵
128	1988-1	『第 1 回・第 2 回 美濃加茂彫刻シンポジウムカタログ』		平成元年	館蔵
129	1988-2	南方上空からみたシティホテル美濃加茂	『市制 35 周年記念市勢要覧美濃加茂市』	平成元年	館蔵
130	1988-3	「みのかもニューフェイス」	美濃加茂市	昭和 63 年 8 月発行	館蔵
131	1989-1	2 つの宣言の要旨	『広報みのかも』	平成元年 4 月 15 日号	館蔵
132	1989-2	ダボ市と姉妹都市提携	『市制 35 周年記念市勢要覧美濃加茂市』	平成元年	館蔵
133	1989-3	「美濃加茂市で非核平和都市宣言を行いましょう」	非核平和都市宣言を求める市民の会	平成 1 年 6 月 15 日	美濃加茂市役所
134	1989-5	「広報みのかも」市制 35 周年記念紙面	美濃加茂市広報係	平成元年	館蔵
135	1989-6	ダボ市紹介 パンフレット	美濃加茂市		館蔵
136	1989-7	「ほたるコンサート」チケット	美濃加茂市商工会	平成元年 6 月	美濃加茂市役所
137	1989-8	「ほたるコンサート」プログラム	美濃加茂市商工会	平成元年 6 月	美濃加茂市役所
138	1989-9	「ほたるコンサート」趣意書	美濃加茂市商工会	平成元年 6 月 26 日	美濃加茂市役所
139	1989-10	新聞記事『「蛍の里」夏の夜に沸く』	岐阜新聞	平成元年 6 月 26 日	美濃加茂市役所
140	1990-1	『市制 35 周年記念 市制要覧美濃加茂市』	美濃加茂市	平成元年	館蔵

141	1990-2	『清流に棲む夜行性の魚ネコギギの生活史』	美濃加茂市教育委員会	平成 4 年発行	館蔵
142	1991-1	いかだ下りの再現			館蔵
143	1991-2	貯金缶			館蔵
144	1992-1	宿の市（青空市場）	『広報みのかも』	平成 4 年 2 月 15 日号	館蔵
145	1992-2	ごみ減量化のための資源回収	『広報みのかも』	平成 4 年 5 月 1 日号	館蔵
146	1992-3	美濃加茂市商工会議所設立趣意書	美濃加茂市商工会議所設立発起人会	平成 3 年 10 月 18 日	美濃加茂 市役所
147	1992-4	「美濃加茂市商工会解散総会」資料	美濃加茂市商工会議所設立発起人会	平成 4 年	美濃加茂 市役所
148	1992-5	中濃大橋第二期工事パンフレット	岐阜県道工事事務所		館蔵
149	1993-1	『我が郷土の俳人 兼松嘯風』	兼松嘯風句碑建立委員会・美濃加茂俳句同好会	平成 5 年	館蔵
150	1993-2	カニサイの足跡（複製）の展示	美濃加茂市民ミュージアム	平成 12 年製作	館蔵
151	1993-3	飛鹿跨線橋 パンフレット	美濃加茂市		館蔵
152	1994-1	「ふたり芝居 リヤ王」チラシ			館蔵
153	1994-2	第 1 回坪内逍遙大賞決定通知書			館蔵
154	1994-3	美濃加茂市公共下水道通水記念 テレフォンカード		平成 5 年 3 月	館蔵
155	1994-4	木曽川横断貫通記念 テレフォンカード		平成 6 年 10 月 1 日	館蔵
156	1994-5	「美濃加茂市の下水道」	木曽川流域浄水事業促進協議会		館蔵
157	1994-6	岐阜県木曽川右岸流域下水道パンフレット	木曽川流域浄水事業促進協議会		館蔵
158	1995-1	「みのかも健康の森」オープン	『広報みのかも』	平成 7 年 5 月 15 日号	館蔵
159	1995-2	ハンガリーでの演奏会			館蔵
160	1995-3	下米田青年団 看板		「平成 7 年 閉」	館蔵
161	1995-4	みのかも健康の森 協定書		平成 4 年 3 月 25 日	美濃加茂 市役所
162	1995-5	みのかも健康の森 パンフレット	岐阜県可茂山林事業所・美濃加茂市		館蔵

163	1995-6	「戦後 50 年 平和を祈願する市民のつどい」シナリオ	美濃加茂市	平成 7 年	美濃加茂市役所
164	1995-7	「戦後 50 年 平和を祈願する市民のつどい」パンフレット	美濃加茂市	平成 7 年	美濃加茂市役所
165	1995-8	美濃川合発電所 パンフレット	関西電力		館蔵
166	1995-9	美濃川合発電所 パンフレット	関西電力		館蔵
167	1996-1	東図書館オープン	『広報みのかも』	平成 8 年 8 月 1 日号	館蔵
168	1996-2	「加藤道子 朗読の世界」チラシ	美濃加茂市	平成 8 年	館蔵
169	1996-3	『分館建設基本計画への提案』	図書館計画施設研究所	平成 5 年	館蔵
170	1997-1	青柳大橋 パンフレット	美濃加茂市		館蔵
171	1997-2	ヤリガンナの発見	『広報みのかも』	平成 8 年 6 月 1 日号	館蔵
172	1997-3	青柳大橋 資料		平成 9 年	館蔵
173	1998-1	記念テレフォンカード			個人蔵
174	1998-2	さくらの森の整備			館蔵
175	1998-3	美濃太田駅自由通路 橋上駅舎 完成写真		平成 10 年	館蔵
176	1998-4	美濃太田駅自由通路 橋上駅舎 パンフレット			個人蔵
177	1999-1	ささゆりクリーンパーク	『広報みのかも』	平成 11 年 3 月 1 日号	館蔵
178	1999-2	ドリームコンサート 案内	『広報みのかも』	平成 11 年 12 月 1 日号	館蔵
179	1999-3	「きれいなまちにしよう」PR ポスター募集チラシ	美濃加茂市	平成 11 年	美濃加茂市役所
180	2000-1	「あい愛バス」 運行開始			館蔵
181	2000-2	「まゆの家まつり」 チラシ			館蔵
182	2000-3	みのかも文化の森 オープン時 関連資料			館蔵
183	2001-1	「第 1 回男女共同参画推進懇話会開催」	『広報みのかも』	平成 13 年 6 月 1 日号	館蔵
184	2001-2	ISO9001 基本的な考えを示した PDCA マーク	『広報みのかも』	平成 13 年 6 月 1 日号	館蔵
185	2001-3	「祝貫通 上野トンネル」記念品		平成 13 年 10 月	個人蔵

186	2002-1	整備された中部台	『日進月歩 美濃加茂市制 50 周年記念誌』	平成 16 年	館蔵
187	2002-2	参加者の声	『広報みのかも』	平成 14 年 10 月 15 日号	館蔵
188	2002-3	逍遙園 レリーフ		平成 16 年 11 月 6 日	館蔵
189	2002-4	逍遙園・寿里庵 パンフレット	美濃加茂市	平成 14 年 3 月	館蔵
190	2002-5	美濃太田駅北口広場 パンフレット	美濃加茂市建設部建設課		館蔵
191	2003-1	日本昭和村内のやまびこ学校			館蔵
192	2003-2	「小学生タウンミーティング」	『広報みのかも』	平成 16 年 1 月 1 日号	館蔵
193	2003-3	日本昭和村 パンフレット		平成 15 年	館蔵
194	2003-4	まちづくり意向調査報告書	美濃加茂市・加茂郡町村合併協議会	平成 15 年 9 月	館蔵
195	2004-1	第 1 回博学連携フォーラムチラシ			館蔵
196	2004-2	合併協議会解散のお知らせ	『広報みのかも』	平成 17 年 1 月 1 日号	館蔵
197	2004-3	市町村合併問題研究会会議録		平成 14 年	美濃加茂市役所
198	2004-4	『美濃加茂市景観計画 概要版』	美濃加茂市		館蔵
199	2005-1	「赤ちゃんと絵本事業」	『広報みのかも』	平成 17 年 4 月 1 日号	館蔵
200	2005-2	キャンドルナイト 案内	『広報みのかも』	平成 17 年 6 月 1 日号	館蔵
201	2006-1	中山道会館 オープン			館蔵
202	2006-2	岡本一平句碑 除幕式			館蔵
203	2006-3	糸遊庵 パンフレット	美濃加茂教育委員会		館蔵
204	2007-1	「文化交流協定に関する協定書」		平成 19 年	館蔵
205	2007-2	「外国人集住都市会議参加都市」	『広報みのかも』	平成 20 年 1 月 1 日号	館蔵
206	2008-1	みのかもバンドフェスタ	『広報みのかも』	平成 20 年 7 月 1 号	館蔵
207	2008-2	「蜂屋柿ーその歴史と人々ー」展 チラシ	美濃加茂市民ミュージアム	平成 20 年	館蔵

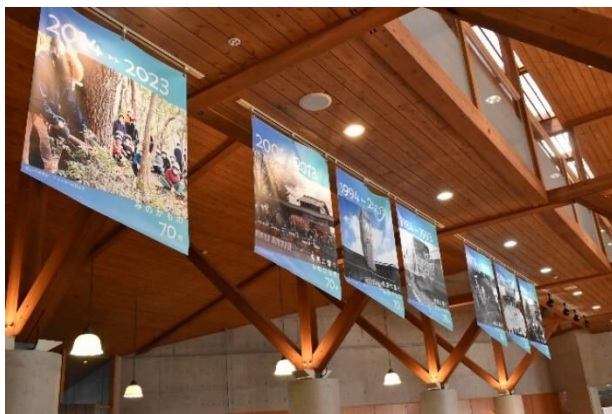
208	2008-3	「美濃加茂市のすごいところ をアート風に紹介するシリー ズ」			館蔵
209	2009-1	「日本消防団協会定例表彰 式」	『広報みのかも』	平成 21 年 3 月 1 号	館蔵
210	2009-2	「定住自立圏のイメージ」	『広報みのかも』	平成 21 年 5 月 1 号	館蔵
211	2009-3	報告書『みのかも定住自立圏 公共交通基礎調査』	公共交通プロジェ クトチーム	平成 25 年 3 月	館蔵
212	2009-4	みのかも定住自立圏情報誌 「かも丸りびんぐ」			館蔵
213	2009-5	みのかも定住自立圏 リーフ レット	美濃加茂市		館蔵
214	2010-1	『きそがわ日和 2011 記録 集』	きそがわ日和実行 委員会	平成 24 年 2 月 25 日発行	館蔵
215	2010-2	「木立に響く逍遙 vol.1」チ ラシ	美濃加茂市民ミュ ージアム	平成 22 年	館蔵
216	2011-1	番外編：漬物特集『おばあち ゃんちのおかって』	美濃加茂市民ミュ ージアム	平成 25 年 8 月 15 日	館蔵
217	2011-2	受賞した広報の表紙写真	『広報みのかも』	平成 22 年 8 月 1 日号	館蔵
218	2011-3	表彰状	社団法人日本広報 協会	平成 23 年 7 月 15 日	館蔵
219	2012-1	第 67 回国民体育大会 ぎふ清 流国体 パンフレット		平成 24 年	館蔵
220	2012-2	「災害時相互応援協定調印 式」	『広報みのかも』	平成 24 年 12 月 1 号	館蔵
221	2012-3	第 67 回国民体育大会 ぎふ清 流国体 観戦ガイドブック		平成 24 年	館蔵
222	2013-1	母校の加茂高校を訪れた岸博 士	『広報みのかも』	平成 26 年 4 月 1 日号	館蔵
223	2013-2	ドイツ調査団の記録集		平成 28 年	館蔵
224	2014-1	「地域創造大賞 総務大臣 賞」楯		平成 26 年 1 月 27 日	館蔵
225	2014-2	「里山千年構想」	『広報みのかも』	平成 26 年 5 月 1 日号	館蔵
226	2014-3	美濃加茂市制 60 周年 記念グ ッズ		平成 26 年	館蔵
227	2014-4	「美濃加茂市の歌」CD		平成 26 年	館蔵
228	2015-1	ミラノ万博での堂上蜂屋柿の ブース	「2015 年 10 大ニュ ース」		館蔵

229	2015-2	スイーツウォーク			館蔵
230	2016-1	災害備蓄飲料水「みのかもの水」		平成 28 年	館蔵
231	2016-2	「登録有形文化財登録証」			館蔵
232	2017-1	市長から新庁舎整備基本構想策定委員会へ諮問書が手渡される	『広報みのかも』	平成 29 年 3 月 10 日号	館蔵
233	2017-2	新たに追加されたふるさと納税の返礼品	『広報みのかも』	平成 29 年 3 月 10 日号	館蔵
234	2017-3	『夕雲の城』	美濃加茂市・坂祝町・富加町	平成 29 年 3 月 発行	館蔵
235	2018-1	開業当初のリバーポートパーク			館蔵
236	2018-2	集中豪雨によって濁る飛騨川	『広報みのかも』	平成 30 年 8 月 10 日号	館蔵
237	2018-3	旧伊深村役場庁舎リニューアルオープン 記念式典資料		平成 30 年	館蔵
238	2019-1	『守りたい加茂の豊かな自然』	美濃加茂市他 7 町	平成 31 年 3 月 31 日発行	館蔵
239	2019-2	『もしぶた』/ロゴマークの積み木	美濃加茂市		館蔵
240	2020-1	コロナ対策への要望書の提出	『広報みのかも』	令和 2 年 9 月 10 日号	館蔵
241	2020-2	ふるさと納税返礼品のギター	『広報みのかも』	令和 2 年 11 月 10 日号	館蔵
242	2020-3	新型コロナウイルス感染症注意喚起 パンフレット	美濃加茂市		館蔵
243	2020-4	フェースシールド	美濃加茂市民ミュージアム		館蔵
244	2021-1	『SDG s 未来都市に選定された都市の皆様へ』		令和 3 年 5 月 21 日	館蔵
245	2021-2	みのかも健康プラザ オープン	『広報みのかも』	令和 3 年 12 月 10 日号	館蔵
246	2021-3	『夕雲の城』	美濃加茂市・坂祝町・富加町	令和 3 年 3 月 発行	館蔵
247	2021-4	『美濃加茂市都市計画 マスタープラン』	美濃加茂市		館蔵
248	2022-1	受賞した机とブックラック			館蔵
249	2022-2	「太田の渡し」の復活	『広報みのかも』	令和 4 年 12 月 10 日号	館蔵

250	2022-3	『美濃加茂市里山ぐるぐる探検隊』	美濃加茂市		館蔵
251	2023-1	「クアの道」 認定記念式典			館蔵
252	2023-2	「美濃加茂事典」登録 1000 件達成記念チラシ			館蔵
253		スクラップブック（全 251 冊の一部）	美濃加茂市広報係	昭和 34 年～平成 14 年	館蔵

【参考】

- ・美濃加茂市の市制施行 70 周年を迎えるにあたっての文化振興課（美濃加茂市民ミュージアム）としての事業であり、70 年間の資料のデータ化、活用できる状態への整備を念頭に、その成果としての展示として開催した。
- ・展示にあたっては、美濃加茂市が市制施行以来発行を続けている広報紙や、市の広報担当課がまとめていたスクラップブックなどの新聞記事を調査し、また館蔵資料や市役所の行政資料についても精査をした。
- ・展示物については美濃加茂市民ミュージアムに所蔵されている資料を中心に、一部は美濃加茂市役所の行政文書を借用して展示をした。美術工芸展示室では、1970（昭和 45）年に市が市政 PR のために作成した広報映画「躍進する美濃加茂」を上映し、関連資料を展示した。
- ・企画展示室の中途には来館者も参加可能なコーナーを一部設けた。当時の写真をいくつか大きく掲載し、その写真にまつわる思い出を記入いただく「このときあなたは…?」、また美濃加茂のこれからについて希望や願いを書いてもらう「未来に繋ぐものかもの 70 年」である。五角形の記入用紙が展示空間にリズムを持たせ、それを絵馬のように書けるという方法も、来館者の積極性を誘発したように感じる。「過去」と「未来」のアクティブパネルの間には市役所竣工当時に寄贈され長らく市役所のどかにかけてられていたと思われる鏡を設置し、「現代をうつす鏡」として時間的な流れを持たせた。



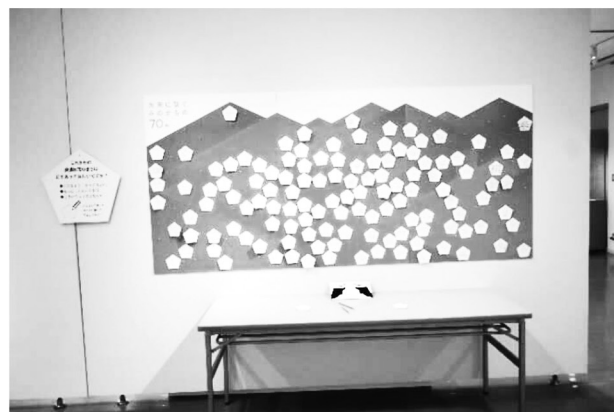
〔エントランス・タペストリー〕



〔1954 年～（企画展示室）〕



〔2011 年～（企画展示室）〕



〔「未来に繋ぐみのかもメッセージ」（企画展示室）〕



〔エントランス・庁舎旧玄関看板〕



〔映像展示「躍進する美濃加茂」（美術工芸展示室）〕



〔記念講演「「平成」時代を考える」〕



〔市制 70 周年記念 森のコンサート〕

【アンケート結果】（全 64 枚）

選択設問から

①展示の資料・作品の見やすさ（配置、明るさ、空間など）にご満足頂けましたか？

・満足	27
・ほぼ満足	22
・ふつう	14
・やや不満	1
・不満	0
計	64

②展示の資料・作品の分かりやすさ（解説、説明、パネルなど）にご満足頂けましたか？

・満足	25
・ほぼ満足	25
・ふつう	14
・やや不満	0
・不満	0
計	64

③展示の資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られましたか？

・満足	23
・ほぼ満足	27
・ふつう	11
・やや不満	3
・不満	0
計	64

④この展示を他の人に伝え、来館を勧めたいと思いますか？

・大いに	31
・少し	24
・どちらともいえない	8
・あまりすすめたくない	0
・すすめたくない	0
計	63

自由記述から

- ・美濃加茂市にいて3年ほどですが、市のマークに込められた意味やマークにどのような字が組み込まれているか知ることができて楽しかったです。
- ・美濃加茂の歴史を学芸員の方から説明を受けながら聞くことが出来とても有意義な時間でした。畜産が以前は盛んだったことや当時の方々の思想・活動内容など、どれも興味深かったです。美濃加茂市のことを更に好きになることが出来る体験でした。
- ・地域学習としてよい題材だと思う。
- ・古い資料を集めて展示、その資料をひとつひとつ調べられたことにとても感心しました。今回の展示を見て美濃加茂市が、非常にまとまりのあるおもしろい市であることがわかりました。
- ・当時のことをいろいろ思い出してとてもなつかしく感じました。
（昭和43年9月に来た当時の佐藤総理と握手した子がいて、手を洗えないと言っていた小学5年生の時のことを思い出しました）大変面白かったです。時間がなく一部しか見れなかったのも、また来たいと思います。ありがとうございました。
- ・日ごろ忘れていた市の過去を知れたのでよかった。
- ・「これからのみのかもの町をどうしてほしいか」など、おきゃくさんのご意見もきいていることがよくつたわっていいと思います。
- ・大変良い企画であると思います。記録に基く説明が学び易く、市民のための展示であり、歴史がまとまっている。
- ・美濃加茂市の発展ぶりにおどろきました。すばらしい市です。
- ・貴重な資料を見ることが出来、新たな発見もありました。
- ・現在的美濃加茂市が少しずつ形作られていくまでの過程が事細かに解説されていて圧倒された。おそらくただ平凡に暮らしていたら、心にとどめることもなく流していたであろう物（法、施設、活動など）が、実はみのかもの市民の暮らしを支えていること、歴史あるものなんだと知ることができた。
- ・美濃加茂市70年素晴らしい展示感動しました。合併当時の熱い想いが伝わってきました。多くの市民に来ていただき、未来に繋ぐ心をリレーするといいいね。関係者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。
- ・知らない土地の歴史を知る機会はとても貴重でとても面白かったです。
- ・生まれる前の出来事から生まれてからこれまでの出来事まで先人が又自分たちが繋いできた歴史を知れて良い機会となった。
- ・昭和の時代では戦後の復興、高度経済成長をうかがうわせるものが多く市の歴史やその時代を生きる人々の活気や熱量を感じた。全く縁のなかった地域であるが、今ここで暮らしていることにつながっていると改めて感じるとその努力に敬意の念を抱く。
- ・70年の歴史にふれる大変良い展示でした。史料の数々の中身まで見たいと思いました。期間限定ではなく、継続的に展示をしていくと良いのではないのでしょうか。
- ・美濃加茂市の70年をたどる貴重な資料をたくさん見ることができてよかった。新たな発見もあって良かった。
- ・貴重な資料の展示もあり、70年という年月を感じました。市の合併当時のキンチョウしたフンイキを感じました。

芸術と自然 美濃加茂市民ミュージアムの現代美術レジデンスプログラムを振り返る

会 期：2025 年 2 月 22 日（土）～3 月 23 日（日）〈32 日間〉

会 場：企画展示室、美術工芸展示室、展示ホール

展示点数：芸術と自然 計 17 点

林武史ドローイング展 計 31 点

観 覧 料：無料

入場者数：1168 人



【内容】

2000 年 10 月、美濃加茂市民ミュージアムは開館記念展として「芸術と自然 若林奮・大久保英治・山口啓介」を開催し、翌年から「芸術と自然」を主題にした美術家の滞在制作や成果発表の展覧会やワークショップ等を毎年続けてきました。敷地内にはアーティスト・インレジデンスを目的として設置した宿泊アトリエ棟があり、多くの作家がここを拠点に滞在制作をしました。

当館は森の中に立つ総合博物館です。招へいた作家の多くは周囲の森の空間での展示、生息する植物を素材に使った作品の制作やワークショップを考え出しました。また、考古・歴史・自然・民俗など美術以外の分野も対象とする当館の性質を生かして、他分野の学芸員が関わりつつ作家独自の考えから多様な資料を提示する試みも行いました。作家たちはそれぞれの視点から美濃加茂の自然や風土、歴史に向き合い、ここでしかできない様々な展開を見せてくれました。

2025 年、当館は開館 25 周年を迎えます。そこで開館から昨年度までの現代美術レジデンスプログラムを振り返り、収蔵する参加作家の作品を展示し、各年度に行ったワークショップや制作展示の様子を振り返るパネル展を開催しました。

また同時期に「特集 林武史ドローイング展」を開催しました。2020 年度に招へいた岐阜市出身の彫刻家・林武史の企画展開催の前後に作家から寄贈・寄託を受けた、石の彫刻制作に関わるドローイングの数々を紹介しました。また、2020 年度の林武史展の準備期間はコロナ禍に重なっていました。この時期に東京藝術大学の教え子と共に取り組んだリレー・ドローイングを併せて展覧しました。

【関連事業】

□林武史アーティストトーク

2 月 22 日（土） 13:30～14:30 参加者：20 人

講 師：林武史氏 会 場：美術工芸展示室

□ミュージアムトーク

2 月 24 日（月） 10:00～11:00 参加者：4 人

講 師：当館学芸員 会 場：企画展示室・美術工芸展示室・展示ホール・緑のホール

□大北利根子ワークショップ「シルエットを文化の森に」

3 月 2 日（日） 13:00～16:00 参加者：19 人

講 師：大北利根子氏 会 場：エントランスホール、企画展示室

□阿曾藍人アトリエ見学

3 月 9 日（日） 13:00～15:30 参加者：14 人

講 師：阿曾藍人氏 会 場：企画展示室、阿曾藍人アトリエ（市内蜂屋町）

□ナイトミュージアム

3月20日（木・祝）17:00～20:00 参加者：21人

【展示品】

【企画展示室】芸術と自然

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法・材質
1	小本章	美濃加茂市民ミュージアム 庭 春／夏／秋／冬	2003（平成15）年	38.0×90.0 （4点）	ガッシュ、画布／プリント、 印画紙、アクリル板
2	阿部大介	Skin of Tree 07	2015（平成27）年	168.0×152.0	木、油性インク、紙
3	阿部大介	Skin of Tree13	2015（平成27）年	98.0×58.0× 24.0	木、油性インク
4	阿部大介	Skin of Tree13	2015（平成27）年	119.0×78.5	木、油性インク、紙
5	押江千衣子	萬葉	2012（平成24）年	162.0×194.0	オイルパステル、オイル、 キャンバス
6	渡辺泰幸	土の音	2001（平成13）年	サイズ可変	陶土
7	阿曾藍人	土の織物	2015（平成28）年	60.0×180.0	陶土、布、木
8	阿曾藍人	土の織物	2015（平成28）年	60.0×60.0	陶土、布、木
9		栗田宏一ワークショップ「みんなで 持ち寄る 1000 色の土」より	2005（平成18）年	—	土、瓶
10	川井昭夫	Photo-painting 叢 07-1-17	2007-08 （平成19-20）年	40.0×40.0× 3.5	油彩・ミクストメディア、 FRP パネル
11	川井昭夫	麻布・square 08-2	2008（平成20）年	40.0×40.0× 3.5	アクリル絵の具、キャンバス
12	篠原芳子	correspondence no sender's name- 01	2016（平成28）年	102.0×73.0	カラーペンシル、顔料、紙、 パネル
13	笹谷晃生	草本	2010（平成22）年	サイズ可変	鉄
14	太田三郎	SEED PROJECT from MINOKAMO	2001（平成13）年	21.0×11.8 （20点）	コピー、種子、和紙
15	大北利根子	作品	1998（平成10）年	64×240×220	グラスファイバー
16	大久保英治	天と地の間に みのかも	2000（平成12）年	27.0× 21.5 （3点）	ペン、紙

【展示ホール／緑のホール】

17	平川祐樹	雷の樹-185年の落下	2013（平成25）年	—	フルHD、サイレント、 2分間ループ
----	------	-------------	-------------	---	-----------------------

● 作品の所蔵先は美濃加茂市民ミュージアム、no.7《土の織物》のみ作家蔵

● No.17 は2月23日・24日 3月1日・2日・9日・16日・22日・23日は緑のホールで、他の日は展示ホールのモニターで上映。

【美術工芸展示室】林武史ドローイング展

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法・材質
1	林武史	無題 1	1983 (昭和 58) 年	45.5×65.3	鉛筆、渋紙、柿渋
2	林武史	宴・宴のためのドローイング A	1986 (昭和 61) 年	60.0×42.0	鉛筆、アクリル、コンテ、ジェッソ、紙
3	林武史	呼吸	1990 (平成 2) 年	62.5×80.2	墨、鉛筆、コンテ、和紙
4	林武史	無題	1994 (平成 6) 年	88.0×62.0	ジェッソ、鉛筆、墨、和紙
5	林武史	無題	1994 (平成 6) 年	88.0×62.0	ジェッソ、鉛筆、墨、和紙
6	林武史	無題	1994 (平成 6) 年	88.0×62.0	ジェッソ、鉛筆、墨、和紙
7	林武史	無題のためのドローイング	1993 (平成 5) 年	61.0×88.0	墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
8	林武史	無題	1993 (平成 5) 年	88.0×63.0	墨、鉛筆、ジェッソ、和紙
9	林武史	かさねることのためのドローイング	1997 (平成 9) 年	30.5×43.3	アクリル、墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
10	林武史	かさねることのためのドローイング	1995 (平成 7) 年	43.7×31.3	アクリル、墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
11	林武史	ならぶことのためのドローイング	1998 (平成 10) 年	42.0×61.5	墨、コンテ、ジェッソ、和紙
12	林武史	ならぶことのためのドローイング	1998 (平成 10) 年	24.5×33.2	鉛筆、墨、ジェッソ、和紙
13	林武史	ならぶことのためのドローイング	1998 (平成 10) 年	24.5×33.0	鉛筆、墨、ジェッソ、和紙
14	林武史	きざむことのためのドローイング	1994 (平成 6) 年	61.5×44.5	墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
15	林武史	きざむことのためのドローイング	1994 (平成 6) 年	62.0×44.7	墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
16	林武史	むすぶことのためのドローイング	1999 (平成 11) 年	35.4×57.2	墨、鉛筆、紙
17	林武史	歩く人のためのドローイング	2004 (平成 16) 年	32.5×49.0	鉛筆、パステル、墨、ジェッソ、和紙
18	林武史	庭の仕事のためのドローイング	2014 (平成 26) 年	39.0×54.4	ボールペン、モデリングペースト、紙
19	林武史	無題	1993 (平成 5) 年	82.5×61.5	アクリル、鉛筆、モデリングペースト、和紙
20	林武史	Untitled 93-01	1993 (平成 5) 年	88.0×60.5	墨、コンテ、鉛筆、ジェッソ、和紙
21	林武史	林間のためのドローイング (1)	2003 (平成 15) 年	86.5×62.5	鉛筆、ジェッソ、和紙
22	林武史	林間のためのドローイング (2)	2003 (平成 15) 年	86.5×61.5	鉛筆、ジェッソ、和紙
23	林武史	水田のためのドローイング	2000 (平成 12) 年	61.0×86.5	墨、鉛筆、ジェッソ、和紙
24	林武史	水田のためのドローイング	2001 (平成 13) 年	53.2×60.0	墨、鉛筆、色鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
25	林武史	水田のためのドローイング	2000 (平成 12) 年	59.0×43.0	墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
26	林武史	Fontaine ためのドローイング	2001-02 (平成 13-14) 年	48.0×65.5	鉛筆、墨、透明水彩、ジェッソ、和紙

27	林武史	雨の記憶	2008（平成 20）年	54.3×78.6	色鉛筆、鉛筆、紙
28	林武史	山のかたち 赤	2020（令和 2）年	56.0×49.0	ボールペン、紙
29	林武史	山のかたち 黒	2020（令和 2）年	49.0×56.0	ボールペン、紙
30	林武史	山のかたち 青	2020（令和 2）年	56.0×49.0	ボールペン、紙
31	東京藝術大学 美術学部彫刻 科第二研究室	リレードローイング	2020（令和 2）年	—	ミクストメディア、紙

【参考／企画展示室】

「芸術と自然」の現代美術レジデンスプログラムに関係する収蔵品から、作家が当館で滞在制作によって制作した作品を中心に本展の出品作を選定した。このプログラムの特徴や成果を再考し、4章の構成で各作家の取り組みと作品を紹介した。展示作業には一部、アートボランティアも参加した。

◆「ミュージアムの森で」作家が長期にわたって当館に滞在し、制作した作品群

- ・四季ごとに来館した小本章が、工芸室付近にキャンバスを据えて制作した絵と写真の組作品
- ・当館を囲む森で拾った古木や切り倒した大木を版にして、阿部大介が制作した版画
- ・押江千衣子が約3か月間滞在し、森に自生するアオハダの木をモチーフにアトリエで描いた絵画
- ・ひのき広場附近に立っていた、雷が落ちて枯れた木の伐採に平川祐樹が立ち合い、撮影した映像作品

◆「美濃加茂の作家、美濃加茂の土」土を主題にした作品を制作する作家を紹介

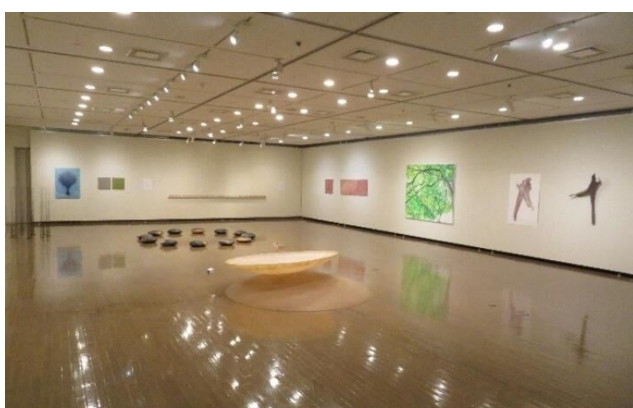
- ・土の音を主題にワークショップを開催した当市出身の渡辺泰幸の、叩いて音を楽しめる陶の作品
- ・市内に移住し工房を構える阿曾藍人の、各地の土で作る陶板作品のシリーズを再構成して展示
- ・各地で土を採集し展示する栗田宏一が当館で開催した、市民参加の1000色の土の展示を一部再現

◆「自然からの着想、フィールドワーク」県外から招聘した自然や植物を主題にした作品

- ・倒れた雑草の写真の上から同色の絵具で叢を描く富山市在住の川井昭夫の絵を麻布の作品と対で展示
- ・当館での滞在制作の最初期に、美濃加茂をイメージして描いた京都市在住の篠原芳子の絵画
- ・植物や環境を主題に鉄等で彫刻を制作する神戸市在住の笹谷晃生の、植物をモチーフにした作品
- ・美濃加茂で拾い集めた植物の種子を使い、切手シート状の版画にした太田三郎の作品

◆「彫刻シンポジウムの流れと森の野外彫刻」現代美術レジデンスプログラムは1988-97年に開催した美濃加茂彫刻シンポジウムの流れを継承している。当時の参加作家や森に点在する野外彫刻を紹介。

- ・95年のシンポジウムで東図書館に円盤を重ねた形の彫刻を設置した大北利根子の館蔵作品
- ・88年のシンポジウムに参加した大久保英治が、当館の開館記念展で設置したランドアートのスケッチ



〔企画展示室 北／西 壁面〕



〔企画展示室 東／南 壁面〕

【参考／美術工芸展示室】

2020 年、現代美術レジデンスプログラム「林武史 石の記憶、泥の声」の開催以降、当館では、作家より展覧会出品作を含めたドローイングの寄贈・寄託の申し出を受け、44 作品を収蔵する。作家が作品発表を始めた 80 年代以降の歩みを示すこれらの作品群から、本展では 30 点を展示した。

各地で大型の石彫を手掛ける作家は、様々な段階でドローイングを描く。作り始める前の抽象的な絵、石の外形を線で描いた具体的な素描、空間把握への意識など、背景には描こうとした意志と理由がある。また実際に作られた石の作品を想起するとき、作家の制作への衝動や目指したイメージがドローイングの中に見えてくる。重厚で力強く伸びやかなドローイングは、彫刻家・林武史の思考を様々な伝えるものである。そこで本展ではドローイングと対照できるよう、個展の会場風景や彫刻の写真を併せて掲示した。

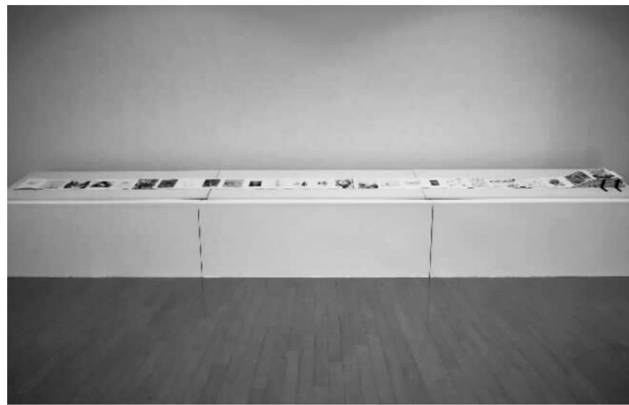
最後に、2020 年の林武史展準備期間中のコロナ禍に東京藝術大学の教え子と行ったリレー・ドローイングの原画を展示。会期中に 5 回、開く頁を変えて全 149 頁を公開した。林が描いた最初の絵をグループ LINE で共有し、次の人が前の人の色や形や素材、発想を引き継ぎ描く手法で、制作は 9 月の林武史展の展示作業の開始日直前まで続けられた。林が発信した参加者の呼びかけの文章もパネル掲示した。描く手の動きや勢いが感じられるドローイングの数々から、様々な局面で生まれてくる作家の創意や発想の豊かさが伝わることを願いつつ、全体として 2020 年の林武史展の開催までを回顧するものとした。

〔リレードローイング 各頁の展示期間〕

2月22・23・24・26日			2月27・28日・3月1・2・4日			3月5・6・7・8・9日			3月11・12・13・14日			3月15・16・18・19日			3月20・21・22・23日		
No.	日付	作家名	No.	日付	作家名	No.	日付	作家名	No.	日付	作家名	No.	日付	作家名	No.	日付	作家名
1	2020.5.7	林武史	26	2020.5.27	神田茉莉乃	51	2020.6.11-12	川島大幸	76	2020.7.13	清水啓一郎	101	2020.8.7	丸山喬平	126	2020.9.1	林岳
2	2020.5.8	中本那由子	27	2020.5.28	伊勢崎寛太郎	52	2020.6.13	宮原嵩広	77	2020.7.14	中澤安奈	102	2020.8.8	小塚照己	127	2020.9.2	植松美月
3	2020.5.9	丸山喬平	28	2020.5.28	伊勢崎寛太郎	53	2020.6.14	野畑常義	78	2020.7.15	藤原彩人	103	2020.8.9	中本那由子	128	2020.9.3	島田佳樹
4	2020.5.10	森山泰地	29	2020.5.29	中本那由子	54	2020.6.15	大野綾子	79	2020.7.16	林武史	104	2020.8.10	川島大幸	129	2020.9.4	島田佳樹
5	2020.5.10	島田佳樹	30	2020.5.29	中本那由子	55	2020.6.16	丸山喬平	80	2020.7.17	大野綾子	105	2020.8.11	林武史	130	2020.9.5	丸山喬平
6	2020.5.12	植松美月	31	2020.5.30	林岳	56	2020.6.17	島田佳樹	81	2020.7.18	名倉達了	106	2020.8.12	伊勢崎寛太郎	131	2020.9.6	林武史
7	2020.5.13	林岳	32	2020.5.30	林岳	57	2020.6.18	山崎良太	82	2020.7.19	川島大幸	107	2020.8.13	丸山喬平	132	2020.9.7	中本那由子
8	2020.5.14	伊勢崎寛太郎	33	2020.5.31	森山泰地	58	2020.6.19	中本那由子	83	2020.7.20	中本那由子	108	2020.8.14	曾根麻衣	133	2020.9.8	江藤祐一
9	2020.5.15	轟木麻左臣	34	2020.5.31	森山泰地	59	2020.6.20	江藤祐一	84	2020.7.21	丸山喬平	109	2020.8.15	宮原嵩広	134	2020.9.9	名倉達了
10	2020.5.16	山崎良太	35	2020.6.1	植松美月	60	2020.6.21	林岳	85	2020.7.22	中澤安奈	110	2020.8.16	藤原彩人	135	2020.9.10	石井琢郎
11	2020.5.17	神田茉莉乃	36	2020.6.1	植松美月	61	2020.6.22	伊勢崎寛太郎	86	2020.7.23	林武史	111	2020.8.17	清水啓一郎	136	2020.9.11	小塚照己
12	2020.5.18	根本祐社	37	2020.6.2	轟木麻左臣	62	2020.6.23	宮城島万莉子	87	2020.7.24	曾根麻衣	112	2020.8.18	森山泰地	137	2020.9.12	根本祐社
13	2020.5.19	岸本達郎	38	2020.6.2	轟木麻左臣	63	2020.6.24	森山泰地	88	2020.7.25	林岳	113	2020.8.19	清水啓一郎	138	2020.9.13	根本祐社
14	2020.5.20	曾根麻衣	39	2020.6.3	宮城島万莉子	64	2020.6.25	名倉達了	89	2020.7.26	山崎良太	114	2020.8.20	丸山喬平	139	2020.9.14	江藤祐一
15	2020.5.21	川島大幸	40	2020.6.3	宮城島万莉子	65	2020.6.26	清水啓一郎	90	2020.7.27	森山泰地	115	2020.8.21	山崎良太	140	2020.9.15	川島大幸
16	2020.5.22	宮城島万莉子	41	2020.6.4	島田佳樹	66	2020.6.27	植松美月	91	2020.7.28	野畑常義	116	2020.8.22	岸本達郎	141	2020.9.16	小塚照己
17	2020.5.23	林武史	42	2020.6.4	島田佳樹	67	2020.6.28	轟木麻左臣	92	2020.7.29	石井琢郎	117	2020.8.23	川島大幸	142	2020.9.17	川島大幸
18	2020.5.23	林武史	43	2020.6.5	曾根麻衣	68	2020.6.29	藤原彩人	93	2020.7.30	丸山喬平	118	2020.8.24	宮城島万莉子	143	2020.9.18	森山泰地
19	2020.5.24	岸本達郎	44	2020.6.5	曾根麻衣	69	2020.6.30	丸山喬平	94	2020.7.31	江藤祐一	119	2020.8.25	中澤安奈	144	2020.8.2	野口真美子
20	2020.5.24	岸本達郎	45	2020.6.6	山崎良太	70	2020.7.1	曾根麻衣	95	2020.8.1	藤原彩人	120	2020.8.26	曾根麻衣	145	2020.8.3	HUANG YU
21	2020.5.25	丸山喬平	46	2020.6.6	山崎良太	71	2020.7.1	根本祐社	96	2020.8.2	宮城島万莉子	121	2020.8.27	林武史	146	2020.8.5	亀田満紀史
22	2020.5.25	丸山喬平	47	2020.6.7	川島大幸	72	2020.7.3	岸本達郎	97	2020.8.3	轟木麻左臣	122	2020.8.28	宮原嵩広	147	2020.8.5	高橋瑠璃
23	2020.5.26	根本祐社	48	2020.6.7	川島大幸	73	2020.7.4	小塚照己	98	2020.8.4	島田佳樹	123	2020.8.29	江藤祐一	148	2020.8.6	茂木淳史
24	2020.5.27	根本祐社	49	2020.6.9-10	森山泰地	74	2020.7.5	林武史	99	2020.8.5	伊勢崎寛太郎	124	2020.8.30	根本祐社	149	2023.8.7	林武史
25	2020.5.27	神田茉莉乃	50	2020.6.10	石井琢郎	75	2020.7.12	小塚照己	100	2020.8.6	林武史	125	2020.8.31	丸山喬平			
26	2020.5.27	神田茉莉乃	51	2020.6.11-12	川島大幸	76	2020.7.13	清水啓一郎	101	2020.8.7	丸山喬平	126	2020.9.1	林岳			



〔林武史ドローイング展〕



〔リレードローイング〕

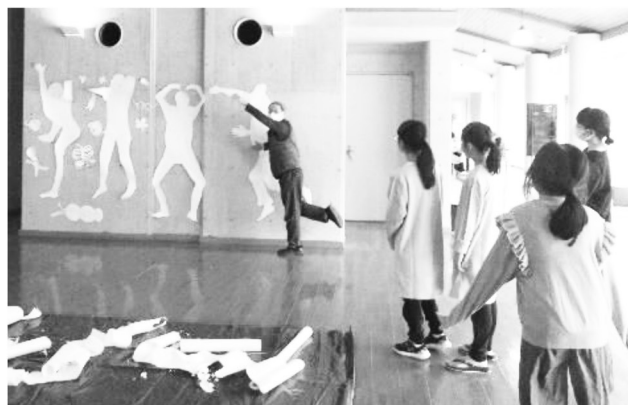
【参考／展示ホール・関連企画】

展示ホールでは現代美術レジデンスプログラムの取り組みを年度毎に 1 枚にまとめたパネル計 24 枚を展示した。また、各年度で作成してきた記録集を展示した。平川祐樹の映像は、森を背景に鑑賞できるよう展示ホールの窓際にモニターを設置した。会期中の休日は同じ作品を緑のホールのスクリーンで上映した。

関連企画の「大北利根子ワークショップ」では、参加者同士が協力して自分のシルエットを白い紙で象りし、その影を遊ばせるようにエントランスホールの壁面に飾し、皆で鑑賞した。「阿曾藍人アトリエ見学」では、作家の案内で工房を見た後、野焼きの仕上げの段階と灰の中から作品を引き出す場面に立ち会った。会期中の秋分の日にはナイトミュージアムを実施し、真西に向かい立つ彫刻「にしみまど」（小島久弥作、97 年のシンポジウムで当館敷地内に設置）から西の空に沈む夕日を見るイベントを行った。



〔展示ホール〕



〔大北利根子ワークショップ〕



〔阿曾藍人アトリエ見学〕



〔ナイトミュージアム「にしみまど」〕

【アンケート結果】（全 13 枚・複数回答あり）

選択設問から

① 展示の資料・作品の見やすさに（配置、明るさ、空間など）
にご満足いただけましたか？

・満足	9
・ほぼ満足	2
・ふつう	1
・やや不満	1
・不満	0
計	13

② 展示の資料・作品のわかりやすさ（解説、説明、パネルなど）
にご満足いただけましたか？

・満足	8
・ほぼ満足	2
・ふつう	2
・やや不満	0
・不満	1
計	13

③ 資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られ
ましたか？

・満足	10
・ほぼ満足	1
・ふつう	1
・やや不満	0
・不満	1
計	13

自由記述から

- ・走り書きしていると思ったが、絶妙なバランスで構成されていておもしろく感じた。
- ・ドローイングの言葉から解説し、展示を広くの方に来館されることを期待します。※自然、生命は少し理解できますかね。
- ・林先生のお話を直に聞けてとても面白かったです。芸術家の描く一線は本当に美しいものだと感じました。頭の中に広がるイメージはどんな風に広がっていくのだろう。話を聞いてから見直すとますます身近に親しみやすくなってきました。ありがとうございました。美術館の中にドロ（本物！）の水田をつくろうという発想に驚きますが、とてもユニークで面白い。それを許したこの方々もユニークで面白い。このユニークさが魅力です。
- ・一つ一つの作品がすごく魅力的で感動した。施設もきれいですごく心地良く見ることができた。先生から直接作品の説明があり、すごく楽しかった。
- ・少しマニアックかもしれませんが、私にとってはとても面白い展覧会でした。今後もぜひ継続してほしい。
- ・リレドローイングの続きを見たいのでまた来ます。文化の森のタカラモノをたくさん見せて下さってありがとうございます。
- ・6-同じ形でもいろいろな音が出ておもしろかった。9-土の色がこんなにたくさんあることにびっくりした。14-草の種を見分けるのにすごいと思った。道端で生えている草の種がこんな形をしていることがわかって勉強になった。ドローイングとは分かりやすい解説があると良い。「歩く人」の作品が参道に横たわっていたのを見て、参道のまん中は神様が通る所なので端を歩くようにと教えられた。許可されたのが不思議です。じっくり見ることができました。ありがとうございました。
- ・全くわからない！芸術って何なのでしょう？感動ゼロ！
- ・よかった。
- ・にしみまどで夕日を見られてよかったです。
- ・清潔感があって良かった。

収蔵品展とそのほか

【民具展示館・生活体験館】

□蚕とまゆ展

会 期：2024 年 4 月 20 日（土）～9 月 8 日（日） 〈122 日間〉
会 場：民具展示館、生活体験館
展示点数：35 点
観 覧 料：無料

□ていねいな暮らしと道具展 言い伝えのお話と道具

会 期：2024 年 9 月 29 日（日）～2025 年 3 月 23 日（日） 〈147 日間〉
会 場：民具展示館
展示点数：17 点
観 覧 料：無料

【美術工芸展示室】

□特集展示 美濃加茂の美術指導者たち

会 期：2024 年 6 月 22 日（土）～8 月 25 日（日） 〈56 日間〉
会 場：美術工芸展示室
展示点数：15 点
観 覧 料：無料

【展示品リスト】

No.	作家名	作品名	材質技法	制作年
1	堀部曾石	美意延年	紙本墨書	制作年不詳
2	津田勝利	デメテルとペルセポネ	油彩、キャンバス	2006（平成 18）年
3	福井鋭亘	虎落笛の里人たち	写真、プリント	1996（平成 8）年
4	佐光圭蘭	山家集より	紙本墨書	2005 年（平成 17 年）
5	渡辺 浩	玄関	紙本着色	1968（昭和 43）年
6	高橋和生	宝剣岳	紙本墨画	制作年不詳
7	山田隆夫	木曽川のほとり 春・夏・秋・冬	写真、プリント	2014～2015 （平成 26～27）年
8	小林文一	赫陽	陶土	1996（平成 8）年
9	三輪乙彦	S 君の像	石膏	1954（昭和 29）年
10	三輪乙彦	或る女	石膏	制作年不詳
11	松永 優	作品名不詳（木曽川）	水彩、紙	制作年不詳
12	福井 弘	山笑う	紙本墨書	2015（平成 27）年
13	今井桃丘	筑波嶺の	紙本墨書	2014（平成 26）年
14	堀江良一	弧のある風景 06-1	木版、紙	2015（平成 27）年
15	亀谷秀司	郷土の偉人 坪内逍遙博士	油彩、キャンバス	2020（令和 2）年

所蔵：9・10 は個人蔵、15 は寄託（坪内逍遙博士顕彰会所蔵）、他は全て館蔵品

その他の展示活動

□みのかも annual2024 -でもそこに自分はいる-

会 期：2024 年 4 月 28 日（日）～4 月 29 日（月） 〈2 日間〉

会 場：敷地内野外

観覧料：無料

ミュージアムを囲む森を舞台に、主に東海地方を拠点とする現代美術の作家たちが参加し、現地での実験的な展示を試みる 2 日間限りのアートイベント。2024 年度は 26 組の作家の参加がありました。

□広報みのかも連載コラム紹介展「みのかもの山、望む山」 〈17 日間〉

会 期：2024 年 5 月 10 日（金）～5 月 30 日（木）

会 場：美術工芸展示室

観覧料：無料

「広報みのかも」で全 12 回にわたり連載してきた山をはじめ、この地域にあって身近に親しまれている山々と、地域からはるかに望む山々について、まつわる歴史や文化を紹介しながら、人と山との関係を考える機会としました。

□特別展「濃尾震災を考える日」

会 期：2024 年 10 月 26 日（土）～11 月 4 日（月・祝） 〈9 日間〉

会 場：エントランスホール

観覧料：無料

133 年前の 1891（明治 24）年 10 月 28 日に起きた濃尾大震災について、この地域での被害状況や歴史的な動きを紹介し、地震被害への危機感が拡大している今、過去に起こったこの未曾有の災害について地域に伝わる資料を通して改めて考え、自分事として現在をみつめる機会としました。

□第 69 回美濃加茂市美術展

会 期：2024 年 11 月 21 日（木）～12 月 1 日（日） 〈10 日間〉

会 場：企画展示室、美術工芸展示室、展示ホール、エントランスホール

観覧料：無料

美術との身近なふれあいの場として市内外から日本画、洋画、彫刻・彫塑・工芸、書、写真の 5 部門にわたって作品を公募しました。第 69 回は 221 点の出品があり、入賞入選作品 221 点を展覧しました。

○作品の内訳

日本画	洋画	彫刻・彫塑・工芸	書	写真	合計
15 点	75 点	33 点	28 点	70 点	221 点

各種講座・ミュージアムイベント

□ 年中行事 会場 生活体験館

No.	名称	期間	内容
1	鯉のぼり立て	4月21日～5月5日	鯉のぼりを立て、ショウブとヨモギを屋根に飾りました。
2	七夕かざり	6月15日～7月7日	短冊に願い事を書き七夕を飾りました。
3	蚊帳つり	7月20日～8月18日	蚊帳をつり、夏じたくをしました。
4	二百十日	8月24日～9月8日	鎌を竹に結びつけて、風よけの風習を再現しました。
5	門松立て	12月8日～2025年1月7日	かつてこの辺りで見られた簡素な門松を立てました。
6	ひなかざり	2月9日～3月30日	土びなのほか、平成、昭和のひな人形を飾りました。

□ 各種講座

定期講座 はたおり 会場 生活体験館 講師 生活体験ボランティア

No.	名称	開催日	時間	内容	参加者
1	はたおり講座（初級）①	5月11日	9:30～12:00	初心者を対象にしたはたおり入門講座です。全3回で2メートルほどの布を織りました。	4人
2	はたおり講座（初級）②	5月18日			
3	はたおり講座（初級）③	5月25日			

ていねいな暮らし講座 会場 生活体験館 講師 生活体験ボランティア

No.	名称	開催日	時間	内容	参加者
1	真綿づくり	6月15日	9:30～12:00	蚕のまゆから真綿を作りました。	11人
2	夏を染める	8月3日	9:30～12:00	藍の生葉で絹布を染めました。	12人
3	秋を染める	11月16日	9:30～12:00	秋の草木でTシャツを染めました。	12人
4	春を染める	3月13日	9:30～12:00	春の草木で絹布を染めました。	12人
合計					47人

アートな1日講座

No.	名称	開催日	時間	講師	会場	参加者
1	陶芸でつくる器	5月26日	①13:00～14:30 ②15:00～16:30	吉野浩志氏	陶芸室	15人
2	けん玉に絵付け	6月23日	13:00～16:00	当館学芸員	工芸室	6人
3	陶芸でつくる器	7月21日	①13:00～14:30 ②15:00～16:30	吉野浩志氏	陶芸室	11人
4	版画でつくる蔵書票	9月15日	13:00～16:00	当館学芸員	工芸室	11人
5	羊毛フェルトのキーホルダー	10月23日	10:00～12:00	深谷純子氏	工芸室	5人
6	陶芸でつくる器	2月16日	①13:00～14:30 ②15:00～16:30	吉野浩志氏	陶芸室	15人
合計						63人

四季を食べる講座 会場 調理室／生活体験館 講師 伝承料理の会

No.	名称	開催日	内容	参加者
1	手作り豆腐	4月20日	地元産大豆を使い豆腐を作りました。	14人
2	朴葉寿司と朴葉餅	5月18日	文化の森内の朴の木の葉を使い、寿司と餅を作りました。	15人
3	梅干し	6月15日	リハーサルで塩漬けた梅にしそをもんで入れ、梅干しを漬けました。	12人
4	手打ちうどん	7月4日	昔“川びらき”の行事の際、家庭で打っていたうどんを作りました。	8人
5	栗おこわ	9月24日	文化の森内の栗を使い、栗おこわを作りました。	15人
6	おはぎ	10月3日	昔の祝い事には欠かせないおはぎを作りました。	15人
7	かぼちゃ	11月7日	ハロウィンが日本に入ってくる前から愛されていたかぼちゃを使った料理を作りました。	8人
8	大歳のごつつお	12月5日	文化庁100年フードにも認定された、このあたりの年越しのごちそう“大歳のごつつお”を作りました。	14人
9	手作りこんにやく	1月18日	スーパーではあまり見かけることのないコンニャクイモからこんにやくを作りました。	14人
10	昭和29年頃、こんなの食べとったね	1月25日	美濃加茂市が誕生した昭和29年頃の食事を再現しました。	12人

11	手作りみそ	2月6日	市販の物とは違う無添加のみその作り方を紹介しました。	12人
合計				139人

夏休み子ども講座

No.	名称	期間	時間	講師・出演者	会場	参加者
1	はたおり	7月28日	9:30~11:30	生活体験ボランティア	工芸室	4人
2	葉っぱのもようをうつしてみよう	7月26日	9:30~11:30	当館学芸員	陶芸室	12人
合計						16人

おとなのための植物観察会

No.	内容	開催日	時間	講師	会場	参加者
1	ぎふ清流里山公園の植物	5月4日	9:30～12:00	美濃加茂 自然史研究会	ぎふ清流里山公園	17人
2	山之上富士の植物	6月29日	9:30～12:00		三和町内	17人
3	お出かけ講座 納古山の植物	9月28日	10:00～14:00		七宗町内	15人
4	山之上富士の植物	3月29日	9:30～12:00		山之上町内	10人
合計						59人

自然探検わくわくクラブ発見

No.	内容	開催日	時間	講師	会場	参加者
1	化石を見つけよう！	6月2日	9：30～12：00	美濃加茂 自然史研究会	みのかも文化の森	20人
2	ちりめんじゃこと仲間たち	7月14日				27人
3	ドングリで染めてみよう！	11月3日				18人
4	冬のトリ	12月8日				20人
合計						85人

フォレストくらぶ

No.	名称	開催日	時間	内容	会場	参加者
1	ミュージアムたんけん	6月15日	9:00~12:00	七夕飾り作り、短冊に願い事書き、施設見学をしました。	工芸室ほか	14人
2	私は陶芸家①	7月13日	9:00~12:00	抹茶茶碗の成形を行いました。	工芸室ほか	16人
3	私は陶芸家②	10月12日	9:00~12:00	前回、素焼きしてもらった抹茶茶碗に、釉薬を使い絵付けや色付けを行った。	工芸室ほか	17人
4	きらきら冬の森	11月30日	9:00~12:00	落ち葉、どんぐりなどを使って壁飾りを制作し、ビーズや綿を使って飾りつけをした。	工芸室ほか	15人
5	おもてなしをしよう	2月1日	9:00~12:00	前々回作成したお抹茶茶碗でお抹茶を味わう。今年度の活動でお世話になった尾崎窯の皆さまにも子どもたちからお抹茶をふるまいました。	生活体験館ほか	17人
合計						79人

ふらっとみゅーじあむ

会場 エントランスホール

No.	名称	開催日	時間	内 容	参加者
1	武士の兜づくりに挑戦！	8 月 8 日	13:30～15:30	美濃加茂市にある宿場、太田宿の本陣に伝わる武田耕雲斎ゆかりの兜を作りました。	26 人
2	オリジナル柄鏡をつくろう	8 月 15 日		企画展展示品の中の柄鏡「麻葉繫地蝶文」を参考に、オリジナルの絵柄の鏡を作りました。	28 人
3	君も中山道の旅人だ！	8 月 22 日		太田宿に関連して、中山道に興味をもってもらえるように「中山道六十九次絵図」の巻き物を作りました。	12 人
合計					66 人

文化の森で夏遊び

No.	名称	開催日	時間	内容	会場	参加者
1	文化の森で夏遊びを楽しもう！	8月1日、2日	9:00～12:00	生活体験館（まゆの家）の前庭や室内で、昔遊びや工作、読み聞かせなどを行いました。	生活体験館	40人
合計						40人

特別講座

No.	内容	開催日	時間	講師	会場	参加者
1	アンモナイトの不思議	9月22日	9:30～12:00	美濃加茂自然史研究会	陶芸室	2人
2	サイエンスカフェ 「自然との楽しみ方 生き物との出会いを求めて」	3月1日	14:00～15:30	長野浩文氏 (美濃加茂自然史研究会)	研修室	25人
合計						27人

<講座受講者の皆様の声をご紹介します>

各講座について、アンケートを集計しております。ここでは、受講者の皆様の声の一部抜粋し、をご紹介します。

<定期講座>

【5/11・5/18・5/25 はたおり】

- ・夢中になって出来ました。ありがとうございました。

<ていねいな暮らし講座>

【6/15 真綿作り】

- ・せっかく蚕の事を知れる機会なので、育て方～マユまでも説明があるとうれしかった。
- ・大満足でした！ありがとうございました。
- ・形はきれいじゃなかったけど楽しかった。

【8/3 夏を染める】

- ・あいをつむところから体験できて、とても楽しかったです。また、何か参加したいと思いました。
- ・子ども達がさがわしくしてすみませんでした。皆様親切にいただき、楽しく体験できました。ありがとうございました。染め上がりも大変美しく大満足です！

【11/16 秋を染める】

- ・ソテツの見学があってわかりやすかったです。
- ・たのしかった。
- ・いつもながら良かった。ぜひ又参加したい（当たれば！）
- ・あくが手に入りにくいので自宅でやるのはむずかしそうと思った。

【3/13 春を染める講座】

- ・手仕事に関する講座が多いのでとても嬉しいです。また参加したいので、機会が増えるといいなと思います。
- ・参加させていただきたい講座たくさんありますのでぜひ申し込みたいです。

<アートな1日講座>

【5/26・7/21・2/16 陶芸でつくる食器】

- ・最初はこわかったけど、やってみたら楽しかったし、うまくできてうれしかったです。
- ・ろくろが難しかったです。まずは基礎から練習しないといけないと思った。
- ・楽しい企画をありがとうございます。またいろいろと企画お願いします。色々なものづくりをしたいです。2～3回の講座も参加したいです。
- ・陶芸は初めてで、とても有意義な時間を過ごせました。市内にこのような施設があり、市民が使えるのはよいと思います。

【6/23 けん玉に絵付け】

- ・とても楽しかったからまた参加したい
- ・いつもイベントが楽しいです！

【9/15 版画でつくる蔵書票】

- ・自分の好きな動物をはんがにできてうれしかったです。ありがとうございました。また、はんが作りをやりたいです。あと前にやった白黒カメラをやりたいです。
- ・蔵書票について以前より気になっていたんで、自分で作れる講座を催してもらえて大変嬉しかった。思ったように作れなかったが、それもふくめて面白く、あとは自宅で修正してみたい。どうもありがとうございました。
- ・「蔵書票」はじめて知りました。版画はとても好きで、体験があると知ると飛んでいってます。またの機会を楽しみにしています。
- ・どの催しも人気のようでなかなか当たらないので残念、めげずに応募します。これからいろんな催しをお願いします。ありがとうございました。

【10/23 羊毛フェルトのキーホルダー】

- ・初めて参加しました。無心でものを作るのは久しぶりで楽しかったです。
- ・いつもいやされています。また何かに参加したいです。ありがとうございました。

□ 森の朗読会 各回 時間 14:00～15:00 会場 緑のホール 出演 みのかも「声のドラマ」の会

No.	回	演目	期間	参加者
1	第 238 回	「受け月」	4 月 20 日	67 人
2	第 239 回	「転生」 「壇の浦」	5 月 18 日	41 人
3	第 240 回	「とんかつ」 「一房の葡萄」 「極楽」	6 月 15 日	52 人
4	第 241 回	「父の背中で見た花火」	7 月 20 日	45 人
5	第 242 回	「捕虜と女の子」 「小さい潜水艦に恋をしたでかすぎるクジラの話」 「年老いた雌狼と女の子の話」 「野ばら」	8 月 17 日	35 人
6	第 243 回	「支柱なき世界」 「契約書の謎」 「祭りの夜に」	9 月 21 日	32 人
7	第 244 回	「十二月の都大路上下ル（カケル）」	10 月 19 日	47 人
8	第 245 回	『幻色江戸ごよみ』より 「鬼子母火」	12 月 21 日	38 人
9	第 246 回	『処方箋のないクリニック』より 「もみじドライバー・・・」	1 月 18 日	42 人
10	第 247 回	「福袋」	2 月 15 日	48 人
11	第 248 回	「チョ子」 「いろはに、こんぺいとう」 詩「あなたの手と私の手を」	3 月 15 日	43 人
合計				490 人

□ 博学連携フォーラム

名称	期日	内容	会場	参加者
第 18 回 博学連携 ミニフォーラム	10 月 20 日 15 : 15～16 : 30	今年度の博学連携フォーラムは、原点に立ち返り、文化の森活用委員会の委員の先生方と文化の森学習担当のスタッフが膝を突き合わせて、文化の森学習の活動について、話し合う時間を設けることとしました。小さなグループに分かれ、一年間の文化の森の活動を振り返り、良かった事、改善したい事などを出し合いました。文化の森の貸出できる資料の探し方や実践集にないような活動の内容、夏の暑さ対策の必要性についての意見が出ました。特別支援学級だからできること、小さい学校だからできることを模索していきたいこと、文化の森学習で学んだことを学校でも活かせるような継続した学習計画の検討や、次の学びにつなげられるよう活動の終わりに疑問を投げかけるような形にしたらどうか、事前事後学習の段階でも、タブレットを使いながら、オンラインで学校と関わることはどうかなど、様々な意見を頂きました。	研修室	15 人

みのかも文化の森 学校活用の考え方と目指すこと

みのかも文化の森は、開館前から学校が博物館を活用しながら学習活動を行うことができるよう、学校活用のプランを検討してきました。開館の2000年は「総合的な学習の時間」の全面実施の時期と重なったこともあり、すべての学年での多教科の活用を目指し活発な検討を学校とともにを行い、そこでの議論が今の活用の基盤となっています。

□文化の森だから実現できる学校活用の特徴

- ・子どもの実態や学習指導要領をもとに、活用プログラムを検討の上、作成しています。教科の授業としてカリキュラムに位置づけることで、単なる見学だけで終わらない継続的な学習の機会となることを考えています。年に一度はどの学年も来館できることを目指し計画をします。
- ・文化の森の「人・もの・こと・場」を活用することで、「本物」との出会いを活かした「ここでしかできない活動」を通して得られる気付きや感動を大切に、深い学びを目指しています。四季おりおり姿を変える自然や太古の人々が住んでいた証である遺跡や遺物、周囲の風景に溶け込んだ彫刻など、この文化の森という場が持つ空気感も含め、すべてが「本物」から学ぶ素材です。
- ・文化の森では様々な人との出会いがあり、人の言葉からと人の姿から学ぶことができます。学校の先生や保護者以外の大人であるボランティア、隣にいる友達や博物館のスタッフである学芸員と話しをしたこと、かけられた言葉、思わず口からでた言葉など他の人の関わりを大切にし、この積み重ねが豊かな学びにつながります。

文化の森という「教室」で、新しい気づきや知ることの喜び、楽しさのきっかけがどの子どもにも手に入れられる、そのような学習のあり方を築いていきたいと考えます。文化の森の学校活用は、子どもたち全員が等しく得ることができる「博物館の原体験」です。

□学習の効果を高めるために

- ・学校との日程調整や活動準備など、学校活用に関わる業務を担当する学習担当を配置しています。
- ・各活用の前に学習担当と担任の教員が必ず顔を合わせて打ち合わせを行います。活動内容だけでなく、活動のねらいや事前事後の学習とのつながりなど、各学校や児童生徒の実態に合わせた活動内容とすることを大切にしています。
- ・子どもたちの学びに寄り添い声を掛ける、時には講師となる学習支援ボランティアがいます。担任の教員や保護者以外の大人の姿から多くの刺激を得られます。
- ・学校活用で来館する際の交通手段としての「バス」を市の予算で手配しています。
- ・市内の小中学校では、校務分掌として「文化の森活用委員」を1名配置しています。その教員と文化の森の職員が「文化の森活用委員会」を設け、学習活動の工夫や運営について話し合います。
- ・文化の森活用委員会での結果や一年間のプログラム、活用の教員による振り替えりをまとめたものを『文化の森活用の手引き・活用実践集』として毎年刊行しています。
- ・文化の森での学びが子どもたちの中でどのように捉えられているのか、長期にわたる関わりによる変化を知る手がかりとして、6年生アンケートや成人式アンケートを実施しています。ここでの学びの経験やあり方を検証し、改善に努めています。

以上のような文化の森の学校活用は、次の3点につながると考えます。一つ目に博物館という場での出会いの経験を通して、生涯にわたり博物館と関わり学ぶ楽しさを知ること、二つ目に、その枠にとらわれず心豊かで文化的な市民となる素地を育むこと、三つ目に、未来を創りだしその担い手となることのできる「市民」を育むことです。

学校活用

□活動実施日 計 105 日（活動可能日 計 144 日※1） 利用率 73.61%

（参考：令和 5 年度活動実施日 計 111 日（活動可能日 計 155 日※1） 利用率 71.6

※1 式のある日および休館等で活動の受け入れができなかった日をのぞく。

□活動日及び利用者数

項目・月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R5 年度
利用団体数	3	12	13	3	0	16	20	18	8	13	12	1	119	115
市内	3	12	13	3	0	14	20	17	7	13	12	1	115	110
市外	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	4	2
小学校	3	12	11	2	0	10	15	14	7	10	12	0	96	97
中学校	0	0	1	1	0	3	4	4	0	2	0	0	15	10
幼・保・他	0	0	1	0	0	3	1	0	1	1	0	1	8	3

項目・月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R5 年度
利用者数	108	586	673	145	0	469	1,035	887	460	511	633	43	5,550	5,318
市内	108	586	673	145	0	463	1,035	872	424	511	633	43	5,493	5,231
市外	0	0	0	0	0	6	0	15	36	0	0	0	57	27
小学校	108	586	511	98	0	317	958	767	416	383	633	0	4,777	4,740
中学校	0	0	110	47	0	47	56	120	0	88	0	0	468	467
幼・保・他	0	0	52	0	0	105	21	0	44	40	0	43	305	111

項目・月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R5 年度
学級数	4	19	30	13	0	26	40	32	16	34	25	1	240	243
学年数	3	12	32	10	0	25	21	17	13	35	17	1	186	144
支援した学習ボランティア数	1	2	5	3	0	12	1	2	0	2	3	0	31	41
支援したその他ボランティア数	2	7	3	0	0	4	3	8	0	10	2	0	39	0

□学年別活動教科数

学年・教科等	国語科	社会科	理科	生活科	図工	総合	生活単元※	施設見学昼食	卒園制作	親子	職業体験	その他	合計
1 学年	10	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	28
2 学年	2	0	0	16	2	0	0	0	0	0	0	0	20
3 学年	0	15	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	21
4 学年	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
5 学年	0	0	11	0	0	1	0	0	0	0	0	0	12
6 学年	0	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
特別支援他	0	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	0	11
中学校	0	0	0	0	0	2	5	0	0	0	8	0	15
保育園	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	5
合計	12	33	21	34	2	5	15	0	4	0	8	1	134

※「生活単元」は特別支援学級等の児童、生徒が行った学習の総称。

※団体数の合計より教科の合計が多いのは、1 つの団体がいくつかの教科を行うことがあるため。

□開館以来の利用者数（表の数値はすべて、のべ数）

年度	12 年度	13 年度	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
利用者数	8,174	8,080	8,442	7,705	6,248	7,552	8,311	8,538	8,543	7,416
年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
利用者数	8,713	9,309	9,724	9,614	10,033	10,631	10,483	10,003	9,401	7,883
年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	累計 199,394 名				
利用者数	4,775	3,757	5,191	5,318	5,550					

□文化の森学校活用が事例研究（卒業論文や修士論文など）の対象となった件数…0 件

全学習内容

※引き続き、3学級以上の学年は2日間に分けて来館していただきました。

※「学習内容」欄の略称表記は、総合＝総合的な学習の時間、図工＝図画工作、生単＝生活単元、学活＝学級活動、自立＝自立活動。
「」は単元名

月	日	曜	学校・学年	学習内容
4	23	火	太田小2年 (1組)	国語科「たんぼのちえ」：森の植物や生き物に関わる読み聞かせ（たんぼぼ、ミミズのふしぎ） 生活科「春だ今日から2年生」：森の散策、常設展示室ビンゴ
	24	水	太田小2年 (2組・3組)	国語科「たんぼのちえ」：森の植物や生き物に関わる読み聞かせ（たんぼぼ、ミミズのふしぎ） 生活科「春だ今日から2年生」：森の散策、常設展示室ビンゴ
	25	木	山之上小6年	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、土器片の観察、縄文土器作り
5	8	水	伊深小3年	社会科「わたしのまち みんなのまち」：航空写真から見る市の様子、タワーから各方角の見学、 みのかもすごろく 理科「チョウを育てよう」：モンシロチョウのタマゴ・幼虫の観察、体のつくりの確認 国語科「春風をたどって」：森の散策、『森のお店やさん』の読み聞かせ
	9	木	古井小2年 (1組・4組)	国語科「たんぼのちえ」：森の植物や生き物に関わる読み聞かせ（たんぼぼ、すみれとあり） 生活科「春だきょうから2年生」：森の散策、常設展示室ビンゴ
	10	金	古井小2年 (2組・3組)	国語科「たんぼのちえ」：森の植物や生き物に関わる読み聞かせ（たんぼぼ、すみれとあり） 生活科「春だきょうから2年生」：森の散策、常設展示室ビンゴ
	14	火	蜂屋小3年	社会科「わたしのまち みんなのまち」：立体地図から見る市の様子、タワーから各方角の見学、 みのかもすごろく 理科「チョウを育てよう」：モンシロチョウのタマゴ・幼虫の観察、体のつくりの確認 国語科「春風をたどって」：森の散策、『森のお店やさん』の読み聞かせ
	17	金	下米田小3年	社会科「わたしのまち みんなのまち」：立体地図から見る市の様子、タワーから各方角の見学、 理科「チョウを育てよう」：モンシロチョウのタマゴ・幼虫の観察、体のつくりの確認
	21	火	太田小3年 (2組)	社会科「わたしのまち みんなのまち」：立体地図から見る市の様子、タワーから各方角の見学、 理科「チョウを育てよう」：モンシロチョウのタマゴ・幼虫の観察、体のつくりの確認
	22	水	太田小3年 (1組・3組)	社会科「わたしのまち みんなのまち」：立体地図から見る市の様子、タワーから各方角の見学、 理科「チョウを育てよう」：モンシロチョウのタマゴ・幼虫の観察、体のつくりの確認
	23	木	山手小2年 (3組)	国語科「たんぼのちえ」：森の植物や生き物に関わる読み聞かせ（ミミズのふしぎ） 生活科「春だきょうから2年生」：森の散策、常設展示室ビンゴ 図画工作：「ならべてならべて」
	24	金	山手小2年 (1組・2組)	国語科「たんぼのちえ」：森の植物や生き物に関わる読み聞かせ（ミミズのふしぎ） 生活科「春だきょうから2年生」：森の散策、常設展示室ビンゴ 図画工作：「ならべてならべて」
	28	火	山之上小5年	総合的な学習の時間「米づくりの一年」：昔の米作りの道具の学習と体験、民具展示館の見学、 古代米の学習
	30	木	古井小6年 (1組)	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、住居跡の見学・遺物探し
6	31	金	古井小6年 (2組・3組)	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、住居跡の見学・遺物探し
	4	火	蜂屋小2年 (1組・2組・3組)	生活科「なつがやってきた」：森の植物や生き物に関わる読み聞かせ（かたばみ、むしのかお）、 森の散策、常設展示室ビンゴ
	5	水	伊深小 えがお	自立活動「文化の森をたんけんしよう」：土のランプシェードづくり、七厘でお餅を焼く
	11	火	加茂野小6年 (1組・2組)	社会科「日本文化を知ろう」：茶の湯体験、和服の話 社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、住居跡の見学・遺物探し
	12	水	加茂野小6年 (3組・4組)	社会科「日本文化を知ろう」：茶の湯体験、和服の話 社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、住居跡の見学・遺物探し
	13	木	三和・伊深小1年	生活科「なつがやってきた」：森の植物や草花遊びに関わる読み聞かせ、森のビンゴ、タワーの 見学、常設展示室の見学
	14	金	山手小1年	生活科「なつがやってきた」：常設展示室の見学、森の散策、タワーの見学、情報コーナーの見 学
	18	火	双葉中1年	総合的な学習の時間「地域を知る」：文化の森ウォークラリー、時代と共にうつりかわる様子（こ の地域の歴史）、この地域の自然（美術、自然史）、まちの良さ（この地域の生業、まちの良さを 伝える）
	19	水	古井小	生活単元「文化の森たんけんをしよう」：森のビンゴ、みゅーじあむビンゴ

			おおぞら・さくら	
	20	木	のぞみ教室	生活単元・自立活動「七夕飾りをつくろう」：折り紙で七夕飾りづくり（つなぎ飾り（三角）、提灯、天の川、貝飾り、笹の葉、オーナメント）、飾りつけ、展示室の見学、タワーから周りの様子を見学
	25	火	加茂野小 あおぞら・たいよう	生活単元「葉っぱ模様のエコバッグをつくろう」：葉っぱのエコバッグづくり（布絵具を使ってペイント）、常設展示室たんけんビンゴ、森の植物や季節に関わる本の読み聞かせ
	27	木	太田小 6 年 (2 組)	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、住居跡の見学・遺物探し
	28	金	太田小 6 年 (1 組・3 組)	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、住居跡の見学・遺物探し
7	2	火	下米田小 6 年	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、土器片の観察、住居跡の見学・遺物探し、衣装の見学、縄文土器作り
	5	金	東中 わかば・にじ	生活単元・自立活動「文化の森で昔遊びを楽しむ」：紙トンボづくり、昔遊び（けん玉、お手玉、竹とんぼ、おはじき）
	10	木	山手小 ひまわり	生活単元・自立活動「染め物をしよう」：赤しそを揉んでハンカチを染める、常設展示室ビンゴ
9	4	水	西中 けやき	生活単元・自立活動「お抹茶茶碗をつくろう」：お抹茶茶碗づくり
	5	木	山之上小 3 年	総合的な学習の時間「白隠について知ろう」：白隠について知る、墨で絵をかく、常設展示室の見学
	10	火	加茂学園 年長	卒園制作「葉っぱのお皿づくり」：森で材料集め、葉っぱのお皿づくり
	11	水	蜂友学舎保 年長	卒園制作「葉っぱのお皿づくり」：森で材料集め、葉っぱのお皿づくり
	12	木	太田小 2 年 (3 組)	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森の職員にインタビュー、施設のやさしさ見つけ、森たんけん
	13	金	太田小 2 年 (1 組・2 組)	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森の職員にインタビュー、施設のやさしさ見つけ、森たんけん
	18	水	山之上小 2 年	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：施設のやさしさ見つけ、施設見学（タワー、展示室）
	19	木	古井小 4 年 (2 組・4 組)	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	20	金	古井小 4 年 (1 組・3 組)	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	25	水	三和小・伊深小 3 年・4 年	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	26	木	三和小・伊深小 2 年	生活科「あきみつけ」「みんなでつかうまちのしせつ」：森たんけん、どんぐりゴマづくり、どんぐりヘリコプターづくり、施設のやさしさ見つけ
	27	金	のぞみ教室	生活単元・自立活動「エコバッグづくり」「まゆの家で昔遊び」：野菜スタンプでエコバッグづくり、昔遊び
10	1	火	太田第二保 年長	卒園制作「葉っぱのお皿づくり」：森で材料集め、葉っぱのお皿づくり
	2	水	古井小 5 年 (4 組・5 組)	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）、水害のお話を聞く、地域情報防災室の見学
	3	木	山手小 5 年	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）、水害のお話を聞く、地域情報防災室の見学
	4	金	古井小 5 年 (1 組・2 組・3 組)	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）、水害のお話を聞く、地域情報防災室の見学
	8	火	加茂野小 5 年 (2 組・3 組)	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	9	水	加茂野小 5 年 (1 組・4 組)	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	10	木	下米田小 5 年	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	16	水	太田小 5 年 (3 組)	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	17	木	太田小 5 年	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大

		(1組・2組)	橋下から観察、船着場から観察)
	18	金 下米田小4年	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について (PP)、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	22	火 山之上小3年	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具調べ
	23	水 古井小2年 (2組・3組)	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森の職員にインタビュー、施設のやさしさ見つけ、国民文化祭の展示見学
	24	木 古井小2年 (1組・4組)	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森の職員にインタビュー、施設のやさしさ見つけ、国民文化祭の展示見学
	25	金 東中 わかば・にじ	生活単元「葉っぱのお皿をつくろう」：森で材料集め、葉っぱのお皿づくり
	29	火 加茂野小1年 (1組・2組)	生活科「たのしいあきいっぱい」：読み聞かせ (ドングリとリス)、秋みつけ、どんぐりヘリコプターづくり、やじろべえづくり
	30	水 加茂野小1年 (3組・4組)	生活科「たのしいあきいっぱい」：読み聞かせ (ドングリとリス)、秋みつけ、どんぐりヘリコプターづくり、やじろべえづくり
	31	木 蜂屋小4年	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について (PP)、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験、読み聞かせ (半日村)
11	1	金 下米田小2年	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：読み聞かせ (ドングリとリス)、あきの森ビンゴ、文化の森の職員にインタビュー、施設のやさしさ見つけ
	6	水 東白川小1年	生活科「たのしいあきいっぱい」：読み聞かせ (もりのかくれんぼう)、秋みつけ、どんぐりゴマづくり、どんぐりヘリコプターづくり、ネイチャーゲーム (カモフラージュ)
	7	木 三和小・伊深小 5年	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学 (猿飛橋で実験、天王橋の観察)、木曾川見学 (中濃大橋下から観察、船着場から観察)、水害のお話を聞く、地域情報防災室の見学
	8	金 下米田小1年	生活科「たのしいあきいっぱい」 図画工作「ならべてならべて」：秋みつけ、壁飾り作り、どんぐりゴマ作り、どんぐりヘリコプター作り
	13	水 加茂野小4年 (1組・2組・3組)	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について (PP)、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	14	木 山手小4年	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について (PP)、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	15	金 山之上小4年	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	19	火 太田小4年 (2組)	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について (PP)、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	20	水 太田小4年 (1組・3組)	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について (PP)、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	21	木 蜂屋小6年 (1組・2組・3組)	理科「大地のつくりと変化」：蜂屋町広橋の地層見学、常設展示室の見学、岩石標本の観察、リバーポートパークの地層見学
	22	金 双葉中1年	総合的な学習の時間「地域を知る」：逍遙の画讃を表現しよう (美術)、地域の魅力をデザイン化 (美術)、まゆの家の秘密と真綿づくり (民俗)、葉脈標本を作ろう (自然史)、地域のお寺と仏像を知ろう (歴史)、地元の遺跡と土偶づくり (歴史)
12	27	水 蜂屋小5年	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学 (猿飛橋で実験、天王橋の観察)、木曾川見学 (中濃大橋下から観察、船着場から観察)
	28	木 古井小1年 (2組・3組)	生活科「たのしいあきいっぱい」：秋みつけ、どんぐりゴマづくり、どんぐりヘリコプターづくり
	29	金 古井小1年 (1組・4組)	生活科「たのしいあきいっぱい」：秋みつけ、どんぐりゴマづくり、どんぐりヘリコプターづくり
	3	火 山手小6年 (3組)	理科「大地のつくりと変化」：蜂屋町広橋の地層見学、常設展示室の見学、岩石標本の観察、リバーポートパークの地層見学
	4	水 山手小6年 (1組・2組)	理科「大地のつくりと変化」：蜂屋町広橋の地層見学、常設展示室の見学、岩石標本の観察、リバーポートパークの地層見学
	6	金 下米田小	生活単元・自立活動「文化の森へ行こう」：焼き芋、文化の森たんけんビンゴ、昔遊び
	10	火 蜂屋小2年	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森の職員にインタビュー、施設のやさしさ見つけ
	11	水 下米田小6年	理科「大地のつくりと変化」：蜂屋町広橋の地層見学、常設展示室の見学、岩石標本の観察、リバーポートパークの地層見学
	13	金 加茂野小2年	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森の職員にインタビュー、施設のやさしさ見つけ

			(1組・2組・3組)	け、展示室ビンゴ、森のタワー見学
	18	水	あじさい保 年長	卒園制作「葉っぱのお皿づくり」：森で材料集め、葉っぱのお皿づくり、昔遊び、森のタワー見学
	19	木	南姫小3年	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、昔の道具調べ（おかって見学・石臼体験・暖を取る道具・明かりの道具）、七輪で火起こし体験、炭火アイロン体験
1	9	木	東中 わかば・にじ	生活単元「葉っぱのお皿で焼きおにぎりを食べよう」：おにぎりをにぎる、七厘で火おこし、焼きおにぎりづくり
	10	金	西中 けやき	自立活動「茶の湯体験」：茶の湯についてのお話、お点前、お運び体験、お客様体験
	15	水	のぞみ教室	生活単元・自立活動「おもちつきをしよう」：オカッテの見学、まき割体験、もちつき体験
	16	木	三和小・伊深小 5年・6年	理科「大地のつくりと変化」：蜂屋町広橋の地層見学、常設展示室の見学、岩石標本の観察、リバーポートパークの地層見学
	17	金	太田小 なかよし	生活単元「みんなで楽しもう文化の森」：おにぎりをにぎる、七厘で火おこし、焼きおにぎりづくり
	21	火	下米田小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：昔遊び
	22	水	古井小1年 (2組・3組)	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：昔遊び
	23	木	古井小1年 (1組・4組)	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：昔遊び
	24	金	伊深小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び、展示室ビンゴ
	28	火	山之上小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマ作り、昔遊び
2	29	水	蜂屋小 ひまわり・たんぽぽ	生活単元・自立活動「おもちつきをしよう」：七厘で火おこし、お雑煮づくり、昔遊び
	30	木	山手小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	4	火	三和小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：紙ゴマづくり、ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	5	水	下米田小3年	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具調べ
	6	木	加茂野小3年 (1組・2組)	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具調べ
	7	金	加茂野小3年 (3組・4組)	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具調べ
	12	水	太田小1年 (2組)	国語科「たぬきの糸車」：糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	13	木	太田小1年 (1組・3組)	国語科「たぬきの糸車」：糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	18	火	古井小3年 (1組・3組)	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具調べ
	19	水	古井小3年 (2組・4組)	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具調べ
	20	木	伊深小3年	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具調べ
	21	金	蜂屋小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：昔遊び
	26	水	加茂野小 あおぞら・たいよう	生活単元「かまどでごはんを炊こう」：かまどの準備、カレーづくり、紙トンボづくり、昔遊び
	27	木	山手小3年 (1組・2組・3組)	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具調べ

収集・保存・整理・調査・その他

□資料収集

みのかも文化の森／市民ミュージアムは、開館以前から現在に至るまで、地域に根差したミュージアムという基本的な考え方のもと、自然史、考古、歴史、民俗、美術工芸、文化などの広範囲な分野の資料や標本、作品、そしてそれに関する情報を収集し保存しています。地域とは、美濃加茂市及び市域の資料や事柄をあらわすのに必要な周辺圏域を指します。

収集の基本方針

- ①地域的な特徴・特性をあらわし、価値があると認められるもの
- ②学術的に価値があると認められるもの
- ③現代の社会に発信・提起するミュージアムとして収集する必要があると認められるもの

各分野における収集品の特徴と収集にあたっての留意点

○自然史部門

- ・蜂屋層群中村累層に関する標本類
- ・加茂地域の生態を特徴づける動植物標本類
- ・文化の森敷地内などにある里山に関する動植物標本類

○考古部門

- ・牧野小山遺跡に代表される縄文期考古資料
- ・為岡遺跡に代表される弥生期考古資料
- ・文化の森が立地している尾崎遺跡考古資料
- ・石器石材としての下呂石

○歴史部門

- ・「坪内逍遙」「津田左右吉」をはじめとする人物資料
- ・織田信長をはじめとする戦国期の古文書
- ・林亮三、小栗憲八らの記録したものを含めた現代資料
- ・美濃加茂市合併前の旧役場文書

○民俗部門

- ・佐野一彦が残した昭和 30 年代を中心とした写真・記録類
- ・旧岐阜県蚕業試験場資料を含めた養蚕関係資料
- ・蜂屋柿など生業に関する資料

○美術工芸部門

- ・「芸術と自然」を主題とする作品
- ・ゆかりの作家作品の特徴の一つである版画作品
- ・1997 年まで開催された彫刻シンポジウムに関連する資料と作品

① 購入

No.	分類	名称	点数	作者・制作者など	制作・発行年
1	図書	石はなにからできている？（ちしきのぼけっと23）	1	西村寿雄 他 岩崎書店	2023
2	図書	いし（中川ひろたかのせいかつかがく絵本）	1	中川ひろたか 他 アリス館	2021
3	図書	富田溪仙 越前の紙漉きを描く	1	福井県立美術館 福井新聞社	2023
4	図書	軍国の文化 上 日清戦争、ナショナリズム、地域社会	1	羽賀祥二 名古屋大学出版会	2023
5	図書	軍国の文化 下 日清戦争、ナショナリズム、地域社会	1	羽賀祥二 名古屋大学出版会	2023
6	図書	アートの処方箋	1	小澤基弘 水声社	2024
7	図書	ひと目でわかるアートのしくみとはたらき図鑑 〈イラスト授業シリーズ〉	1	池上英洋 創元社	2024
8	図書	REKIHAKU 特集「歴史をつなぐ」	1	国立歴史民俗博物館	2023
9	図書	アンモナイト学入門 殻の形から読み解く進化と生態	1	相場大佑 誠文堂新光社	2024
10	図書	斎藤道三と義龍・龍興 戦国美濃の下克上 〈中世武士選書 29〉	1	横山住雄 戎光祥出版	2015
11	図書	斎藤妙椿・妙純 戦国下克上の黎明 〈中世武士選書 46〉	1	横山住雄 戎光祥出版	2023
12	図書	織田信長の尾張時代 〈中世武士選書 10〉	1	横山住雄 戎光祥出版	2012
13	図書	まちあるき文化考 交叉する〈都市〉と〈物語〉	1	渡辺裕 春秋社	2019
14	図書	文化的コモンズ 文化施設がつくる交響圏	1	佐々木秀彦 みすず書房	2024
15	図書	拡大する文化財・文化遺産 博物館資料新論	1	富岡直人 他 雄山閣	2024
16	図書	ひとつの火	1	新見南吉・文 ほんまきよこ・絵	2023
17	図書	ハートのはっぱ かたばみ	1	多田多恵子 かがくのとも	2021
18	図書	博物館資料取扱いガイドブック 文化財・美術品等 梱包・輸送の手引き 第2次改訂版	1	日本博物館協会 ぎょうせい	2023
19	図書	文化財と標本の劣化図鑑	1	岩崎奈緒子 他 朝倉書店	2024
20	図書	博物館学 人物史 上	1	青木豊 他 雄山閣	2010
21	図書	博物館学 人物史 下	1	青木豊 他 雄山閣	2012
22	図書	ミュージアムの情報資源と目録・カタログ （博物館情報学シリーズ1）	1	水嶋英治 他 樹村房	2017
23	図書	ミュージアム・コミュニケーションと教育活動 （博物館情報学シリーズ5）	1	湯浅万紀子 樹村房	2018
24	図書	ミュージアム・ライブラリとミュージアム・アーカイブス （博物館情報学シリーズ8）	1	水谷長志 樹村房	2023
25	図書	リンネとその使徒たち 探検博物学の夜明け （朝日選書588）	1	西村三郎 朝日新聞社	1997
26	図書	文明のなかの博物館 西欧と日本 上	1	西村三郎 紀伊国屋書店	1999
27	図書	文明のなかの博物館 西欧と日本 下	1	西村三郎 紀伊国屋書店	2000
28	図書	参勤交代道中記-加賀藩史料を読む-		忠田敏男 平凡社	1944
29	図書	日本交通史	1	児玉幸多 吉川弘文館	1922
30	図書	近世宿駅制度の研究 増訂版	1	児玉幸多 吉川弘文館	1986
31	図書	近世宿駅の基礎研究 第1	1	丸山雍成 吉川弘文館	1975
32	図書	近世宿駅の基礎研究 第2	1	丸山雍成 吉川弘文館	1975
33	図書	篆書字典	1	太甫熙永 国書刊行会	1978
34	図書	必携 篆書印譜字典	1	簗毛政雄 柏書房	1991
35	図書	生涯学習の遺産 近代日本社会教育史論	1	宮坂広作 明石書店	2004
36	図書	日本近代教育百年史 7 社会教育(1)	1	国立教育研究所	1974
37	図書	日本近代教育百年史 8 社会教育(2)	1	国立教育研究所 教育研究振興会	1974
38	図書	近代日本社会教育史の研究	1	宮坂広作 法政大学出版局	1968
39	図書	博物館と文化財の危機	1	岩城卓二 他 人文書院	2020
40	図書	文書館のしごと アーキビストと資料保存	1	荒井浩文 吉川弘文館	2024
41	図書	改正博物館報詳説・Q&A 地域に開かれたミュージアムをめざして	1	博物館報例研究会 水曜社	2023
42	図書	煮干しの解剖教室（仮説社オリジナル入門シリーズ6）	1	小林真理子 仮説社	2021
43	図書	チリメンモンスターのひみつ さぐれ！海の生き物のくらし	1	きしわだ自然資料館 偕成社	2016
44	図書	伝統工芸ってなに？見る・知る・楽しむガイドブック		日本工芸会東日本支部	2013

② 寄贈-1

No.	分類	名称	点数	制作者・時期など	寄贈者
1	歴史資料	徳川家康 和歌 軸装	1		森俊郎氏
2	歴史資料	和宮 書状 折紙 軸装	1	(不詳)三月二日	森俊郎氏
3	歴史資料	近衛光子 年賀状 堅紙 軸装	1	(元治二年)正月	森俊郎氏
4	歴史資料	鍋島直茂 書状 折紙 軸装	1	(慶長五年)八月十日	森俊郎氏
5	歴史資料	伊達政宗 書状 堅紙 軸装	1	(元和年間)	森俊郎氏
6	歴史資料	木下長嘯子 消息 堅紙 軸装	1	不詳	森俊郎氏
7	歴史資料	播隆上人「円壽」和歌自画賛 紙本墨画絹装	1		森俊郎氏
8	歴史資料	播隆上人 五字一行書 紙本墨画紙装	1		森俊郎氏
9	歴史資料	包紙 東京名物彌次喜多あめ	1	岡本一平画	森俊郎氏
10	歴史資料	一平漫画新聞 第二號	1	先進社発行、昭和4年	森俊郎氏
11	歴史資料	國民精神總動員日本赤十字社員愛國婦人會員報 國運動實踐要項	1		森俊郎氏
12	歴史資料	‘90 世界最強タッグ決定リーグ戦 全日本プロレス	1	平成2年、美濃加茂中央体育館開催分	森俊郎氏
13	歴史資料	三和村女子青年團護國神社御造営勤勞奉仕隊	1	昭和15年5月1日	森俊郎氏
14	歴史資料	写真 忠魂碑の前 古井校	1		森俊郎氏
15	歴史資料	写真 古井校運動会 高女の遊戯	1	昭和2年秋	森俊郎氏
16	歴史資料	写真 町立古井実科女学生 運動会遊戯	1		森俊郎氏
17	歴史資料	感謝状 大矢峻嶺宛て 軍部より ほか	16		森俊郎氏
18	歴史資料	標識 東鉄バス神明堂停留所	1		森俊郎氏
19	歴史資料	原稿 増田某筆「自宝暦元年至慶應貳年 中山道 鵜沼宿 大名らの通行記録」	1		森俊郎氏
20	歴史資料	古文書「寛政二年 道中駄賃帳 戊六月日」	1		森俊郎氏
21	歴史資料	冊子 加茂野村青年團規約	1	昭和7年	森俊郎氏
22	歴史資料	冊子 凍霜害録事 郡是製絲株式會社美濃工場	1	昭和3年	森俊郎氏
23	歴史資料	リーフレット「桑園春肥施與に就て」郡是製絲美濃 工場	1	昭和9年	森俊郎氏
24	歴史資料	寫真帖 三和村集合写真 於三和小学校	1	昭和15～16年	森俊郎氏
25	歴史資料	寫真帖 集合写真及び家族写真 於下古井松葉 地区	1	大正～昭和戦前期	森俊郎氏
26	歴史資料	繪葉書 郡是製絲美濃工場	8		森俊郎氏
27	歴史資料	繪葉書 郡是製絲美濃工場 中庭・庭園	1		森俊郎氏
28	歴史資料	繪葉書 郡是製絲美濃工場 全景	1		森俊郎氏
29	歴史資料	繪葉書 郡是製絲美濃工場 正門	1	大正6年	森俊郎氏
30	歴史資料	顯如光佐 羽柴美濃守秀長宛書状 紙本絹装	1	天正13年	森俊郎氏
31	歴史資料	徳川秀忠 良正院宛自筆書状 紙本絹装	1		森俊郎氏
32	歴史資料	美濃加茂市美術連盟 関連資料	一式		高橋靖哉氏
33	民俗資料	板	1		渡邊夕紀子氏
34	民俗資料	真綿作り器	1		渡邊夕紀子氏
35	民俗資料	ハイチョウ	1		渡邊夕紀子氏
36	民俗資料	手回し扇風機	1	大正時代	渡邊夕紀子氏
37	民俗資料	ホームよせ鍋	1		渡邊夕紀子氏
38	民俗資料	灰皿	1		渡邊夕紀子氏
39	民俗資料	もんどり	1		渡邊夕紀子氏
40	民俗資料	もんどり	1		渡邊夕紀子氏
41	民俗資料	湯呑	1		渡邊夕紀子氏
42	民俗資料	米貯蔵缶	1		匿名
43	民俗資料	ジョレン	1		匿名
44	民俗資料	重箱	1		篠田和典氏
45	民俗資料	重箱	1		篠田和典氏
46	民俗資料	クロックポット	1		篠田和典氏
47	民俗資料	洗面器	1		篠田和典氏
48	民俗資料	ザル	1		篠田和典氏
49	民俗資料	カゴ	1		篠田和典氏
50	民俗資料	タライ	1		篠田和典氏
51	民俗資料	タライ	1		篠田和典氏
52	民俗資料	タライ	1		篠田和典氏
53	民俗資料	ザル	1		篠田和典氏
54	民俗資料	ザル	1		篠田和典氏

55	民俗資料	ザル	1		篠田和典氏
56	民俗資料	蔵の図面	1		篠田和典氏
57	民俗資料	キリダメ	1		篠田和典氏
58	民俗資料	ラジオスピーカー	1		細江敏一氏
59	美術品	「冬暖」 紙本絹装 淡彩	1	岡本一平	森俊郎氏
60	美術品	「智仁勇」 紙本絹装 淡彩	1	岡本一平	森俊郎氏
61	美術品	「路傍の温泉」 紙本絹装 淡彩	1	岡本一平	森俊郎氏
62	美術品	「岐蘇川」 紙本絹装 淡彩	1	村岡應東	森俊郎氏
63	美術品	下絵 昭憲皇太后ほか	6	大矢峻嶺	森俊郎氏
64	美術品	「新潟小白倉 春・夏・秋・冬」	4	小本章、キャンバスにガッシュ＋写真、2002～03 年	小本ゆり氏
65	美術品	「びわこ 秋・紅」	1	小本章、キャンバスにガッシュ＋写真、2003 年	小本ゆり氏
66	美術品	「Seeing 04-15」	1	小本章、キャンバスにガッシュ＋写真、2003 年、額装	小本ゆり氏
67	美術品	『北と南の話』	1	畦地梅太郎、1972 年、創文社	糸魚川登美子氏
68	美術品	『畦地梅太郎作品集2 版画集 山頌』	1	畦地梅太郎、1980 年、緑の笛豆本の会	糸魚川登美子氏
69	美術品	『畦地梅太郎画文集 めくもりの山』	1	畦地梅太郎、1981 年、鹿鳴社	糸魚川登美子氏
70	美術品	『山の足音』	1	畦地梅太郎、1976 年、創文社	糸魚川登美子氏
71	美術品	『山の出べそ』	1	畦地梅太郎、1976 年、創文社	糸魚川登美子氏
72	美術品	『葡萄一遍在方位について』	1	加納光於、1973 年、美術出版社	糸魚川登美子氏
73	美術品	『限定版画集 山男誕生』	1	畦地梅太郎、1973 年、創文社	糸魚川登美子氏
74	美術品	『山のめくもり(わたしの山男たち)』	1	畦地梅太郎、1979 年、創文社	糸魚川登美子氏
75	美術品	『山のつぶやき』	1	畦地梅太郎、1978 年、創文社	糸魚川登美子氏
76	美術品	山崎徳三宛て 絵入り書簡 紙本淡彩絹装	1	大矢峻嶺	森俊郎氏
77	美術品	「牡丹の客」 紙本淡彩絹装	1	岡本一平	森俊郎氏
78	美術品	「望郷の嘆」 紙本淡彩絹装	1	岡本一平	森俊郎氏
79	美術品	「柳江漁舎」 紙本淡彩絹装	1	岡本一平	森俊郎氏
80	美術品	「四睡」 紙本淡彩絹装	1	岡本一平	森俊郎氏
81	美術品	「露蛙」 俳句自画賛 紙本淡彩 色紙	1	岡本一平	森俊郎氏
82	美術品	東京朝日新聞挿絵	8	岡本一平、昭和 7～8 年	森俊郎氏
83	美術品	『現代版画十二景』	1	武藤六郎他	武藤裕治氏
84	美術品	一行書「賞花釣魚」	1	山岡鉄舟	福田豊子氏
85	美術品	「水田のためのドローイング」	1	林武史、2000 年	林武史氏
86	美術品	「無題」	1	林武史、1993 年	林武史氏
87	美術品	「無題のためのドローイング」	1	林武史、1993 年	林武史氏
88	美術品	「水田のためのドローイング」	1	林武史、2000 年	林武史氏
89	美術品	リレードローイング	1	東京藝術大学美術学部 彫刻科 第二研究室	林武史氏
90	美術品	「雪来る(伊吹山)」	1	山田玉雲、色紙	川合良樹氏
91	美術品	「スペインの椅子で」	1	小川博史、リトグラフ	川合良樹氏
92	美術品	「時刻表」	1	大北利根子、2001 年	大北利根子氏
93	美術品	「S 君の像」	1	三輪乙彦	堀江良一氏
94	自然史資料	珪化木	1		高村光男氏

寄贈-2（棚橋コレクション 棚橋源太郎旧蔵資料 寄贈者：棚橋泰氏 計791件）

No.	分類	主な資料名	形態	時期など	件数
1	書籍、雑誌類	棚橋源太郎『小学各科教授法 全』金港堂書籍 棚橋源太郎『博物館学綱要』理想社	冊子	1901 年 1949 年	40 件
2	直筆原稿類	「棚橋家小史」 「美術館と博物館史原稿 その一」 「履歴資料」	原稿用紙	1950 年春 年代不詳 1958 年 3 月	10 件
3	書簡、絵葉書類	絵葉書「文教会を開き……」（ドイツ・シャルottenburg 在住の源太郎への葉書） 絵葉書「拝復 聖殿の白蟻調査の時期について……」（名和靖より）	葉書 葉書	1910 年 7 月 3 日消印か 1916 年 1 月 16 日	122 件
4	辞令類	岐阜県尋常師範学校訓導任命辞令 東京教育博物館主事任命辞令 東京教育博物館長任命辞令 日本赤十字社赤十字博物館事務取扱嘱託辞令	洋紙 和紙 和紙 洋紙	1889 年 12 月 1906 年 1 月 1917 年 5 月 1932 年 10 月	189 件
5	表彰、叙勲 免許状類	尋常師範学校教員免許状 社会教育法施行五周年記念功績表彰	洋紙	1895 年 1954 年	36 件
6	写真類	数え年七十歳の古希の際の肖像写真 写真帖 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館創立 25 周年 記念で祝辞を述べる源太郎	紙焼き 皮の表紙 紙焼き	1938 年 1909 年－1939 年頃 1953 年	305 件
7	徽章類	徽章（印刷文化展）	金属	1921 年	40 件
8	その他	旅券	和紙	1925 年	49 件

□資料燻蒸

○燻蒸作業

寄贈等のあった資料は専門業者に委託して被覆燻蒸作業をおこなった。下記の二回実施した。

- (1)2024 年 6 月 12 日～ 6 月 14 日 フッ化フルスリル
- (2)2025 年 3 月 4 日～ 3 月 6 日 フッ化フルスリル

○害虫モニタリング調査と対応

収蔵庫や展示室等をはじめとする館内 46 か所に粘着トラップを設置した。資料を加害する虫が確認された箇所については清掃活動を実施した。

□整理調査及び研究

○下記のとおり、収藏品等の整理作業と美濃加茂事典の作成作業を実施し、関係資料や博物館に関する研究活動をおこないました。

項目	内容	点数等	担当
植物標本登録整理作業	市内外で採集され所蔵している植物標本について、岐阜大学（教育学部）に委託し、登録整理作業を行った。	1,353 点	西尾
吉田英敏コレクション整理作業	旧石器類（標本箱 3・5・7・11）について、整理及び台帳作成を行った。日本考古学協会会員・川合剛氏に依頼し、成果が報告された。	255 件	藤村
市内古代寺院跡出土資料調査	『美濃加茂市史』掲載品のほか、これまでに未発表だった関連する館藏品について、詳細な調査が完了した。市文化財保護審議委員・渡邊博人氏に依頼し、成果が報告された。「岐阜県美濃加茂地域の古代寺院跡出土瓦について（上）・（下）」『美濃加茂市民ミュージアム紀要』23 集・24 集	136 点	藤村
尾崎遺跡出土資料調査	未報告分に関する追加調査として、灰釉陶器・山茶碗に関して調査した。日本考古学協会会員・磯谷祐子氏に依頼し、成果が報告された。「尾崎遺跡の平安時代－灰釉陶器から山茶碗へ」『美濃加茂市民ミュージアム紀要』24 集	59 点	藤村
半原版画館 現代版画コレクション調査	「みのかもで収蔵している資料たち 展」に向け、作家・作品名不詳だった作品を調査、判明した作品を展示した。	70 点	和歌
古文書及び歴史資料整理作業	館蔵の太田宿本陣資料について愛知大学・神谷智氏に依頼し、調査及び仮整理作業を行った。	10 点	可児、 藤島
「みのかも 70 年のあゆみ」資料調査	美濃加茂市制 70 周年として、スクラップブック（全 251 冊）を含む新聞記事データ、「広報みのかも」などを整理し年表にまとめ、そこにこれまでの調査の蓄積や館蔵資料のデータなどもひもづけをしながら、記念誌の作成（概要版・資料版）およびホームページでの公開を行った。	1,351 点	可児、 岩屋

「美濃加茂事典」調査作成作業	美濃加茂に関する様々な事項について HP 上で公開している「美濃加茂事典」について、新規に調査し公開した。	新規 21 件 (全 1,043 件)	全員
----------------	---	---------------------------	----

寄贈いただいた棚橋源太郎資料について	美濃加茂市民ミュージアムに寄贈された棚橋源太郎旧蔵の資料について、資料の内容による分類と、概略をまとめて公表した。	紀要掲載	西尾円
企画展「津田左右吉と藝術一心を寄せた美術・音楽・演劇の世界」調査報告	津田左右吉の生誕 150 年となる 2023 年に開催した同企画展の準備のために行った調査と展示について、前編として、報告した。	紀要掲載	和歌由花

□外部でおこなった発表・報告など

【発表】

- ・可児光生「これからの地域ミュージアム ～つなぐこと・向き合うこと～」伊賀市美術博物館講演会 (2024. 8. 3)、ハイトピア伊賀
- ・可児光生「ミュージアムがつないでいるもの ～美濃加茂市民ミュージアムの事例から～」法政大学 芸員養成課程・博物館教育論 (2024. 10. 19)、法政大学
- ・可児光生「地域文化資源を守り伝えること」一宮市博物館講座「尾張平野を語る 28 文化財と災害」 (2024. 11. 4)、一宮市博物館
- ・可児光生「楽しくなる古文書・明智光秀の直筆を読む」第 7 回明智光秀公研究会 (2024. 11. 30)、可児市広見地区センター
- ・可児光生「気づきを積み重ねること ～館蔵資料そのものを活かしながら～」「博物館でおこなわれるワークショップの実践知の共有をめざして」研究会 (2024. 12. 6)、大阪市立自然史博物館
- ・可児光生「地域ミュージアムという「場」 ～つなぐこと と 向き合うこと～」「八王子の歴史文化伝承と博物館機能強化事業」講演会 (2025. 2. 14)、オープンイノベーションフィールド多摩八王子館
- ・岩屋孝志「展示に生かされる近現代行政文書について 企画展「石に刻むーとどめる記録、まじわる思いー」を例として」岐阜県歴史資料保存協会創立 50 周年記念シンポジウム「歴史資料の保存と新たな地域文化の創造に向けて」 (2024. 11. 16)
- ・藤島夢花「ギャラリートーク 太田宿本陣資料を中心に」本庄早稲田の杜ミュージアム企画展「中山道と本陣-本庄宿と太田宿-」関連イベント (2024. 11. 19)

【著作】

- ・可児光生「第 162 回研究会報告「民具研究の新しい切り口」『民具研究』第 166 号、(2024. 8. 31)、日本民具学会
- ・可児光生「美濃加茂市民ミュージアムにおける地域文化資源データベースについて」『濃飛史艸』第 137 号 (2024. 9. 25)、岐阜県歴史資料保存協会
- ・可児光生「自由な空気で」『岐阜の博物館』No.195 (2024. 9. 30)、岐阜県博物館協会
- ・可児光生「地域資源に向き合うミュージアム」金山喜昭編『改正博物館法で博物館はどうなる』、(2025. 1. 25)、同成社
- ・可児光生「バーチャルな展示」「展示の評価法」『博物館展示論』【第 2 版】(2025. 3. 11)、講談社
- ・可児光生「博物館に関わる人材 ボランティア エデュケーター ファシリテーター」『博物館教育論』【第 2 版】(2025. 3. 13)、講談社
- ・可児光生「第 10 章 自然環境の保全」『犬山市史資料編・平成』、(2025. 3. 26)、犬山市
- ・和歌由花「地域に息づく文学の風土ー「書かれた「この地」を読む みのかもブックマーク」の連載と展示」「心に留めた美濃加茂の風景ー歴史と文化の積層として」『郷土研究 岐阜』vol. 143 (2025. 3)
- ・西尾円「開催報告「棚橋源太郎の生まれた街を歩く」『岐阜の博物館』No. 195 (2024. 9. 30)、岐阜県博物館協会
- ・藤島夢花「太田宿」など『中山道と本陣ー本庄宿と太田宿ー』(2024. 10)、本庄早稲田の杜ミュージアム
- ・藤島夢花「第 102 回会員研修会「豊田市博物館 見学会」」『岐阜の博物館』No. 196 (2025. 3)、岐阜県

博物館協会

・藤島夢花「中濃ブロック部会研修会「本陣の品々」ミュージアムトーク」『岐阜の博物館』No. 196 (2025. 3)、岐阜県博物館協会

・岩屋孝志「展示に生かされる近現代行政文書について 企画展「石に刻む―とどめる記録、まじわる思い―」を例として」『濃飛史艸』第 137 号、岐阜県歴史資料保存協会（2024. 9. 25）

【委員】

・可児光生：岐阜県博物館協会会長（2024～）／犬山市史編さん委員専門部会委員（2021～）／博物館新登録制度申請に伴うアドバイザーボード委員（2023. 3～）／愛知県陶磁美術館運営会議委員（2023. 4～）／一宮市博物館運営委員会委員（2023. 4～）、恵那市歴史資料館整備検討委員会委員（2024. 6～）、日本展示学会理事（2014～）

- ・藤村俊：岐阜県博物館協会・ものの部会副部長（2017～）
- ・西尾円：岐阜県博物館協会・こと部会委員（2017～）
- ・岩屋孝志：岐阜県博物館協会・こと部会委員（2023～）
- ・和歌由花：岐阜県博物館協会・ひと部会副部長（2017～）
- ・藤島夢花：岐阜県博物館協会・ひと部会委員（2023～）

□ミュージアムレファレンスの結果

研究、調査などを目的として利用者が求める情報及びそれに関する調査方法などを回答、提供するもの。2024 年度実績は次のとおり。

区分	自然	考古	歴史・民俗	美術	その他	計
件数	6	5	32	3	1	47

□博物館実習

博物館学芸員資格取得科目としての博物館実習を令和6年7月30日（火）～8月3日（土）に実施しました。実習生は、八州学園大学（1名）、名古屋造形大学（1名）、岐阜女子大学（2名）、愛知県立大学（2名）、鶴見大学（1名）、岐阜大学（2名）、岐阜聖徳学園大学（2名）、名城大学（1名）の12名。

日程	時 限	内 容	場 所	形態	備考	担当
7/30 （火）	1	オリエンテーション 館内見学	館内・外			可児 岩屋
	2	博物館の理念と事業	研修室	講義	文化の森の理念と事業	可児
	3	展覧会の企画と運営①	研修室、企 画展示室	実習・講義	企画展の準備～開催（調査研究 含む）	藤島
	4	市民活動と博物館	研修室	講義	顕彰会や声のドラマの会の活動 のこと	渡邊 （峻）
7/31 （水）	1	博物館資料の取り扱い①	館内	実習	歴史分野	岩屋
	2					
	3	博物館と広報	研修室	講義	博物館事業の広報活動について	渡邊 （峻）
	4	子どもたちと博物館①	研修室	講義	博物館を活用しての学習活動	西尾
8/1 （木）	1	子どもたちと博物館②	研修室	講義	休日の子どもの向け講座	西尾 榊間
	2					
	3	博物館資料の取り扱い②	研修室ほか	講義・実習	考古資料の取扱と講座準備	藤村
	4					
8/2 （金）	1	博物館資料の取り扱い③	まゆの家	講義・実習	民俗分野 「夏を染める」講座準備	藤島
	2					
	3	博物館資料の取り扱い④	研修室ほか	講義・実習	自然史分野の標本を用いた実習	西尾
	4					
8/3 （土）	1	行政としての博物館	会議室	講義	公立博物館の理念とビジョン	長谷川 （壮）
	2	博物館資料の取り扱い⑤	展示棟学芸 員室前	実習・講義	収蔵資料の保存、IPM、利用者の 安全とリスク	和歌
	3	展覧会の企画と運営②	会議室	講義	企画展の準備から開催（調査研 究含む）展覧会アンケート等	和歌
	4	まとめ	会議室	講義	実習期間を通しての振り返り	西尾

□刊行物等

名 称	価 格	発行年月	判型	頁数
みのかもの山 望む山	¥300	2024 年 5 月	A4	12
新収蔵記念 本陣の品々	¥200	2024 年 7 月	A4	8
未来に繋ぐみのかもの 70 年 概要版	¥500	2024 年 12 月	A4	40
未来に繋ぐみのかもの 70 年 資料版	¥3,000	2025 年 2 月	A4	192
「芸術と自然」美濃加茂市民ミュージアムの現代美術レジデンスプログラムを振り返る	¥500	2025 年 2 月	A4	26
地方文化のつくりびと—詩人・長尾和男と若葉文藝（第二版）	¥500	2025 年 3 月	B5	48
美濃加茂市民ミュージアム紀要第 24 集	¥500	2025 年 3 月	A4	116
活用の手引き・活用実践集 2024 年度版	—	2025 年 3 月	A4	147

□収蔵資料の公開と活用

① 文化の森収蔵資料のホームページにおける公開状況

（単位：件）

	歴史	民俗	図書	美術	歴史写真	広報写真	植物	動物	考古	合計
2024 年度	21,215	7,576	31,400	2,283	1,568	1,518	5,237	4,884	3,677	78,381
2023 年度	21,121	7,457	31,110	2,004	1,568	516	5,237	4,856	3,677	77,546
比 較	94	119	290	279	0	1,002	0	28	0	835

② 収蔵資料の貸し出し、閲覧状況

	自然史	考古	歴史	民俗	美術	写真	図書	その他	合計
件数	3	1	7	3	0	3	2	3	22
点数	3	229	44	4	0	46	2	9	337

<利用件数の内訳>

利用形態	閲覧	複写・撮影	貸出	データ使用	合計
	1	5	8	5	19

利用目的	調査研究	展示	掲載・放映	その他	合計
	9	5	3	2	19

利用者区分	市内	県内	県外	合計
	6	3	10	19

□連携

○各地区まちづくり協議会

行政と地域との協働を目的に、地域の特性を活かして市内各地区で設立されている「まちづくり協議会」と連携し、同協議会が行う展示のサポートや現地ツアー等の講師を学芸員が行いました。

○埼玉県本庄市

美濃加茂市と文化交流協定を結ぶ早稲田大学の本庄キャンパスがある埼玉県本庄市と連携し、企画展「新収蔵記念 本陣の品々」を開催しました。また、この連携を機に、美濃加茂市と本庄市は後日「災害時相互応援に関する協定」を締結しました。

(單位：件)

	新 聞	雑誌等	テレビ	ラジオ	その他	合計
展覧会	24	61	1	1	13	100
講座	3	13	1	0	8	25
イベント	9	9	2	0	5	25
その他	11	24	1	0	2	38
合計	47	107	5	1	28	188

☐ミュージアムニュースによる情報提供[illegible][illegible][illegible]

森を暮らし、はじまる森...

MUSEUM NEWS

みのかも文化の森
vol.117

2025年3月25日発行

森が大切にしているもの

春を告げる木の芽はあちこち見られ、雪もほとんどなくなり、春の訪れが感じられる。雪がとけ、土が乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。雪がとけ、土が乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。

Bunkanomori Special exhibition !

みのかも 地域文化資源のある 暮らし

（北海道庁文化庁文化財活用推進計画に賛同）

北海道庁文化庁文化財活用推進計画に賛同

● 会 期 2025.4/19日 - 5/25日
● 会 場 北海道庁文化庁文化財活用推進計画に賛同

● 入 場 料 一般 500円（小学生以下 300円）
● 観 覧 料 一般 500円（小学生以下 300円）
● 観 覧 料 一般 500円（小学生以下 300円）

春から2025年4月19日～5月25日、北海道庁文化庁文化財活用推進計画に賛同。春から2025年4月19日～5月25日、北海道庁文化庁文化財活用推進計画に賛同。

春から2025年4月19日～5月25日、北海道庁文化庁文化財活用推進計画に賛同。春から2025年4月19日～5月25日、北海道庁文化庁文化財活用推進計画に賛同。

● 日 時	● 会 場	● 内 容
3月17日(土) 13:30-15:00 (受付 13:00～)	開館祭	春の訪れを告げる木の芽、雪の溶け、土の乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。雪がとけ、土が乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。
3月17日(土) 13:30-15:00 (受付 13:00～)	開館祭	春の訪れを告げる木の芽、雪の溶け、土の乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。雪がとけ、土が乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。
5月11日(日) 13:00-16:00	奉納公演 アンサンブルコンサート	春の訪れを告げる木の芽、雪の溶け、土の乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。雪がとけ、土が乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。
5月18日(日) 13:00-16:00	開館祭	春の訪れを告げる木の芽、雪の溶け、土の乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。雪がとけ、土が乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。
5月24日(土) 14:00-15:30	奉納祭	春の訪れを告げる木の芽、雪の溶け、土の乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。雪がとけ、土が乾き、木々が芽を吹き出し、春の訪れが感じられる。

施設の利用状況

文化の森施設の利用状況

□文化の森利用者数

(単位：人)

	常設展	企画展	学校活用	講座 イベント等	市民活動	貸館	教育 センター等	視察	その他	合計
4 月	774	1,123	108	346	99	1,010	122	0	358	3,940
5 月	1,159	795	564	160	170	1,259	131	0	424	4,662
6 月	1,294	0	674	132	16	1,941	202	0	426	4,685
7 月	1,097	897	145	163	73	1,379	279	4	404	4,441
8 月	1,190	984	0	210	176	1,253	140	0	395	4,348
9 月	1,474	937	357	125	52	2,664	176	0	579	6,364
10 月	1,093	768	1,035	911	51	6,805	237	0	1,090	11,990
11 月	1,348	453	887	622	19	1,458	164	5	496	5,452
12 月	1,477	530	460	176	19	3,474	147	0	628	6,911
1 月	1,052	760	511	68	28	1,850	158	0	443	4,870
2 月	1,093	713	633	93	20	1,221	215	27	402	4,417
3 月	934	895	43	84	26	746	152	0	288	3,168
合計	13,985	8,855	5,417	3,090	749	25,060	2,123	36	5,932	65,247
前年度	15,568	8,650	5,318	2,246	749	20,721	2,286	55	5,561	61,154

□市民の展示活動等

(単位：人)

番号	名称	団 体 名	日 付	会 場	入場者
1	美濃加茂市美術連盟展	美濃加茂市美術連盟	6 月 9 日 ～ 6 月 16 日	市民ギャラリー	788
2	絵歩里サークル作品展	絵歩里サークル	6 月 18 日 ～ 6 月 23 日	市民ギャラリー	404
3	牧水会作品展	牧水会	6 月 25 日 ～ 6 月 30 日	市民ギャラリー	226
4	銅版画サークルブリッツ作品展	銅版画サークルブリッツ	6 月 25 日 ～ 6 月 30 日	市民ギャラリー	245
5	美濃加茂市健寿連合会作品展	美濃加茂市健寿連合会	1 月 28 日 ～ 2 月 2 日	展示ホール	不明

□旧太田脇本陣隠居家見学者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2024 年度	967	559	394	227	277	450	691	603	332	278	396	574	5,748
2023 年度	415	564	435	277	335	349	778	526	260	246	598	539	5,322
前年度比較	552	△5	△41	△50	△58	101	△87	77	72	32	△202	35	426

□津田左右吉博士記念館利用者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2024 年度	23	25	34	16	14	24	25	24	19	40	25	55	324
2023 年度	28	31	30	42	8	32	29	27	28	52	30	60	397
前年度比較	△5	△6	4	△26	6	△8	△4	△3	△9	△12	△5	△5	△73

組織・構成・その他

□ 職員

みのかも文化の森所長 1人（兼務：美濃加茂市市民協働部文化振興課長）
美濃加茂市民ミュージアム館長 1人
総務係 3人
学芸学習係 15人

計 20 人（正規職員 7 人、会計年度任用職員 13 人） 内学芸員有資格者 6 人

□ 各種委員

- ・みのかも文化の森運営協議会 8人
- ・市民ミュージアム専門委員 5人
- ・文化の森活用委員会 14人

□ ボランティア活動（複数登録しているボランティアは、代表分野に登録者数としてカウント）

分 野	登録者数	主 な 活 動 内 容
展示・資料ボランティア	23 人	地域の調査・ミニ展示、収蔵資料の整理などを行う
アートボランティア	21 人	美術系の展覧会関連企画や講座のサポートなどを行う
生活体験ボランティア	33 人	生活体験館で昔の遊びや暮らし体験などを行う
学習支援ボランティア	15 人	学校活用での子どもたちの指導や支援などを行う
伝承料理ボランティア	46 人	四季を食べる講座の開催や伝統的な食べ物の記録などを行う
イベント・森ボランティア	31 人	イベントのサポート、森の整備などの環境活動を行う
合 計	169 人	

□ かるちすとくらぶ

みのかも「かるちすとくらぶ」は、みのかも文化の森（美濃加茂市民ミュージアム）と美濃加茂市文化会館「かも〜る」の共通の友の会。

会費 1, 200 円

会員 2024 年 3 月時点 23 名

特典

- ・美濃加茂市民ミュージアム全ての企画展観覧料が無料
- ・美濃加茂市民ミュージアム企画展の事前内覧会にご招待
- ・会員限定の展覧会プレミアムトーク・バックヤードツアー等への参加
- ・みのかも文化の森喫茶室のドリンク券をプレゼント
- ・スタンプカードのスタンプが 6 個たまったら、ドリンク券をもう 1 枚サービス
- ・文化会館の自主事業入場料の割引（1 割程度）、指定席券先行予約
- ・「ミュージアムニュース」、「かも〜る通信」の送付（年 4 回）

□ 市民団体の活動

【坪内逍遙博士顕彰会】

美濃加茂市出身で明治・大正・昭和時代の文壇の巨匠・坪内逍遙（つぼうちしょうよう：1859-1935）の遺徳と業績、郷土文化の発展に寄与することを目的とし、昭和 31 年（1956）に発足しました。

主な顕彰活動としては、逍遙の生誕日や命日前後に記念事業として「生誕祭」や「しのぶ会」を開催しているほか、逍遙顕彰碑がある逍遙公園の清掃活動や、坪内逍遙に関連する演劇等の上演協力などを行っています。

【津田左右吉博士顕彰会】

左右吉が生まれた下米田地区の有志によって、昭和 59 年 2 月に発足した会です。津田左右吉生家協に「津田左右吉博士生誕之地」記念碑の建立をはじめ、市立中央図書館前に「知の積層」記念碑建立、下米田小学校への「津田博士胸像」建立など、津田左右吉博士の顕彰活動を行っています。

また、毎年子どもたちの「ゆめ」をテーマとした「津田左右吉賞作文コンクール」を小中学生に対して行っています。

【美濃加茂自然史研究会】

この地域の鉱物・岩石、植物、哺乳類・鳥類・昆虫などの動物等、自然界にかかわる事柄について調査研究するために集まったメンバーで構成されています。最近では、自然環境接点として特徴あるエリアである美濃加茂市と周辺加茂郡の自然環境や動植物の生態に関して美濃加茂市から委託を受けて調査を行い、冊子『守りたい加茂の自然』としてまとめ、引き続き調査を行っています。

【みのかも「声のドラマ」の会】

美濃加茂は「朗読」を一つの芸術として位置付けた坪内逍遙の生誕地です。「正しい日本語」「美しい日本語」を学び、朗読を通し地域の文化の発展につながっていくことを目指して、1999 年に発足した会です。例年、みのかも文化の森を会場に朗読講座を開催、その受講生の発表の場としての「朗読フェスティバル」を行っています。そのほか、毎月第 3 土曜日の午後、定期的に「森の朗読会」を開催しています。また、展覧会の関連事業で朗読を実施したり、来館する小学生の国語の授業などにおいても指導を行ったりしています。

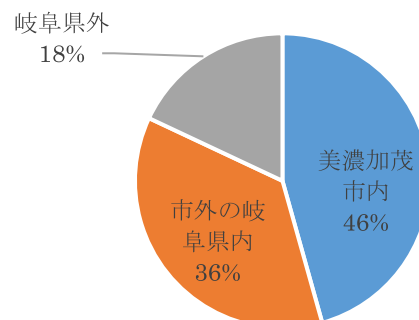
2017 年度から、地域のコミュニティ FM 局「FM らら」にて朗読番組を担当しており、地域ゆかりの作家の作品や広報紙の連載などを会員が分担して朗読しています。なお、過去の放送分の一部は YouTube でも配信しました。

森のアンケート 集計

この集計は「新収蔵記念 本陣の品々 展」、「市制施行 70 周年記念 みのかもで収蔵している資料たち展」、「美濃加茂市制 70 周年記念展 未来に繋ぐみのもの 70 年」、「芸術と自然－美濃加茂市民ミュージアムの現代美術レジデンスプログラムを振り返る－」、「収蔵品展 蚕とまゆ展」、「ていねいな暮らしと道具展 言い伝えのお話と道具」の来場者によるアンケート結果をまとめたものです。

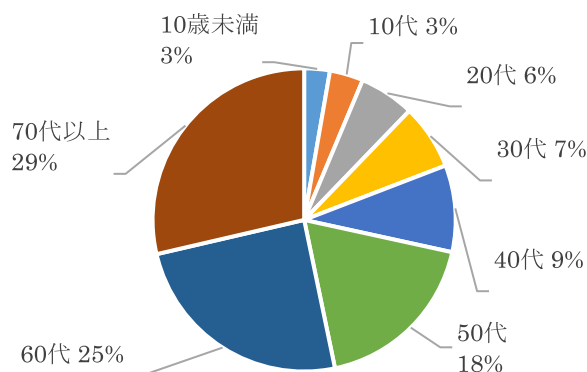
どちらからお越しですか？（人）

美濃加茂市内	147
市外の岐阜県内	117
岐阜県外	58
計	322



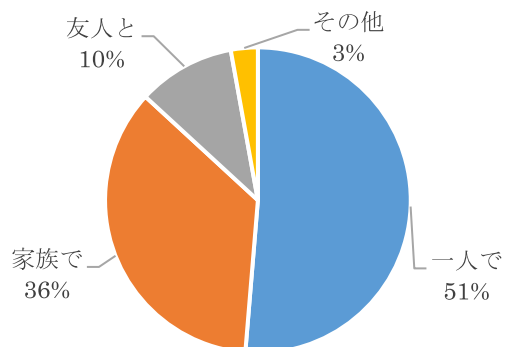
あなたの年齢は？（人）

10 歳未満	20
10 代	13
20 代	24
30 代	20
40 代	32
50 代	50
60 代	74
70 代以上	119
計	352



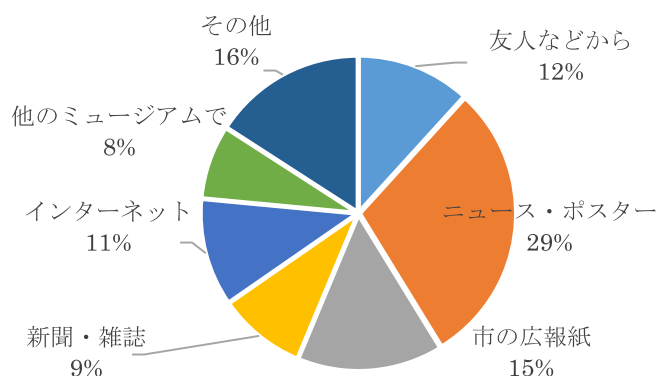
どなたとご来館されましたか？（人）

一人で	147
家族で	125
友人と	43
その他	8
計	323



企画展を何でお知りになりましたか？（人）

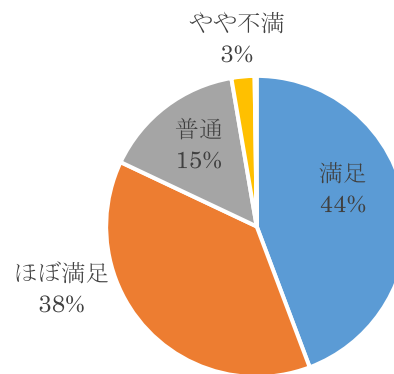
友人などから	54
文化の森のニュース、ポスター	86
市の広報紙	54
新聞・雑誌	23
インターネット	48
他のミュージアムで	23
その他	80
（複数回答あり）	計 368



展示の資料・作品の見やすさに（配置、明るさ、空間など）のご満足いただけましたか？

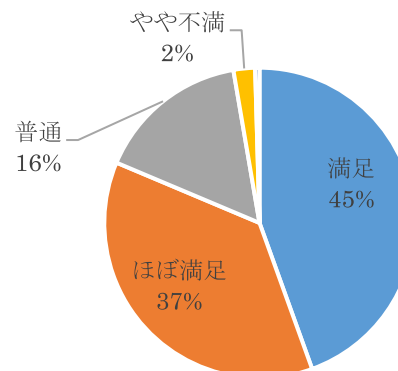
（人）

満足	156
ほぼ満足	122
普通	37
やや不満	4
不満	0
計	319



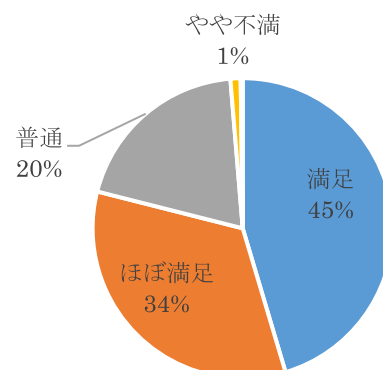
展示の資料・作品のわかりやすさ（解説、説明、パネルなど）にご満足いただけましたか？（人）

満足	141
ほぼ満足	133
普通	39
やや不満	2
不満	1
計	316



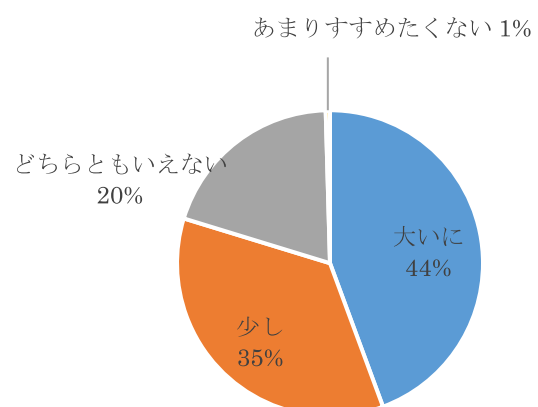
資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られましたか？（人）

満足	147
ほぼ満足	123
普通	45
やや不満	4
不満	1
計	320



この展示を他の人に伝え、来館を勧めたいと思いますか？（人）

大いに	182
少し	97
どちらともいえない	35
あまりすすめたくない	0
ない	1
計	315



施設概要・利用案内

□施設概要

名 称：みのかも文化の森

所 在 地：美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 番地 1

森の面積：約 9 ヘクタール

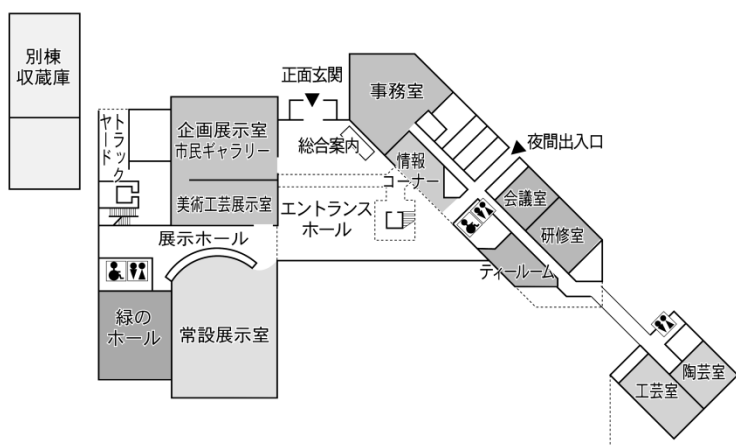
建築概要：本体施設 「ミュージアム」と「教育センター」との複合施設
R C造、一部鉄骨・木造、地上 3 階、地下 1 階建
常設展示室 (451.71 m²)、美術工芸展示室 (150.08 m²)
市民ギャラリー (204.00 m²)

延床面積 5,879.21 m²

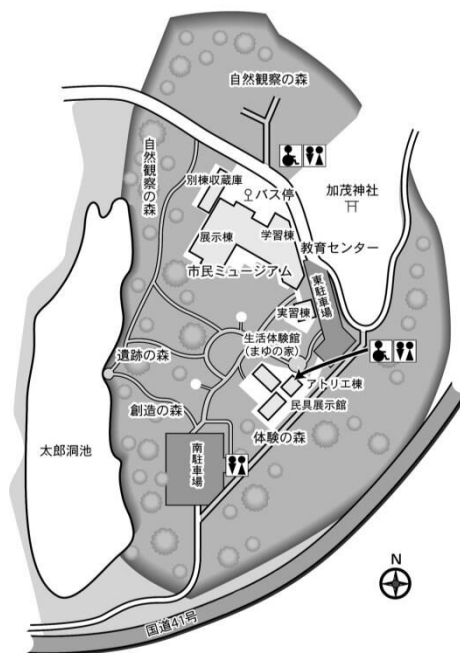
付帯施設 生活体験館 (211 m²)、民具展示館 (201 m²)、アトリエ棟 (158 m²)
屋外トイレ…2 カ所 休憩小屋…2 カ所

駐 車 場 169 台 (南駐車場 110 台、東駐車場 54 台、北駐車場 5 台)

■本館平面図



■フィールドマップ



開館時間 市民ミュージアムの開館時間 午前 9 時～午後 5 時

休 館 日 月曜日 (ただし、祝日の場合は開館し直後の平日が休館日となります)
年末年始 (12 月 29 日から翌年 1 月 3 日)

交 通 あい愛バス JR 美濃太田駅北口から約 7 分
3 公園連絡線 (平日および土・日・祝=1 日 8 便)
(12 月 31 日～1 月 2 日は運休します)
鉄 道 JR 名古屋駅から美濃太田駅まで特急で約 40 分
美濃太田駅北口から徒歩約 17 分
自 動 車 東海環状自動車道美濃加茂 I C から約 5 分
名神高速小牧 I C から約 35 分

□施設の使用時間及び使用申請の受付

- ・使用時間は、午前 8 時 30 分から午後 10 時までです。（一部施設を除きます）
- ・使用申請の受付は、使用される 3 ヶ月前にかかる月の初日から 3 日前までにお申し込みください。ただし、市民ギャラリー、エントランスホール、展示ホールについては、使用される 6 ヶ月前にかかる月の初日から 15 日前までに、緑のホールについては、使用される 6 ヶ月前にかかる月の初日から 3 日前までにお申し込みください。
- ・受付時間は、午前 8 時 30 分から午後 5 時までです。ただし、休館日は受付いたしません。

□施設使用料

(1) 研修室等

施設 \ 使用時間	8:30 ～12:30	13:00 ～17:00	17:30 ～22:00	8:30 ～22:00	延長 1 時間につき
研 修 室	2,400 円	2,400 円	2,600 円	7,400 円	800 円
会 議 室	1,200 円	1,200 円	1,400 円	3,800 円	400 円
工 芸 室	2,000 円	2,000 円	2,200 円	6,200 円	600 円
陶 芸 室	1,200 円	1,200 円	1,400 円	3,800 円	400 円
緑 の ホール	5,400 円	5,400 円	6,200 円	17,000 円	1,600 円

※令和 3 年 11 月 26 日から「地域・防災情報室」に模様替えしたため、施設使用（貸館）を廃止。

(2) 市民ギャラリー等

施 設	使 用 単 位	基 本 使 用 1 日 (8:30～17:00)	基本使用以外 1 時間につき
市 民 ギ ャ ラ リー	全面～100 m ² 超	12,000 円	1,600 円
	100 m ² 以下～50 m ² 超	5,800 円	800 円
	50 m ² 以下	2,800 円	400 円
エントランスホール	全面～200 m ² 超	17,000 円	2,200 円
	200 m ² 以下～100 m ² 超	11,000 円	1,600 円
	100 m ² 以下	5,800 円	800 円
展 示 ホール	全面～80 m ² 超	9,000 円	1,200 円
	80 m ² 以下	4,600 円	600 円

(3) 宿泊アトリエ棟等

施設 \ 使用時間	8:30 ～12:30	13:00 ～17:00	17:30 ～22:00	8:30 ～22:00	延 長 1 時間につき
アトリエ棟 2 階（アトリエ）	1,000 円	1,000 円	1,200 円	3,200 円	400 円
アトリエ棟 2 階（全室）※	2,200 円	2,200 円	2,600 円	7,000 円	600 円
アトリエ棟 調理室	800 円	800 円	1,000 円	2,600 円	400 円
生活体験館（全面）	2,200 円	2,200 円	2,600 円	7,000 円	600 円
生活体験館（部分使用）	1,200 円	1,200 円	1,400 円	3,800 円	400 円

※ アトリエ棟 2 階を午後 10 時から午前 8 時 30 分まで使用する場合は、3,600 円が加算されます。

※ 使用者が使用するに当たり、参加者から入場料等を 1 人につき、500 円を超える金額を徴収する場合は、本表に定める額の 100%に相当する額を加算してお支払いいただきます。また、自らの営利につながる内容で施設を使用する場合においても、本表に定める額の 100%に相当する額を加算してお支払いいただきます。

※付属設備、及び、備品の使用料は、別途お支払いいただきます。

みのかも文化の森のこれまで

1983 年 3 月	美濃加茂市郷土資料館建設基金条例の制定。	1998 年 10 月	「ミュージアム自由自在」講座開催。(3 回、～11 月)
1986 年 8 月	美濃加茂市史料調査協力員 (10 名) を設置。	1999 年 1 月	ホームページ上に、「今週の文化の森」として、工事の進捗状況、準備状況を報告、公開。
1988 年 8 月	(仮称)美濃加茂市郷土資料館建設調査委員会(17 名)を設置。	1999 年 1 月	市職員による「文化の森運営検討ワーキング」開催。(2 回)
1989 年 3 月	第 3 次総合計画において「文化の森」「郷土資料館」の建設が位置づけられる。	1999 年 1 月	美濃加茂市自然史研究会が発足。自然調査活動をすすめる。
1989 年 3 月	美濃加茂市美術品等収集基金条例の制定。	1999 年 3 月	(仮)文化の森付帯施設工事実施設計。
1989 年 8 月	(仮)美濃加茂市郷土資料館基本構想の提言(調査委員会を合計 8 回開催理念、目的、性格のほか立地場所、名称などについて提言を受ける。以後専門委員会において具体的検討を進める。)	1999 年 3 月	リーフレット「文化の森もうすぐまれます」発行。
1989 年 8 月	(仮)文化の森予定地域の植生調査。(1 次)	1999 年 3 月	『みのかも文化の森活用の手引き』第 1 集発行。
1990 年 3 月	(仮)文化の森整備基本構想を策定。(セントラルコンサルタント(株))	1999 年 8 月	(仮)文化の森付帯施設工事着工。
1990 年 4 月	社会教育課に博物館建設係を設置。	2000 年 3 月	設置管理条例(名称を「みのかも文化の森」「美濃加茂市民ミュージアム」「美濃加茂市教育センター」とする。)制定。
1990 年 5 月	(仮)文化の森構想の地元説明会開催。	2000 年 3 月	工事完了。(本体建築、電気、管空調、展示、付帯施設)
1991 年 3 月	郷土博物館展示基本計画を策定(専門委員会を合計 15 回開催。ほか随時専門委員の指導を得る。(株)日展)	2000 年 3 月	『みのかも文化の森活用の手引き』第 2 集発行
1991 年 7 月	空中写真測量実施。	2000 年 5 月	文化の森ボランティアを募集。
1992 年 3 月	(仮)文化の森基本計画策定。	2000 年 9 月	コンピュータ機器の設置。
1992 年 4 月	中央公民館内に美濃加茂市教育センターを開設。	2000 年 10 月	竣工式およびオープニングイベント。
1992 年 9 月	地権者との間で「土地賃貸借契約」「物件移転補償契約」を締結。		美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅰ「芸術と自然ー若林奮・大久保英治・山口啓介 美濃加茂自然環境会議 2000」を開催。
1992 年 10 月	(仮)文化の森予定地の埋蔵文化財試掘調査。(～11 月(北部を除き、ほぼ全域で遺物包含層を確認))		野外劇「真夏の夜の夢」(シェイクスピア作、坪内逍遙訳)を上演。
1992 年 10 月	(仮)文化の森予定地の樹木調査。(樹種と分布状況を調査)	2000 年 11 月	市民参加の演劇を以降毎年開催。
1993 年 3 月	(仮)文化の森(全体)基本設計。		第 1 回「まゆの家まつり」を、文化の森のボランティアが実行委員会を結成して開催。以降毎年開催。
1993 年 12 月	(仮)文化の森予定地域の植生調査。(2 次)	2000 年 11 月	第 45 回美濃加茂市美術展を開催。
1994 年 3 月	(仮)文化の森(全体)実施設計。	2001 年 2 月	美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅳ「親子の対話 岡本一平・岡本太郎展」を開催。
1994 年 4 月	埋蔵文化財(尾崎遺跡)発掘調査開始。	2001 年 4 月	第 1 回「春・朗読の一日」が市民による実行委員会により開催される。以降毎年開催。
1994 年 11 月	博物館・教育センターの複合施設計画の立案。	2001 年 5 月	第 1 回森のコンサート「ホルン五重奏」を開催。以降毎年数回、森のコンサートを開催。
1995 年 4 月	「文化課」が新設され、文化の森準備が充実する。	2001 年 9 月	「文字の登場、そして広まりー古代中世のひとと文字をめぐるー展」を開催。
1995 年 6 月	(仮)文化の森自然環境影響評価調査(平成 6 年 7 月～)(植生、動物、景観、文化財、水質他)	2001 年 11 月	第 46 回美濃加茂市美術展を開催。
1995 年 8 月	第 8 回彫刻シンポジウムを文化の森内で開催。現地制作を行い、1 基を仮設置する。以後、3 基設置する。	2001 年 12 月	第 1 回アートボランティアビデオ上映会「議事堂を梱包する」が開催される。以降ゴールデンアート劇場として毎年開催。
1996 年 3 月	博物館・教育センター複合施設((仮)「文化の森プラザ」)設計の予算化。	2002 年 1 月	生活体験館東に体験工房(染色)が完成する。
1996 年 4 月	博物館部門別展示検討委員会開催、以後 7 回開催。(自然史、考古、歴史民俗、美術工芸)	2002 年 2 月	「暮ラシカル道具展」02 を開催。以降毎年開催。
1996 年 6 月	文化の森構想教育センター部会開催。(以後 8 回開催)	2002 年 2 月	「川崎小虎展～暖かみあふれる自然の詩情～」を開催。
1996 年 7 月	(仮)文化の森整備検討委員会(13 名)開催。(以後 3 回開催)。(市として「施設の位置づけ」「森の学校」などを提示し、それを受け具体的検討をすすめる。)	2002 年 3 月	『美濃加茂市民ミュージアム紀要』第 1 集を発行。以降、毎年発行。
1996 年 11 月	(仮)文化の森市民懇話会の開催。(以後、市長と語る会を含め 4 回開催)	2002 年 4 月	従来まで文化の森所管であった美濃加茂市教育センターが学校教育課所管となる。
1996 年 12 月	(仮)文化の森プラザ地質調査。	2002 年 6 月	「気持ちの宝物 椎名誠写真展」を開催。
1997 年 3 月	(仮)文化の森プラザ建築基本設計。	2002 年 6 月	「蚕とまゆ展」02 が開催される。以降毎年開催。
1997 年 3 月	(仮)文化の森プラザ展示基本設計。(株式会社日展名古屋支店)	2002 年 7 月	「発掘された尾崎遺跡ーこの地に人が残したもののー展」を開催。
1997 年 7 月	(仮)文化の森ニュース第 1 号発行。(10 号まで、平成 11 年 11 月)	2002 年 9 月	「ミノ」「カモ」の古代ー御野国戸籍から 1300 年ー展」を開催。
1997 年 10 月	「市民のための博物館」講座開催。(4 回、～11 月)	2002 年 9 月	「太田三郎展」を開催。
1998 年 3 月	(仮)文化の森プラザ実施設計。	2002 年 10 月	常設展示室の入場者が 10 万人を超える。
1998 年 5 月	(仮)文化の森ボランティアが発足、会員 11 名で、主に歴史民俗の資料調査に活動をはじめる。	2002 年 11 月	伝承料理の会により『おばあちゃんちのおかって』(第 1 集)を発刊。
1998 年 6 月	(仮)文化の森プラザ新築工事契約。	2002 年 11 月	第 47 回美濃加茂市美術展を開催。
1998 年 7 月	(仮)文化の森プラザ起工式。(7 月 15 日)	2003 年 12 月	好評につき『おばあちゃんちのおかって』第 2 集を発刊。
1998 年 9 月	(仮)文化の森プラザ展示工事契約。	2003 年 2 月	「色と形と冒険ー坂井範一とゆかりの作家展」を開催。

2003 年 4 月	「土に残る記憶Ⅰー旧石器と縄文ー展」を開催。	2010 年 4 月	「水辺の時間 内山りゅう写真展」を開催。
2003 年 7 月	「美濃加茂にサイヤソウがいた頃展」を開催。	2010 年 7 月	「川のほとりでー木曾川流域の考古と歴史からー展」を開催。
2003 年 11 月	第 48 回美濃加茂市美術展を開催。		
2004 年 2 月	「津田左右吉ーその人と時代ー展」を開催。	2010 年 9 月	「みえないように 川井昭夫展」を開催。
2004 年 6 月	博物館法に基づく「登録博物館」に認定される。	2010 年 11 月	第 55 回美濃加茂市美術展を開催。
2004 年 7 月	「まちの観察日記展」を開催	2010 年 12 月	「美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業 共催展 「美濃の白隠」展」を開催。
2004 年 10 月	「博学連携フォーラム」(市制 50 周年記念事業)を開催。以降、「博学連携フォーラム」として毎年開催。	2011 年 2 月	「My Space and My Dimension・1960-2010 船坂芳助 版画展」を開催。
2004 年 11 月	「写真で見る美濃加茂市 50 年」(市制 50 周年記念事業)が刊行される。	2011 年 4 月	「ある日の情景、緑と子どもたち 名古屋画廊コレクションから」を開催。
2004 年 11 月	第 49 回美濃加茂市美術展を開催。	2011 年 7 月	「おどろき はっけん みのかもの自然展」を開催。
2005 年 2 月	「情熱の人・坪内逍遙展」(市制 50 周年記念事業)開催。	2011 年 9 月	「景観の彫刻ー庭ー 笹谷晃生展」を開催。
2005 年 7 月	「のこってほしいもの・のこしたいもの 今森光彦 里山物語展」を開催。	2011 年 11 月	第 56 回美濃加茂市美術展を開催。
2005 年 9 月	「素材への思いー力と可能性ー展」を開催。	2011 年 12 月	「美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業 共催 「没後 50 年 津田左右吉展」を開催。
2005 年 10 月	サークル等による「フリーマーケット」の開催。以降、毎年開催。	2011 年 12 月	「中山尚子展 2002-2011」を開催。あわせて中山尚子デザインのクリスマス菓子をショップで販売。以後継続。
2005 年 11 月	第 50 回美濃加茂市美術展を開催。	2012 年 2 月	「自然線人工線 眞板雅文展」を開催。
2005 年 12 月	「栗田宏一 足もとの土展」を開催。	2012 年 4 月	「高橋余一『生活絵巻』展 - 暮らしのありかを思い出す -」を開催。
2006 年 2 月	「廻国・円空ー加茂をとおりてー展」を開催。	2012 年 7 月	「あそぶ展 - 夢中になってあそぶ子どもの姿 -」を開催。
2006 年 7 月	「生きる・くらす 鳥と人展」を開催。	2012 年 9 月	「みづえ 押江千衣子展」を開催。
2006 年 7 月	子どもわくわくプログラム(「文化の森たんけんたい」「ふらっとみゅーじあむ」「フォレストくらぶ」など)を開催。以降、毎年開催。	2012 年 11 月	第 57 回美濃加茂市美術展を開催。
2006 年 9 月	「篠原猛史 Biotope Shelter ビオトープの場展」を開催。	2012 年 12 月	「みのかも定住自立圏 加茂の古代風景展 - 美濃加茂・坂祝・富加-展」を開催。
2006 年 10 月	展示ガイドボランティア企画展示 ちいさな展覧会「円空」を開催。以降、毎年展示ボランティア企画の展示を開催。	2012 年 12 月	「大嶽有一展」を開催。
2006 年 11 月	第 51 回美濃加茂市美術展を開催。	2013 年 2 月	美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業「岡本一平展-世態人情を描く-」を開催。
2006 年 12 月	「いつもそばにカメラがあった展」を開催。	2013 年 4 月	「堀江良一展 版画・油彩」を開催。
2007 年 2 月	「花をみる 鳥を描く 大矢峻嶺展」を開催。	2013 年 6 月	「渡辺泰幸展」を開催。太田宿界隈で行われる「きそがわ日和」のアートイベント「森の音・川の音」に連携。
2007 年 7 月	「美・粒子展 酒向絵美+渡邊太一郎」を開催。	2013 年 7 月	「鉱物と化石 などと美しさ展」を開催。連携企画として「bee cafe」が 3 種のジオ菓子を販売。以後展覧会にあわせたメニューを考案。
2007 年 9 月	「Critical Point 50≒0 小島久弥展」を開催。	2013 年 8 月	『おばあちゃんちのおかって 番外編 漬物特集』を発刊。
2007 年 11 月	第 52 回美濃加茂市美術展を開催。	2013 年 9 月	「眠りにつくまで 平川祐樹展」を開催。
2007 年 12 月	「逍遙とシェイクスピア〜世界はすべて劇場である〜展」を開催。	2013 年 10 月	第 10 回目の博学連携フォーラムを開催。テーマ「博物館と子ども、ふたつをつなぐ「人」。
2008 年 2 月	「岐阜県二人展 松本竣介・麻生三郎」を開催。	2013 年 11 月	第 58 回美濃加茂市美術展を開催。
2008 年 4 月	「土に残る記憶Ⅵー中世びとの世界ー展」を開催。	2013 年 12 月	「けふ 野辺をあるきて 佐野一彦の「伊深日記」展」を開催。
2008 年 6 月	「穂苅三寿雄・貞雄写真展」を開催。	2014 年 1 月	地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞。
2008 年 7 月	「暮らしを彩る明治の「刷り物」展 〜半原版画館コレクションから〜」を開催。		美濃加茂市新成人を対象に「二十歳へのアンケート」として、文化の森の思い出や現況について調査を実施。以後継続。
2008 年 8 月	「子どもわくわく文化の森展」を開催。	2014 年 2 月	「みのかも定住自立圏 加茂の遺跡探訪展」を開催。美濃加茂市と加茂郡が締結している定住自立圏事業の一環として位置づける。関連事業としてミュージアムフォーラム「文化遺産と市民その関わり合いを考える」を開催。
2008 年 9 月	「図鑑庭園 The Garden of the Name 渡辺英司展」を開催。	2014 年 4 月	「里山のオカイコサマ 美濃加茂の養蚕展」を開催。
2008 年 11 月	第 53 回美濃加茂市美術展を開催。	2014 年 6 月	「特集 安藤真司展」を開催。
2008 年 12 月	「蜂屋柿 その歴史と人々展」を開催。	2014 年 7 月	「逍遙 思いを伝えた手紙と人 展」および「ひかるもののフシギ展」を開催。
2009 年 2 月	「逍遙と『早稲田文学』展」(美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業)を開催。	2014 年 7 月	「ふらっとみゅーじあむ」支援のための中学生ボランティアを募集。以後継続。
2009 年 2 月	「星野道夫展「星のような物語」ー学校向け写真展ー」を開催。	2014 年 9 月	「世界のつくりかた 大巻伸嗣展」を開催。
2009 年 4 月	「坪内逍遙生誕 150 年記念『山椿花いとなつかしも』展」を開催。	2014 年 9 月	美濃加茂市児童生徒科学作品展・社会科作品展に出展された作品を対象とした「文化の森賞」を創設。以後継続。
2009 年 7 月	「なつやすみ歴史探検ー考古学にふれるー展」を開催。	2014 年 11 月	第 59 回美濃加茂市美術展を開催。
2009 年 9 月	「Calling 木藤純子展」を開催。		
2009 年 11 月	第 54 回美濃加茂市美術展を開催。		
2009 年 12 月	「ていねいな暮らしのあったころ-佐野一彦の撮った伊深の里山-展」を開催。		
2010 年 1 月	「すきなものをすきなように 坂井範一展」を開催。		
2010 年 4 月	組織改革によって教育委員会教育部文化振興課が市長部局市民協働部の所管となる。博物館業務、文化財保護業務等は教育委員会の補助執行業務としておこなう。		

2014 年 11 月	みのかも文化の森学習支援ボランティアが「岐阜県地域子ども支援賞」を受賞。	ークを発表する。
2014 年 12 月	「みのかも定住自立圏 加茂の遺跡展」および「美濃加茂市制 60 周年記念展「1954 年の物語」」を開催。	2020 年 4 月 25 日から予定していた企画展「楽しくなる古文書」展を中止し、開催時期の変更をする。
2015 年 2 月	「「地方」文化のつくりびと 詩人・長尾和男と若葉文藝」を開催。	2020 年 5 月 みのかも文化の森公式 Instagram を始める。
2015 年 4 月	「ラインの風景展 めぐる人々とその歴史」を開催。	2020 年 6 月 2 日から開館。この間「休館中ですが、「やってます」シリーズ」を 9 回にわたり HP 上で紹介する。
2015 年 7 月	「里山 暮らしとともにある自然展」を開催。	2020 年 6 月 開館 20 周年にあたり、「おめでとう！ひとことメッセージ」を募集する。
2015 年 9 月	「皮膚感覚 阿部大介展」を開催。	2020 年 7 月 中止していた学校活用を再開する。
2015 年 10 月	みのかも文化の森 15 周年を迎え、新たなロゴマークを作成、新しいミュージアムグッズを制作し販売開始。	2020 年 7 月 「子どもたちの手紙から見る、戦争と暮らし」展を開催。
2015 年 10 月	15 周年を記念し、ミュージアムフォーラム「地域博物館がこれからめざすところ」、エントランスにおいての展示「ミュージアムニュースにみる文化の森 15 年」、まゆの家の特別行事を開催。みのかも広報 10 月 1 日号に文化の森特集記事掲載。	2020 年 8 月 1 日から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため再び臨時休館する（～8 月 17 日）。
2015 年 11 月	第 60 回美濃加茂市美術展を開催。	2020 年 9 月 「みのかも文化の森 20 年 そして、これから」展を開催。歩みを振り返るポスターやここで学習した小学生からの当時の手紙などを展示。おさんぽツアーなど 10 月にかけ様々な企画を実施する。
2015 年 12 月	「旧石器 遺跡と発見展」を開催。	2020 年 9 月 「林武史 石の記憶、泥の声」展を開催。
2016 年 2 月	「のりづきとしお展」を開催。	2020 年 10 月 20 周年セレモニーを開催。「未来へ」の独唱、フォレストくらぶメンバーが作ったくす玉でお祝いする。市民や関係者のメッセージ、今までのあゆみをまとめた記念誌を作成、配布する。
2016 年 4 月	「おどろきとこだわりのミュージアムグッズ展」を開催。各地のミュージアムや個人から多くの出品。また、ショップにて全国各地のグッズを販売し好評。	2020 年 10 月 常設展示室を「もよう替え」。最近の調査を踏まえて内容を一部更新し、「トッテミデ」など新たなコミュニケーションツールを用意する。関係部分の HP も更新する。
2016 年 7 月	「起点 飛騨街道展」「わくわくを伝えたい 博物館の裏側と『展示』ができるまで展」「ダボ市・美濃加茂市姉妹都市 文化交流企画展 The River 展」を開催。	2020 年 11 月 第 65 回美濃加茂市美術展を開催。
2016 年 9 月	「第 41 回岐阜県移動美術館 ひとをかくひと」開催。	2020 年 12 月 早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業「墨伝う思い 書を通して知る文人 坪内逍遙」展を開催。後半は早稲田大学歴史館へも巡回して展示。
2016 年 11 月	第 61 回美濃加茂市美術展を開催。	2020 年 12 月 「楽しくなる古文書～明智光秀史料を中心に～」展を開催。当初 4 月からの予定であったものを変更。
2016 年 12 月	「モノを蒐(あつ)めるまなざし 早稲田大学會津八一記念博物館蔵のコレクションとともに展」を開催。	2020 年 12 月 16 日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示以外の催事や貸館など利用を制限する。2 度延長し翌年 3 月 7 日まで。
2017 年 2 月	「静かなる森の要請 篠原芳子展」を開催。	2021 年 1 月 ミュージアムニュースが No.100 となる。デザインを部分的に刷新する。
2017 年 3 月	公式ホームページ、芝生の更新。Wi-Fi 運用開始。	2021 年 1 月 新成人が、かつて文化の森で学習していた様子の写真をエントランスホールにおいて展示。
2017 年 4 月	みのかも定住自立圏第 2 次共生ビジョン関連事業「織田信長の東美濃攻略 加茂に生きた武将たち展」「文化の森コレクション展」を開催。	2021 年 2 月 新収藏品展「座馬井邸の書と歌」を開催。
2017 年 7 月	夏の展覧会「このあたりの自然」を開催。	2021 年 4 月 企画展「沙羅双樹の木の下で」を開催
2017 年 9 月	「河村るみ When I am laid in earth ー私が大地に横たわるときー」を開催。	2021 年 7 月 企画展「だいすき、虫！」展を開催
2017 年 11 月	第 62 回美濃加茂市美術展を開催。	2021 年 8 月 21 日から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館する（～9 月 30 日）。開催していた「だいすき、虫！」展や催事をすべて中止する。
2017 年 12 月	「まちのいいもの よいところー山之上ー展」を開催。	2021 年 10 月 臨時休館から開館
2018 年 2 月	早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業 10 周年記念共催展「絵を通して見る坪内逍遙」開催。	2021 年 10 月 企画展「阿曾藍人 Inner Land 内なる大地へ展」を開催。
2018 年 4 月	「使い込むほどに 暮らしの今むかし展」を開催。	2021 年 11 月 第 66 回美濃加茂市美術展を開催。
2018 年 7 月	「ダム - 木曾川・飛騨川 - 展」を開催。	2021 年 11 月 地域・防災情報室がオープンする。
2018 年 9 月	「中村裕太 日本ラインの石、岐阜チョウの道」を開催。	2021 年 12 月 企画展「鉄道のまち」展を開催。
2018 年 11 月	第 63 回美濃加茂市美術展を開催。	2022 年 1 月 新成人が、かつて文化の森で学習していた様子の写真をエントランスホールにおいて展示。
2018 年 12 月	「版画史と「私」 船坂芳助・堀江良一・安藤真司を中心に」を開催。	2022 年 1 月 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 21 日～3 月は学校活用の受け入れを中止。
2019 年 4 月	「瑞林寺 500 年のはるかな旅路展」を開催。	2022 年 1 月 早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業 坪内逍遙大賞受賞記念展「白石加代子と「百物語」の世界」を開催。
2019 年 7 月	「日本の博物館は岐阜から展」を開催。	2022 年 3 月 小学 3 年生の社会科の学習に対応した『みのかものうつりかわり』を作成。
2019 年 9 月	「竹田尚史 質量の泉と重力の霧」開催。	2022 年 3 月 「バス停からの小さな旅展」を開催。2019 年から 3 年間にわたり広報みのかもで連載してきた記事を中心に展示する。
2019 年 11 月	第 64 回美濃加茂市美術展を開催。	2022 年 3 月 文化の森敷地内屋外彫刻の案内看板を新たに設置。
2019 年 12 月	「岐阜大学コレクション展ー岐阜県を知るためにー」を開催。	2022 年 3 月 大規模災害により市役所本庁舎が被災した際の防災機能を代替する施設の一つに文化の森が位置
2019 年 12 月	「特集展示 後藤秀樹 床の間を離れて。」開催。	
2020 年 3 月	3 日から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館する（～6 月 1 日）。予定していた展覧会や催事をすべて中止する。	
2020 年 3 月	市民参加で作成した開館 20 周年記念シンボルマ	

	付けられ、非常用自家発電機が文化の森敷地内に設置される。		
2022 年 4 月	企画展「好奇心の向かうところ、林魁一展」開催	2024 年 10 月	具」を開催。 市制施行 70 周年記念「みのかもで収蔵している資料たち展」を開催。
2022 年 5 月	「みのかも annual 2022」を開催。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため 2020 年度以降GW期間での開催を中止していたが、今回から再開した。	2024 年 10 月	第 18 回「博学連携ミニフォーラム」を開催。
		2024 年 11 月	第 69 回美濃加茂市美術展を開催。
		2024 年 12 月	市制 70 周年記念展「未来に繋ぐ みのかもの 70 年」を開催。HP 上に「美濃加茂市 70 年のあゆみ（年表）」をはじめとする新コンテンツ「美濃加茂のあゆみ」を構築。
2022 年 7 月	企画展「ハコ展～箱膳から「ハコモノ」まで」を開催。	2025 年 2 月	「芸術と自然 美濃加茂市民ミュージアムの現代美術レジデンスプログラムを振り返る」を開催。
2022 年 8 月	「ハコ」展にともない「青空図書館」がエントランスホールで開館する。	2025 年 3 月	資料保管庫を新たに設置。
2022 年 9 月	企画展「船坂芳助 ドローイング・コラージュ展」を開催。		
2022 年 10 月	新しいカフェ「ツナグ」がオープンする。		
2022 年 11 月	美濃加茂伝承料理の会が調査してまとめた郷土料理のレシピ本「おばあちゃんちのおかって」とそのレシピ本のイラストを使って BEAMS JAPAN が監修、デザインしたバンダナをセットにしたふるさと納税返礼品の取り扱いがスタート。バンダナは、ミュージアムグッズとして単品でも販売。		
2022 年 11 月	第 67 回美濃加茂市美術展を開催		
2023 年 1 月	早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業「墨痕に咲くー美濃の禅画の世界 白隠と仙厓とー」を開催。2022 年 11 月には早稲田大学歴史館においても開催。		
2023 年 1 月	岐阜県内で初めて“博物館浴 “をテーマにした『『博物館浴』その効果とこれからを考える研修会』を開催。		
2023 年 1 月	企画展「風景を愛でる 日下部一司展」を開催。		
2023 年 3 月	みのかも文化の森内に「逍遙こみち」が整備され、案内板などが設置される。また日本クアオルト研究所から「逍遙こみちコース」が「クアの道」に認定される。		
2023 年 3 月	美濃加茂伝承料理の会がこれまで取り上げてきた活動の中で「大歳のごっつお（大歳のごちそう）」が「100 年フード」として文化庁により認定、併せて、美濃加茂市民ミュージアムが「食文化ミュージアム」に認定される。		
2023 年 4 月	企画展「子どもの時のおもひで」を読みとく展ー津田左右吉生誕 150 年ー」を開催。		
2023 年 5 月	「みのかも annual 2023 -みちくさのもり-」を開催。		
2023 年 5 月	展示「書かれた「この地」を読む みのかもブックマーク パネル展」を開催。		
2023 年 6 月	文化の森HPデータベース「美濃加茂事典」登録件数 1000 件達成。		
2023 年 7 月	企画展「いつも近くに石・石・石 みのかもの大地と足元の石たち 展」を開催		
2023 年 9 月	早稲田大学・美濃加茂市共催展「生誕 150 年 津田左右吉と藝術一心を寄せた美術・音楽・演劇の世界ー」を開催。2023 年 11 月には早稲田大学歴史館においても開催。		
2023 年 11 月	第 68 回美濃加茂市美術展を開催。		
2024 年 1 月	新成人が、かつて文化の森で学習していた様子の写真をエントランスホールにおいて展示。		
2024 年 1 月	企画展「瀬田哲司展 メダルのはなしー銀の植物と銀色の記憶ー」を開催。		
2024 年 3 月	企画展「石に刻む 展ーとどめる記録、まじわる思いー」を開催。		
2024 年 4 月	収蔵品展「蚕とまゆ展」を開催。		
2024 年 4 月	「みのかも annual2024ーでもそこに自分はいるー」を開催		
2024 年 5 月	広報みのかも連載コラム紹介展「みのかもの山、望む山」を開催。		
2024 年 6 月	特集展示「美濃加茂の美術指導者たち」を開催。		
2024 年 7 月	早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業共催展新収蔵記念 「本陣の品々」を開催。この展示品の一部は 10 月から本庄早稲田の杜ミュージアムで開催の企画展「中山道と本陣ー本庄宿と太田宿」に展示。12 月ワセダギャラリーでのパネル展「中山道と本陣」で美濃加茂・本庄での展示を紹介。		
2024 年 9 月	ていねいな暮らしと道具展「言い伝えのお話と道		

みのかも文化の森 年報 Vol.25 2024 年度

2025（令和 7）年 9 月 1 日

編集・発行 美濃加茂市市民協働部 文化振興課（みのかも文化の森）

〒505-0004

岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1

電話 0574-28-1110

FAX 0574-28-1104

<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

印刷 有限会社 永田印刷

